

## 【別記1】判断基準

1. 定義	1
2. 紙類	1
3. 文具類	5
4. オフィス家具等	15
5. O A 機器	18
5 - 1 コピー機等	18
5 - 2 電子計算機	25
5 - 3 プリンタ等	28
5 - 4 ファクシミリ	32
5 - 5 スキャナ	34
5 - 6 磁気ディスク装置	36
5 - 7 ディスプレイ	38
5 - 8 シュレッダー	40
5 - 9 デジタル印刷機	41
5 - 10 記録用メディア	43
5 - 11 電池	44
5 - 12 電子式卓上計算機	45
5 - 13 カートリッジ等	46
6. 家電製品	50
6 - 1 電気冷蔵庫等	50
6 - 2 テレビジョン受信機	52
6 - 3 電気便座	56
7. エアコンディショナー等	57
7 - 1 エアコンディショナー	57
7 - 2 ガスヒートポンプ式冷暖房機	61
7 - 3 ストープ	62
8. 温水器等	64
8 - 1 電気給湯器	64
8 - 2 ガス温水機器	65
8 - 3 石油温水機器	67
8 - 4 ガス調理機器	69
9. 照明	72
9 - 1 照明器具	72
9 - 2 ランプ	75
10. 自動車等	76
10 - 1 自動車	76
10 - 2 I T S 対応車載器	81
10 - 3 タイヤ	82
10 - 4 エンジン油	83
11. 消火器	84
12. 制服・作業服	85
13. インテリア・寝装寝具	86
13 - 1 カーテン等	86
13 - 2 カーペット	87
13 - 3 毛布等	88
13 - 4 ベッド	89
14. 作業手袋	92
15. その他繊維製品	93

15 - 1	テント・シート類	93
15 - 2	防球ネット	94
16	設備	95
17	防災備蓄用品	97
17 - 1	防災備蓄用品（飲用水）	97
17 - 2	防災備蓄用品（食料）	98
17 - 3	防災備蓄用品（生活用品・資材）	99
18	公共工事	102
19	役務	123
19 - 1	省エネルギー診断	123
19 - 2	印刷	124
19 - 3	食堂	126
19 - 4	自動車専用タイヤ更生	127
19 - 5	自動車整備	128
19 - 6	庁舎管理等	130
19 - 7	輸配送	139
19 - 8	旅客輸送（自動車）	142
19 - 9	照明機器提供業務	145
19 - 10	小売業務	146

## 1. 定義

この別記において、「判断の基準」、「配慮事項」は下記のとおりとする。

「判断の基準」:	本基準を満たすものが「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」第6条第2項第2号に規定する特定調達物品等として、毎年度の調達目標の設定の対象となる。
「配慮事項」:	特定調達物品等であるための要件ではないが、特定調達物品等を調達するに当たって、更に配慮することが望ましい事項

## 2. 紙類

### (1) 品目及び判断の基準等

#### 【情報用紙】

コピー用紙	<p>【判断の基準】</p> <p>古紙パルプ配合率100%かつ白色度70%程度以下であること。 塗工されているものについては、塗工量が両面で12g/m<sup>2</sup>以下であること。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。</p>
フォーム用紙	<p>【判断の基準】</p> <p>古紙パルプ配合率70%以上かつ白色度70%程度以下であること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工されているものについては、塗工量が両面で12g/m<sup>2</sup>以下であること。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>

<p>インクジェットカラープリンター用 塗工紙</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率70%以上であること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工量が両面で20g/m<sup>2</sup>以下であること。ただし、片面の最大塗工量は12g/m<sup>2</sup>とする。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
<p>ジアゾ感光紙</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率70%以上であること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工量が両面で20g/m<sup>2</sup>以下であること。ただし、片面の最大塗工量は12g/m<sup>2</sup>とする。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>

備考) 紙の材料原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成 18 年 2 月 15 日)」に準拠して行うものとする。

ただし、平成 18 年 4 月 1 日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成 18 年 4 月 1 日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成 18 年 4 月 1 日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

【印刷用紙】

<p>印刷用紙 (カラー用紙を除く)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率70%以上であること。 バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工されていないものについては、白色度70%程度以下であること。 塗工されているものについては、塗工量が両面で30g/m<sup>2</sup>以下であること。 再生利用しにくい加工が施されていないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。 バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
<p>印刷用紙(カラー用紙)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率70%以上であること。 バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工されているものについては、塗工量が両面で30g/m<sup>2</sup>以下であること。 再生利用しにくい加工が施されていないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。 バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>

備考) 紙の材料原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。

ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

【衛生用紙】

トイレット ペーパー	<b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率100%であること。
ティッシュ ペーパー	<b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び焼却処理時の負荷低減に配慮されていること。

### 3. 文具類

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>文具類共通</p>	<p><b>【判断の基準】</b>(備考8)</p> <p>金属を除く主要材料が、プラスチックの場合は、木質の場合は、紙の場合はの要件を満たすこと。また、主要材料以外の材料に木質が含まれる場合は、紙が含まれる場合で原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合はの要件をそれぞれ満たすこと。</p> <p>再生プラスチック(備考5)がプラスチック重量の40%以上使用されていること。</p> <p>間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源であること、又は、原料として使用される原木(間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。)が、その伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的なものであること。</p> <p>次の要件を満たすこと。</p> <p>ア．紙の原料は古紙パルプ配合率50%以上であること。</p> <p>イ．紙の原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p> <p>材料に木質が含まれる場合にあっては、原料として使用される原木(間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。)は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p> <p>材料に紙が含まれる場合でバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。(備考15)</p> <p>注) 文具類に定める特定調達品目については、共通して上記の判断の基準及び配慮事項を適用する。ただし、個別の特定調達品目については判断の基準(印)を定めているものについては、上記の判断の基準に代えて、当該品目について定める判断の基準(印)を適用する。また、適用箇所を定めているものについては、適用箇所のみ上記の判断の基準を適用する。</p>
<p>シャープペンシル (備考14)</p>	<p>文具類共通</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>残芯が可能な限り少ないこと。</p>
<p>シャープペンシル 替芯(備考14)</p>	<p>〔判断の基準は容器に適用〕</p> <p>文具類共通</p>
<p>ボールペン</p>	<p>文具類共通</p>

(備考14)	【配慮事項】 芯が交換できること。
マーキングペン (備考14)	文具類共通 【配慮事項】 消耗品が交換又は補充できること。
鉛筆	文具類共通
スタンプ台 (備考14)	文具類共通 【配慮事項】 インク又は液が補充できること。
朱肉	【判断の基準】 主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること(消耗部分(備考9)を除く。)。ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。  【配慮事項】 インク又は液が補充できること。
印章セット	文具類共通 【配慮事項】 液が補充できること。
印箱	文具類共通
公印	文具類共通
ゴム印	文具類共通
回転ゴム印	文具類共通
定規(備考14)	文具類共通
トレー	文具類共通
消しゴム	〔判断の基準は巻紙(スリーブ)又はケースに適用〕 文具類共通
ステーブラー (備考1)	文具類共通 【配慮事項】
ステーブラー針リムーバー	再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるよう、分離又は分別の工夫がなされていること。
連射式クリップ (本体)	【判断の基準】 主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること(消耗部分(備考9)を除く。)。ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。
事務用修正具(テープ)	【判断の基準】 主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること(消耗部分(備考9)



	<p>を除く。) ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 消耗品が交換できること。</p>
事務用修正具(液状)(備考14)	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
クラフトテープ	<p><b>【判断の基準】</b> テープ基材については古紙パルプ配合率40%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。 バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
粘着テープ(布粘着)	<p><b>【判断の基準】</b> テープ基材(ラミネート層を除く。)については再生プラスチック(備考5)がプラスチック重量の40%以上使用されていること。</p>
両面粘着紙テープ	<p><b>【判断の基準】</b> テープ基材については古紙パルプ配合率40%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> バージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
製本テープ	〔判断の基準はテープ基材に適用〕 文具類共通
ブックスタンド	<p><b>【判断の基準】</b> 主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあっては、</p>

	製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。
ペンスタンド (備考14)	文具類共通
クリップケース	文具類共通
はさみ	【配慮事項】 再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるよう、分離又は分別の工夫がなされていること。
マグネット(玉)	文具類共通
マグネット(バー)	文具類共通
テープカッター	文具類共通
パンチ(手動)	文具類共通
モルトケース(紙めくり用スポンジケース)	文具類共通
紙めくりクリーム	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
鉛筆削(手動)	文具類共通 【配慮事項】 再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるよう、分離又は分別の工夫がなされていること。
OAクリーナー (ウェットタイプ)(備考14)	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
OAクリーナー (液タイプ) (備考14)	【配慮事項】 内容物が補充できること。
ダストブロワー (備考11、12)	【判断の基準】 オゾン層を破壊する物質及びハイドロフルオロカーボン(いわゆる代替フロン)が使用されていないこと。ただし、可燃性の高い物質が使用されている場合にあっては、製品に、その取扱いについての適切な記載がなされていること。
レターケース (備考14)	文具類共通
メディアケース (備考13)	【判断の基準】 次のいずれかの要件を満たすこと。 主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。 CD及びDVD用にあっては、厚さ5mm程度以下のスリムタイプケースであること。 植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの(備考7)が使用されていること。

マウスパッド (備考14)	文具類共通
OAフィルター (枠あり)	【判断の基準】 次のいずれかの要件を満たすこと。 文具類共通の判断の基準を満たすこと、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの(備考7)が使用されていること。 枠部は、再生プラスチック(備考5)が枠部全体重量の50%以上使用されていること。
丸刃式紙裁断機	文具類共通 【配慮事項】 再使用、再生利用又は適正廃棄を容易に行いうるよう、分離又は分別の工夫がなされていること。
カッターナイフ	文具類共通
カッティングマット	文具類共通 【配慮事項】 マットの両面が使用できること。
デスクマット	文具類共通
OHPフィルム	【判断の基準】 次のいずれかの要件を満たすこと。 再生プラスチック(備考5)がプラスチック重量の30%以上使用されていること。 インクジェット用のものにあつては、上記の要件を満たすこと、又は植物を原料とするプラスチックであつて環境負荷低減効果が確認されたもの(備考7)が使用されていること。
絵筆	【判断の基準】 主要材料がプラスチックの場合にあつては、再生プラスチック(備考5)が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料(備考6)からなる再生プラスチックにあつては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあつては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。
絵の具	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
墨汁	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
のり(液状) (補充用を含む。) (備考14)	〔判断の基準は容器に適用〕 文具類共通
のり(澱粉のり) (補充用を含む。)	【配慮事項】 内容物が補充できること。
のり(固形) (備考14)	〔判断の基準は容器・ケースに適用〕 文具類共通
のり(テープ) (備考14)	【配慮事項】 消耗品が交換できること。

<p>ファイル (備考2)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>金属を除く主要材料が紙の場合にあっては、紙の原料は古紙パルプ配合率70%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。それ以外の場合にあっては、次のいずれかの要件を満たすこと。</p> <p>文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p> <p>クリアホルダーにあっては、上記の要件を満たすこと、又は、植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの (備考7) が使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>表紙ととじ具を分離し、部品を再使用、再生利用又は分別廃棄できる構造になっていること。</p> <p>バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
<p>バインダー (備考3)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>金属を除く主要材料が紙の場合にあっては、紙の原料は古紙パルプ配合率70%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>表紙ととじ具を分離し、部品を再使用、再生利用又は分別廃棄できる構造になっていること。</p> <p>バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
<p>ファイリング用品 (備考4、14)</p>	<p>文具類共通</p>
<p>アルバム</p>	<p>文具類共通</p>
<p>つづりひも (備考14)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>主要材料が紙の場合にあっては、原料として使用した古紙パルプの重量が製品全体重量の70%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的なものであること。それ以外</p>

	<p>の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
カードケース	文具類共通
事務用封筒（紙製）	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率40%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
窓付き封筒（紙製）	<p><b>【判断の基準】</b> 古紙パルプ配合率40%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。〔窓部分に紙を使用している場合は、古紙パルプ配合率の判断の基準を窓部分には適用しない。〕 窓部分にプラスチック製フィルムを使用している場合は、窓フィルムについては再生プラスチック（備考5）がプラスチック重量の40%以上使用されていること、又は植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの（備考7）が使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
けい紙	<b>【判断の基準】</b>
起案用紙	古紙パルプ配合率70%以上であること。また、紙の原料にバージンパ

ノート	<p>ルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。 塗工されているものについては塗工量が両面で30 g / m<sup>2</sup>以下であり、塗工されていないものについては白色度が70%程度以下であること。</p> <p>【配慮事項】 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
パンチラベル	<p>文具類共通</p> <p>【配慮事項】 粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。</p>
タックラベル	<p>【判断の基準】 主要材料が紙の場合にあっては、原料として使用した古紙パルプの重量が製品全体重量の70%以上であること（粘着部分（備考10）を除く。）。また、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的なものであること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p> <p>【配慮事項】 バージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。 粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであり、樹脂ラミネート加工がされていないこと。</p>
インデックス	
付箋紙	
付箋フィルム	<p>文具類共通</p> <p>【配慮事項】 粘着剤が水又は弱アルカリ水溶液中で、溶解又は細かく分散するものであること。</p>
黒板拭き	文具類共通
ホワイトボード用 イレーザー (備考14)	文具類共通
額縁	文具類共通
ごみ箱	【判断の基準】

	<p>主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック（備考5）が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料（備考6）からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p>
リサイクルボックス	<p>【判断の基準】          主要材料がプラスチックの場合にあっては、再生プラスチック（備考5）が製品全体重量の70%以上使用されていること。ただし、ポストコンシューマ材料（備考6）からなる再生プラスチックにあっては、製品全体重量の60%以上使用されていること。それ以外の場合にあっては、文具類共通の判断の基準を満たすこと。</p>
缶・ボトルつぶし機（手動）	文具類共通
名札（机上用）	文具類共通
名札（衣服取付型・首下げ型）	文具類共通
鍵かけ（フックを含む。）	文具類共通
チョーク	<p>【判断の基準】          再生材料が製品全体重量比で10%以上使用されていること。</p>
グラウンド用白線	<p>【判断の基準】          再生材料が製品全体重量比で70%以上使用されていること。</p>

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ステープラー」には、針を用いない方式のものを含む。
- 2 「ファイル」とは、穴をあけてとじる各種ファイル（フラットファイル、パイプ式ファイル、とじこみ表紙、ファスナー（とじ具）、コンピュータ用キャップ式等）及び穴をあけずにとじる各種ファイル（フォルダー、ホルダー、ボックスファイル、ドキュメントファイル、透明ポケット式ファイル、スクラップブック、Z式ファイル、クリップファイル、用箋挟、図面ファイル、ケースファイル等）等をいう。
- 3 「バインダー」とは、MP バインダー、リングバインダー等をいう。
- 4 「ファイリング用品」とは、ファイル又はバインダーに補充して用いる背見出し、ポケット及び仕切紙をいう。
- 5 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 6 「ポストコンシューマ材料」とは、製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品をいう。
- 7 「植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。
- 8 文具類に係る判断の基準は、金属以外の主要材料としてプラスチック、木質又は紙を使用している場合について定めたものであり、金属が主要材料であって、プラスチック、木質又は紙を使用していないものは、本項の判断の基準の対象とする品目に含まれないものとする。
- 9 「消耗部分」とは、使用することにより消耗する部分をいう。なお、消耗部分が交換可能な場合（カートリッジ等）は、交換可能な部分すべてを、消耗部分が交換不可能な場合

(ワンウェイ)は、当該部分(インク等)のみを製品全体重量から除く。

- 10 「粘着部分」とは、主としてラベル等に用いる感圧接着剤を塗布した面をいう。なお、粘着材及び剥離紙・剥離基材(台紙)を製品全体重量から除く。
- 11 ダストブローを、引火の危険性があり、安全性の確保を必要とする用途に使用する場合には、当該品目に係る判断の基準は適用しないものとする。なお、その場合にあつては、オゾン層を破壊する物質及び地球温暖化係数(地球温暖化対策の推進に関する法律施行令(平成11年政令第143号)第4条に定められた係数)150以上の物質が含まれていないものを使用すること。
- 12 ダストブローについては、流通在庫が多いという特性から、卸売業者や小売業者等が保有する在庫を販売するまでに一定程度の期間を要することを勘案し、平成21年3月31日まで経過措置を設けることとし、この期間においては、オゾン層を破壊する物質及び地球温暖化係数150以上の物質が含まれていないことで特定調達物品等とみなすこととする。
- 13 本項の判断の基準の対象となる「メディアケース」は、FD、CD、DVD及びMO用とする。
- 14 平成20年度において、市場動向を勘案しつつ、以下の品目の判断の基準について見直しを実施することとする。  
シャープペンシル、シャープペンシル替芯、ボールペン、マーキングペン、スタン  
プ台、定規、事務用修正具(液状)、ペンスタンド、OAクリーナー(ウェットタ  
イプ)、OAクリーナー(液タイプ)、レターケース、マウスパッド、のり(液状)  
のり(固形)、のり(テープ)、ファイリング用品、つづりひも、ホワイトボード用  
イレーザー
- 15 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。  
ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。



#### 4. オフィス家具等

##### (1) 品目及び判断の基準等

<p>いす</p> <p>机</p> <p>棚</p> <p>収納用什器（棚以外）</p> <p>ロ - パ - ティション</p> <p>コートハンガー</p> <p>傘立て</p> <p>掲示板</p> <p>黒板</p> <p>ホワイトボード (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>大部分の材料が金属類（備考2）である棚又は収納用什器にあつてはの要件を、それ以外の場合にあつては、金属を除く主要材料が、プラスチックの場合は、木質の場合は、紙の場合はの要件を満たすこと。また、主要材料以外の材料に木質が含まれる場合はア、紙が含まれる場合はイの要件をそれぞれ満たすこと。</p> <p>表1に示された区分の製品にあつては、次のア及びウの要件を、それ以外の場合にあつては、イ及びウの要件を満たすこと。（備考7）</p> <p>ア．区分ごとの基準を上回らないこと。</p> <p>イ．単一素材分解可能率（備考3）が75%以上であること。</p> <p>ウ．表2の評価項目ごとに評価基準に示された環境配慮設計がなされていること。</p> <p>再生プラスチック（備考4）がプラスチック重量の10%以上使用されていること、又は植物を原料とするプラスチックであつて環境負荷低減効果が確認されたもの（備考5）がプラスチック重量の25%以上使用されていること。</p> <p>次の要件を満たすこと。</p> <p>ア．間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源であること、又は原料として使用される原木（間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。）が、その伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p>イ．材料からのホルムアルデヒドの放散速度が、0.02mg/m<sup>2</sup>h以下又はこれと同等のものであること。（備考6）</p> <p>次の要件を満たすこと。</p> <p>ア．紙の原料は古紙パルプ配合率50%以上であること。</p> <p>イ．紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。（備考8）</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用若しくは素材の再生利用が容易になるような設計がなされていること。特に金属部分については、資源の有効な利用の促進に関する法律（平成3年法律第48号。以下「資源有効利用促進法」という。）の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。</p> <p>使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。また、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
--	---

	<p>材料に木質が含まれる場合にあつては、原料として使用される原木（間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。）は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p> <p>材料に紙が含まれる場合でバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
--	--

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ホワイトボード」とは、黒板以外の各種方式の筆記ボードをいう。

2 「大部分の材料が金属類」とは、製品に使用されている金属類が製品全体重量の95%以上であるものをいう。

3 判断の基準の「単一素材分解可能率」は次式の算定方法による。

$$\text{単一素材分解可能率}(\%) = \text{単一素材まで分解可能な部品数} / \text{製品部品数} \times 100$$

次のいずれかに該当するものは、単一素材分解可能率の算定対象となる部品に含まれないものとする。

盗難、地震や操作上起こりうる転倒を防止するための部品（錠前、転倒防止機構部品、安定保持部品等）

部品落下防止の観点から、本体より張り出しが起きる部位を保持する部品（ヒンジ、引出レール等）

日本工業規格又はこれに準ずる部品の固定又は連結等に使用する付属のネジ

なお、「引出レール」については、分解可能な最小単位とする。

4 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

5 「植物を原料とするプラスチックであつて環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

6 放散速度が0.02mg/m<sup>2</sup>h以下と同等のものとは、次によるものとする。

ア．対応した日本工業規格又は日本農林規格があり、当該規格にホルムアルデヒドの放散量の基準が規定されている木質材料については、F の基準を満たしたもの。

イ．上記ア．以外の木質材料については、JIS A1460 の規定する方法等により測定した数値が次の数値以下であるもの。

平均値	最大値
0.5mg/L	0.7mg/L

7 平成20年度において、製品の開発・製造及び市場への供給状況等を勘案し、判断の基準の ア、イ及びウを同時に満足する基準の設定の可否及び判断の基準の見直しを検討する。

8 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。

ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

表1 大部分の材料が金属類である棚又は収納用什器（収納庫）の棚板に係る機能重量の基準

区 分	基準
収納庫（カルテ収納棚等の特殊用途は除く。）の棚板	0.1
棚（書架・軽量棚・中量棚）の棚板	0.1

備考）棚板に適用される機能重量の基準の算出方法は、次式による。

$$\text{機能重量の基準} = \text{棚板重量 (kg)} \div \text{棚耐荷重 (kg)}$$

表2 大部分の材料が金属類である棚又は収納用什器に係る環境配慮設計項目

目 的	評 価 項 目	評 価 基 準
リデュース配慮設計	原材料の使用削減	原材料の使用量の削減をしていること。
	軽量化・減量化	部品・部材の軽量化・減量化をしていること。
リサイクル配慮設計	再生可能材料の使用	再生可能な材料を使用していること。
	再生可能材料部品の分離・分解の容易化	再生可能な材料を使用している部分は部品ごとに簡易に分離・分解できる接合方法であること。
		その他の部品は容易に取り外しができること。
	再生資源としての利用	合成樹脂部分の材料表示を図っていること。 材質ごとに分別できる工夫を図っていること。

5 . O A 機器

5 - 1 コピー機等

(1) 品目及び判断の基準等

<p>コピー機</p> <p>複合機</p> <p>拡張性のあるデジタルコピー機 (備考5、8)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>&lt; 共通事項 &gt;</p> <p>使用される用紙が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準(紙類参照)を満たす用紙に対応可能であること。 次のいずれかの要件を満たすこと。</p> <p>ア . リユースに配慮したコピー機及び複合機並びに拡張性のあるデジタルコピー機(以下「コピー機等」という。)であること。(備考1、7、9)</p> <p>イ . 特定の化学物質(備考2、3)の使用が制限されたコピー機等であること。</p> <p>&lt; 個別事項 &gt;</p> <p>コピー機</p> <p>ア . コピー機(毎分 86 枚以上の複写が可能なもの、カラーコピー機能を有するもの及び大判コピー機を除く。)にあつては、表 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>イ . 大判コピー機(カラーコピー機能を有するものを除く。)にあつては、表 3 - 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>複合機</p> <p>ア . 複合機(カラーコピー機能を有するもの及び大判複合機を除く。)にあつては、表 4 - 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>イ . カラーコピー機能を有する複合機(大判複合機を除く。)にあつては、表 4 - 3 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>ウ . 大判複合機にあつては、表 3 - 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>拡張性のあるデジタルコピー機</p> <p>ア . 拡張性のあるデジタルコピー機(拡張性のある大判デジタルコピー機を除く。)のうちカラーコピー機能を有するものにあつては表 2 - 2 に示された区分ごとの基準、それ以外のもの(毎分 86 枚以上の複写が可能なものを除く。)にあつては表 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>イ . 拡張性のある大判デジタルコピー機にあつては、表 3 - 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合は、この限りでない。 資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、部品の再使用のための設計上の工夫がなされていること。 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考6)が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄</p>
--	--

	時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。
--	---

- 備考) 1 「リユースに配慮したコピー機等」とは、製造時にリユースを行なうシステムが構築・維持され、そのシステムから製造されたものであり、以下の「再生型機」又は「部品リユース型機」を指す。
- 1) 「再生型機」とは、使用済みの製品を部分分解・洗浄・修理し、新品同等品質又は一定品質に満たない部品を交換し、専用ラインで組み立てた製品をいう。
  - 2) 「部品リユース型機」とは、使用済みの製品を全分解・洗浄・修理し、新造機と同一品質を保証できる部品を新造機と同等の製造ラインで組み立てた製品をいう。
- 2 特定の化学物質とは、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリブロモビフェニル並びにポリブロモジフェニルエーテルをいう。
- 3 特定の化学物質の使用については、JIS C 0950:2005 (電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法)の附属書Aの表A.1(特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値)の含有率基準値以下とし、基準値を超える含有が許容される項目については、上記JISの附属書Bに準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについてはJIS C 0950:2005に準ずるものとする。
- 4 表1中「 」を記した区分のものは、本項の判断の基準の対象とする「コピー機」及び「拡張性のあるデジタルコピー機」に含まれないものとする。
- 5 「大判コピー機」、「大判複合機」及び「拡張機能付き大判デジタル複写機」とは、A2サイズ又は17"×22"サイズ以上の用紙を処理するコピー機、複合機及び拡張機能付きデジタルコピー機をいう。
- 6 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)
- 7 リユースに配慮したコピー機等は、使用済みの製品を回収し、厳密な品質検査を経て生産工程に供給され、当該機器の製造が可能となることから、安定的な製品供給が必ずしも保証されない場合がある。このため、調達に当たり、環境側面に関して各機関が特定調達物品等であること以外の入札等の要件を示す場合は、判断の基準の共通事項ア及びイについて併記すること。
- 8 コピー機等の調達時に、機器本体の消耗品としてトナー容器単体で構成される消耗品を有する場合には、本基本方針に示した品目「トナーカートリッジ」の判断の基準の「トナーの化学安全性が確認されていること」を満たす場合は、特定調達物品等と同等の扱いとすること。
- 9 リユースに配慮したコピー機等の判断の基準の個別事項については、使用済みの製品の回収までに相当程度期間を要することから、表2-2、表3-1、表4-1及び表4-3の基準を満たす製品が市場に供給されるまでの期間は、引き続き表2-1、表3-2、表4-2、表5、表6及び表7の該当する要件を満たすことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。

表1 コピー機及び拡張性のあるデジタルコピー機に係る基準エネルギー消費効率等の基準（備考4）

コピー速度(CPM：1分 当たりのコピー枚数)	基準エネルギー消費効率				両面 コピー機能
	A4機	B4機	A3機	A3Y機	
0 < CPM 10	11				推奨
10 < CPM 20	17		55		
20 < CPM 30			99		必須
30 < CPM 40			125		
40 < CPM 50			176		
50 < CPM 60			205		
60 < CPM 70			257		
70 < CPM 80			286		
80 < CPM 85			369	483	

- 備考) 1 「A4機」、「B4機」、「A3機」及び「A3Y機」とは、それぞれA4版の短辺、B4版の短辺、A3版の短辺及びA3版の長辺を最大通紙幅とするコピー機をいう。
- 2 「コピー速度」とは、A4版普通紙へ連続複写を行った場合の1分当たりのコピー枚数をいう。
- 3 「両面コピー機能」とは、自動的に両面をコピーすることができる機能とする。以下表2-2及び表6において同じ。
- 4 「推奨」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備えることができることが望ましいことをいう。以下表2-2及び表6において同じ。
- 5 「必須」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備えることができることをいう。以下表2-2及び表6において同じ。
- 6 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく経済産業省告示第49号（平成18年3月29日）の「3エネルギー消費効率の測定方法」による。

表2-1 リソースに配慮したコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

コピー速度 (CPM:1分当たりの コピー枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード への 移行時間	低電力モード からの 復帰時間	オフモード 消費電力	オフモード への 移行時間	両面コピ ー機能
0 < CPM 20	-	-	-	5W	30分	推奨
20 < CPM 44	$3.85 \times \text{CPM} + 5\text{W}$	15分	30秒	15W	60分	必須
44 < CPM	$3.85 \times \text{CPM} + 5\text{W}$	15分	30秒 (推奨)	20W	90分	必須

- 備考) 1 「コピー速度」とは、1分当たりのコピー枚数(CPM)をいう。以下表3-2において同じ。  
両面コピーについてはコピー枚数を2枚と計算する。  
大判コピー機を除くコピー機については、A4サイズの内紙を用いた場合のコピー速度とする。また、大判コピー機については、当該機器の最大サイズの1分当たりのコピー枚数を次のようにA4サイズの内紙のコピー枚数に換算してコピー速度を算定する。

- A2サイズの内紙は、コピー枚数を4倍すること。
- A1サイズの内紙は、コピー枚数を8倍すること。
- A0サイズの内紙は、コピー枚数を16倍すること。

- 2 「低電力モード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられ実現

される低電力状態をいう。以下表3 - 2、表4 - 2、表5、表6及び表7において同じ。

- 3 「オフモード」とは、一定時間が経過した後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。以下表3 - 2、表6及び表7において同じ。
- 4 消費電力の測定方法については、国際エネルギースタートプログラム制度運用細則（平成18年1月1日施行）別表第2による。以下表3 - 2、表4 - 2、表5、表6及び表7において同じ。
- 5 低電力モードの消費電力が常にオフモードの消費電力を満たす場合は、オフモードを備える必要はない。以下表3 - 2、表6及び表7において同じ。

表2 - 2 カラーコピー機能を有する拡張性のあるデジタルコピー機に係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	標準消費電力の 基準 ( kWh/週)	両面コピー 機能
ipm 19	$0.20 \times ipm + 2$	推奨
$19 < ipm \leq 50$	$0.20 \times ipm + 2$	必須
$50 < ipm$	$0.80 \times ipm - 28$	

表3 - 1 大判コピー機又は大判複合機に係るスリープ移行時間、消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	スリープへの移行時間		スリープ時 消費電力
	大判コピー機	大判複合機	
ipm 30	30分	30分	58W
$30 < ipm \leq 50$		60分	
$50 < ipm$			

- 備考) 1 「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。
- 2 消費電力の測定方法については、「エネルギースタート画像機器の動作モード試験方法」による。
  - 3 スリープ時の消費電力の基準には、表3 - 3の追加機能の種類に対応する許容値の合計値を基準適合判断に用いるものとする。

表3 - 2 リユースに配慮した大判コピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

コピー速度 ( CPM : 1分当たりの コピー枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード への 移行時間	低電力モード からの 復帰時間	オフモード 消費電力	オフモード への 移行時間
$0 < CPM \leq 40$	-	-	-	10W	30分
$40 < CPM$	$3.85 \times CPM + 5W$	15分	30秒 (推奨)	20W	90分

表3 - 3 追加機能及びその許容値

種 類	第1許容値(W)	第2許容値(W)
転送可能速度が 20MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.3	0.2
転送可能速度が 20 MHz 以上 500 MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.2
転送可能速度が 500 MHz 以上の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	1.5	0.5
無線周波数の無線方式によりデータを転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	3.0	0.7
外部装置(カード/カメラ/記憶装置等)が接続可能な設計の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.1
赤外線技術によってデータ転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.2	0.2
個別の内部ストレージドライブ(外部ドライブ又は内部メモリに対するインターフェイスは含まれない)	-	0.2
冷陰極蛍光灯(CCFL)技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	2.0
冷陰極蛍光灯(CCFL)以外のランプ技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	0.5
PCがないと印刷/複写/スキャンができない、PCを基本とするシステム(通常単独で行う基本機能(ページレンダリング等)の実行において、重要なリソース(メモリやデータ処理等)を外部コンピュータに依存する場合に適用される)	-	-0.5
コードレス電話用通信システム(対応可能なコードレス電話機数に関係なく1回のみ適用される)	-	0.8
内部メモリ容量(データ保存用内部メモリの全容量が対象であり、許容値は容量の大きさに応じる)	-	1GBごとに1.0W
電源装置の定格出力/PSOR(電源装置の製造事業者が規定する内部/外部電源装置の定格直流出力に基づく。スキャナには適用されない)	-	PSOR > 10Wの場合 0.05 × (PSOR - 10W)

備考)「第1許容値」とは、画像製品のスリーブ中に稼働したままの接続に対して追加可能な許容値、「第2許容値」とは、画像製品のスリーブ中に無稼働にできる接続に対して追加可能な許容値をいう。

表4 - 1 複合機に係る標準消費電力の基準

画像再生速度 (ipm:1分当たりの画像出力枚数)	標準消費電力の 基準(kWh/週)	両面コピー 機能
ipm 20	$0.20 \times ipm + 2$	推奨
20 < ipm 24	$0.44 \times ipm - 2.8$	
24 < ipm 69	$0.44 \times ipm - 2.8$	必須
69 < ipm	$0.80 \times ipm - 28$	

備考) 1 「両面コピー機能」とは、自動的に両面を画像出力することができる機能とする。以下表4 - 2及び表4 - 3において同じ。

2 「推奨」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備える



ことができることが望ましいことをいう。以下表4 - 2及び表4 - 3において同じ。

- 3 「必須」とは、両面コピー機能を備えていること又は両面コピー機能を付加的に備えることができることをいう。以下表4 - 2及び表4 - 3において同じ。

表4 - 2 リユースに配慮した複合機（カラーコピー機能を有するものを含む）に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度 (ipm:1分当たりの 画像出力枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード からの 復帰時間	スリープ モード 消費電力	スリープ モード への移行時間	両面 コピー 機能
0 < ipm 10	-	-	25W	15分	推奨
10 < ipm 20	-	-	70W	30分	推奨
20 < ipm 44	3.85 × ipm+50W	30秒	80W	60分	必須
44 < ipm 100	3.85 × ipm+50W	30秒(推 奨)	95W	90分	必須
100 < ipm	3.85 × ipm+50W	30秒(推 奨)	105W	120分	必須

備考) 1 「スリープモード」とは、低電力モードに移行後に引き続き出力動作が行われなかった場合、電源を切ることなしに自動的に切り替えられ連続的に実現される第二の低電力状態をいう。以下表5について同じ。

- 2 低電力モードの消費電力が常にスリープモードの消費電力を満たす場合は、スリープモードを備える必要はない。以下表5において同じ。
- 3 低電力モードへの移行時間は出荷時に15分以下にセットする。以下表5から表7において同じ。

表4 - 3 カラーコピー機能を有する複合機に係る標準消費電力の基準

画像再生速度 (ipm:1分当たりの画像出力枚数)	標準消費電力の 基準(kWh/週)	両面コピー 機能
ipm 19	0.20 × ipm+ 5	推奨
19 < ipm 32	0.20 × ipm+ 5	必須
32 < ipm 61	0.44 × ipm-2.8	
61 < ipm	0.80 × ipm-25	

表5 リユースに配慮した大判複合機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度 (ipm:1分当たりの 出力枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード からの復帰時間	スリープモード 消費電力	スリープモード への移行時間
0 < ipm 40	-	-	70W	30分
40 < ipm	4.85 × ipm+50W	30秒(推奨)	105W	90分

表6 リユースに配慮した拡張性のあるデジタルコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度 (ipm:1分当たりの 画像出力枚数)	低電力モード 消費電力	低電力モード からの 復帰時間	オフモード 消費電力	オフモード への 移行時間	両面コピー 機能
0 < ipm 10	-	-	5W	15分	推奨
10 < ipm 20	-	-	5W	30分	推奨
20 < ipm 44	$3.85 \times ipm + 5W$	30秒	15W	60分	必須
44 < ipm 100	$3.85 \times ipm + 5W$	30秒(推奨)	20W	90分	必須
100 < ipm	$3.85 \times ipm + 5W$	30秒(推奨)	20W	120分	必須

表7 リユースに配慮した拡張性のある大判デジタルコピー機に係る低電力モード消費電力等の基準

画像再生速度(ipm:1 分当たりの画像出力枚 数)	低電力モード 消費電力	低電力モード からの復帰時間	オフモード 消費電力	オフモードへの 移行時間
0 < ipm 40	-	-	65W	30分
40 < ipm	$4.85 \times ipm + 45W$	-	100W	90分

## 5 - 2 電子計算機

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>電子計算機 (備考1、9)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を上回らないこと。特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）は、含有率基準値を超えないこと。また、含有情報がウェブ等で容易に確認できること。 一般行政事務用ノートパソコンの場合にあっては、搭載機器・機能の簡素化がなされていること。(備考4)</p> <p><b>【配慮事項】</b> 資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 一般行政事務用ノートパソコンにあっては、二次電池（バッテリー）の駆動時間が必要以上に長くないこと。(備考2、3、5) 一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること。 筐体又は部品にプラスチックが使用される場合には、再生プラスチック(備考6)が可能な限り使用されていること、又は、植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの(備考7)が可能な限り使用されていること。 筐体又は筐体部品にマグネシウム合金が使用される場合には、再生マグネシウム合金が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。また、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。 製品とともに提供されるマニュアルやリカバリCD等の付属品が可能な限り削減されていること。</p>
--------------------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「電子計算機」に含まれないものとする。

複合理論性能が1秒につき5万メガ演算以上のもの

256超のプロセッサからなる演算処理装置を用いて演算を実行することができるもの

入出力用信号伝送路(最大データ転送速度が1秒につき100メガビット以上のものに限る。)が512本以上のもの

演算処理装置、主記憶装置、入出力制御装置及び電源装置がいずれも多重化された構造のもの

複合理論性能が1秒につき100メガ演算未満のもの

専ら内蔵された電池を用いて、電力線から電力供給を受けることなしに使用されるものであって、磁気ディスク装置を有しないもの

2 判断の基準については、パーソナルコンピュータに適用することとし、特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2005(電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法)に定める基準による。なお、同JISの付属書Bの除外項目に該当するものは、特定の化学物質の含有率基準値を超える含有が許容されるものとする。

3 「一般行政事務用ノートパソコン」とは、クライアント型電子計算機のうち電池駆動型のものであって、通常の行政事務の用に供するもの(携帯を行う場合や一般行政事務以外

- の用途に使用されるものは除く。)をいう。
- 4 「搭載機器・機能の簡素化」とは、次の要件を満たすことをいう。なお、赤外線通信ポート、シリアルポート、パラレルポート、PC カード、S-ビデオ端子等のインターフェイスは、装備されていないことが望ましい。
    - ア．内蔵モデム、無線 LAN、FDD、CD/DVD、MO 等は、標準搭載されていないこととし、調達時に選択又は外部接続可能であること。
    - イ．周辺機器を接続するための USB インターフェイスを複数備えていること。
  - 5 一般行政事務用ノートパソコンの二次電池（バッテリー）に必要な駆動時間とは、停電等の緊急時において、コンピュータを終了させ、電源を遮断する（シャットダウン）ための時間が確保されていることをいう。
  - 6 「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
  - 7 「植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者の LCA 専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。
  - 8 植物を原料とするプラスチックを使用する場合にあっては、次の事項が担保されていること。
    - ア．環境負荷低減効果に係る情報が開示・公表されていること。
    - イ．使用済み製品の回収及びリサイクルのシステムがあること。
    - ウ．リサイクルの阻害要因とならないよう、植物を原料とするプラスチックの使用部位に関する情報開示がなされていること。
  - 9 各機関は、次の事項に十分留意すること。
    - ア．化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。
    - イ．調達に当たって、使用目的・業務内容を十分勘案し、必要な機器・機能のみを要件とすること。
    - ウ．マニュアルやリカバリ CD 等の付属品については必要最小限とするようなライセンス契約の方法を検討すること。

表 電子計算機に係るその種別等の区分ごとの基準エネルギー消費効率

電子計算機の種別	区 分		基準エネルギー消費効率
	入出力用信号伝送路の本数	主記憶容量	
サーバ型電子計算機	64 本以上		3.1
	8 本以上 64 本未満		0.079
	4 本以上 8 本未満	16 ギガバイト以上	0.071
		16 ギガバイト未満	0.068
	4 本未満	16 ギガバイト以上	0.053
		4 ギガバイト以上 16 ギガバイト未満	0.039
		2 ギガバイト以上 4 ギガバイト未満	0.024
クライアント型電子計算機のうち電池駆動型以外のもの	2 本以上 4 本未満	2 ギガバイト未満	0.016
		6 ギガバイト未満	0.027
	2 本未満	2 ギガバイト以上 6 ギガバイト未満	0.0048
クライアント型電子計算機のうち電池駆動型のもの	2 本未満	2 ギガバイト未満	0.0038
		1 ギガバイト以上 6 ギガバイト未満	0.0026
		1 ギガバイト未満	0.0022

備考) 1 「サーバ型電子計算機」とは、クライアント型電子計算機以外のものをいう。

2 「入出力用信号伝送路本数」は、演算処理装置と主記憶装置とを接続する信号伝送路(当該信号伝送路と同等の転送能力を有するその他の信号伝送路を含む)から直接分岐するもの又はそれに接続される信号伝送路分割器から直接分岐するものであって、グラフィックディスプレイポート又はキーボードポートのみを介して外部と接続されるもの以外のものうち、最大データ転送速度が1秒につき100メガビット以上のものの本数をいう。

3 「電池駆動型」とは、専ら内蔵された電池を用いて、電力線から電力供給を受けることなしに使用され得るものをいう。

4 「クライアント型電子計算機」とは、グラフィックディスプレイポート及びキーボードポートを有するもの(グラフィックディスプレイポートに換えてディスプレイ装置を内蔵しているもの又はキーボードポートに換えてキーボードを内蔵しているものを含む)であって、主記憶容量が6ギガバイト未満かつ入出力用信号伝送路本数が4本未満のものをいう。

5 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第50号(平成18年3月29日)の「3エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

## 5 - 3 プリンタ等

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>プリンタ</p> <p>プリンタ/ファクシミリ兼用機 (備考3)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>プリンタ又はプリンタ/ファクシミリ兼用機（大判プリンタを除く。）にあつては、次の基準を満たすこと。</p> <p>ア．モノクロプリンタ（インクジェット方式及びインパクト方式を除く。）にあつては、表1 - 1に示された区分ごとの基準。モノクロプリンタ/ファクシミリ兼用機にあつては、表1 - 2に示された区分ごとの基準。</p> <p>イ．カラープリンタ（インクジェット方式及びインパクト方式を除く。）にあつては、表2 - 1に示された区分ごとの基準。カラープリンタ/ファクシミリ兼用機にあつては、表2 - 2に示された区分ごとの基準。</p> <p>ウ．インクジェット方式のプリンタにあつては、表3に示された区分ごとの基準。</p> <p>エ．インパクト方式のプリンタにあつては、表4に示された区分ごとの基準。</p> <p>大判プリンタ（備考1）のうちインクジェット方式のものにあつては、表5 - 1に示された区分ごとの基準、それ以外のものにあつては、表5 - 2に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p>使用される用紙が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準（紙類参照）を満たす用紙に対応可能であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合には、この限りでない。分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。</p> <p>一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考2）が可能な限り使用されていること。</p> <p>紙の使用量を削減できる機能を有すること。</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
---	---

備考) 1 「大判プリンタ」とは、A2サイズ又は17"×22"サイズ以上の用紙に対応するものをいう。ただし、表5 - 1及び表5 - 2においては、幅が406mm以上の連続形式媒体に対応する製品が該当する。

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

3 プリンタ等の調達時に、機器本体の消耗品としてトナー容器単体で構成される消耗品を有する場合は、本基本方針に示した品目「トナーカートリッジ」の判断の基準の「トナーの化学安全性が確認されていること」を満たす場合は、特定調達物品等と同等の扱いとすること。

表1 - 1 モノクロプリンタに係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 12	1.5
12 < ipm 50	0.20 × ipm- 1
50 < ipm	0.80 × ipm-31

備考) 1 「画像再生速度」とは、あらかじめ設定された解像度において、1分当たりの白黒画像の出力枚数 ( ipm ) をいう。一画像は、A4 サイズ又は 8.5" × 11" サイズの用紙に、各辺からの余白を 1 インチ ( 2.54cm )、使用フォントを 12 ポイント、行間を 1 行とした白黒画像とする。以下表 1 - 2、表 2 - 1 及び表 2 - 2 において同じ。

2 標準消費電力の測定方法については、「エネルギースター画像機器の標準消費電力試験方法」による。以下表 1 - 2、表 2 - 1 及び表 2 - 2 において同じ。

表1 - 2 モノクロプリンタ/ファクシミリ兼用機に係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 20	0.20 × ipm+ 2
20 < ipm 69	0.44 × ipm-2.8
69 < ipm	0.80 × ipm-28

表2 - 1 カラープリンタに係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 50	0.20 × ipm+ 2
50 < ipm	0.80 × ipm-28

表2 - 2 カラープリンタ/ファクシミリ兼用機に係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 32	0.20 × ipm+ 5
32 < ipm 61	0.44 × ipm-2.8
61 < ipm	0.80 × ipm-25

表3 インクジェット方式のプリンタに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
ipm 10	5分	3W
10 < ipm 20	15分	
20 < ipm 30	30分	
30 < ipm	60分	

- 備考) 1 「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。以下表4、表5 - 1及び表5 - 2において同じ。
- 2 スリープ時消費電力の基準には、表6の追加機能の種類に対応する許容値の合計値を基準適合判断に用いるものとする。以下表4、表5 - 1及び表5 - 2において同じ。
- 3 消費電力の測定方法については、「エネルギースター画像機器の動作モード試験方法」による。

表4 インパクト方式のプリンタに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
ipm 10	5分	6W
10 < ipm 20	15分	
20 < ipm 30	30分	
30 < ipm	60分	

表5 - 1 インクジェット方式の大判プリンタに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
ipm 30	30分	13W
30 < ipm	60分	

表5 - 2 インクジェット方式以外の大判プリンタに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1分当たりの画像出力枚数)	スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
ipm 30	30分	54W
30 < ipm	60分	



表6 追加機能及びその許容値

種 類	第1許容値(W)	第2許容値(W)
転送可能速度が 20MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.3	0.2
転送可能速度が 20 MHz 以上 500 MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.2
転送可能速度が 500 MHz 以上の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	1.5	0.5
無線周波数の無線方式によりデータを転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	3.0	0.7
外部装置(カード/カメラ/記憶装置等)が接続可能な設計の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.1
赤外線技術によってデータ転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.2	0.2
個別の内部ストレージドライブ(外部ドライブ又は内部メモリに対するインターフェイスは含まれない)	-	0.2
冷陰極蛍光灯(CCFL)技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	2.0
冷陰極蛍光灯(CCFL)以外のランプ技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	0.5
PCがないと印刷/複写/スキャンができない、PCを基本とするシステム(通常単独で行う基本機能(ページレンダリング等)の実行において、重要なリソース(メモリやデータ処理等)を外部コンピュータに依存する場合に適用される)	-	-0.5
コードレス電話用通信システム(対応可能なコードレス電話機数に関係なく1回のみ適用される)	-	0.8
内部メモリ容量(データ保存用内部メモリの全容量が対象であり、許容値は容量の大きさに応じる)	-	1GBごとに1.0W
電源装置の定格出力/PSOR(電源装置の製造事業者が規定する内部/外部電源装置の定格直流出力に基づく。スキャナには適用されない)	-	PSOR > 10W の場合 0.05 × (PSOR - 10W)

備考)「第1許容値」とは、画像製品のスリーブ中に稼働したままの接続に対して追加可能な許容値、「第2許容値」とは、画像製品のスリーブ中に無稼働にできる接続に対して追加可能な許容値をいう。

## 5 - 4 ファクシミリ

### (1) 品目及び判断の基準等

ファクシミリ	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>モノクロファクシミリ（インクジェット方式を除く。）にあつては、表 1 に示された区分ごとの基準を満たすこと。          カラーファクシミリ（インクジェット方式を除く。）にあつては、表 2 に示された区分ごとの基準を満たすこと。          インクジェット方式のファクシミリにあつては、表 3 に示された基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合には、この限りでない。          分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。          一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。          製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
--------	--

備考) 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

表 1 モノクロファクシミリに係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 12	1.5
12 < ipm 50	0.20 × ipm - 1
50 < ipm	0.80 × ipm - 31

備考) 1 「画像再生速度」とは、あらかじめ設定された解像度において、1 分当たりの白黒画像の出力枚数 ( ipm ) をいう。一画像は、A4 サイズ又は 8.5" × 11" サイズの用紙に、各辺からの余白を 1 インチ ( 2.54cm )、使用フォントを 12 ポイント、行間を 1 行とした白黒画像とする。以下表 2 において同じ。

2 標準消費電力の測定方法については、「エネルギースター画像機器の標準消費電力試験方法」による。以下表 2 において同じ。

表 2 カラーファクシミリに係る標準消費電力の基準

画像再生速度 ( ipm:1 分当たりの画像出力枚数 )	標準消費電力の 基準 ( kWh/週 )
ipm 50	0.20 × ipm + 2
50 < ipm	0.80 × ipm - 28

表3 インクジェット方式のファクシミリに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
5分	3W

- 備考) 1 「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。
- 2 スリープ時消費電力の基準には、表4の追加機能の種類に対応する許容値の合計値を基準適合判断に用いるものとする。
- 3 消費電力の測定方法については、「エネルギースター画像機器の動作モード試験方法」による。

表4 追加機能及びその許容値

種 類	第1許容値(W)	第2許容値(W)
転送可能速度が20MHz未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.3	0.2
転送可能速度が20MHz以上500MHz未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.2
転送可能速度が500MHz以上の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	1.5	0.5
無線周波数の無線方式によりデータを転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	3.0	0.7
外部装置(カード/カメラ/記憶装置等)が接続可能な設計の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.1
赤外線技術によってデータ転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.2	0.2
個別の内部ストレージドライブ(外部ドライブ又は内部メモリに対するインターフェイスは含まれない)	-	0.2
冷陰極蛍光灯(CCFL)技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	2.0
冷陰極蛍光灯(CCFL)以外のランプ技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	0.5
PCがないと印刷/複写/スキャンができない、PCを基本とするシステム(通常単独で行う基本機能(ページレンダリング等)の実行において、重要なリソース(メモリやデータ処理等)を外部コンピュータに依存する場合に適用される)	-	-0.5
コードレス電話用通信システム(対応可能なコードレス電話機数に関係なく1回のみ適用される)	-	0.8
内部メモリ容量(データ保存用内部メモリの全容量が対象であり、許容値は容量の大きさに応じる)	-	1GBごとに1.0W
電源装置の定格出力/PSOR(電源装置の製造事業者が規定する内部/外部電源装置の定格直流出力に基づく。スキャナには適用されない)	-	PSOR > 10Wの場合 0.05 × (PSOR - 10W)

- 備考) 「第1許容値」とは、画像製品のスリープ中に稼働したままの接続に対して追加可能な許容値、「第2許容値」とは、画像製品のスリープ中に無稼働にできる接続に対して追加可能な許容値をいう。

## 5 - 5 スキャナ

### (1) 品目及び判断の基準等

スキャナ	<p><b>【判断の基準】</b> 表 1 に示された基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考）が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
------	--

備考) 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

表 1 スキャナに係るスリープ移行時間、消費電力の基準

スリープへの移行時間	スリープ時消費電力
15 分	5W

備考) 1 「スリープ」とは、電源を実際に切らなくても、一定時間の無動作後自動的に入る電力節減状態をいう。

2 スリープ時消費電力の基準には、表 2 の追加機能の種類に対応する許容値の合計値を基準適合判断に用いるものとする。

3 消費電力の測定方法については、「エネルギースター画像機器の動作モード試験方法」による。

表2 追加機能及びその許容値

種 類	第1許容値(W)	第2許容値(W)
転送可能速度が 20MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.3	0.2
転送可能速度が 20 MHz 以上 500 MHz 未満の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.2
転送可能速度が 500 MHz 以上の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	1.5	0.5
無線周波数の無線方式によりデータを転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	3.0	0.7
外部装置(カード/カメラ/記憶装置等)が接続可能な設計の物理的なデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.5	0.1
赤外線技術によってデータ転送する設計のデータ接続又はネットワーク接続のポート(インターフェイス)	0.2	0.2
個別の内部ストレージドライブ(外部ドライブ又は内部メモリに対するインターフェイスは含まれない)	-	0.2
冷陰極蛍光灯(C CFL)技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	2.0
冷陰極蛍光灯(C CFL)以外のランプ技術を使用するスキャナ(ランプサイズ又は採用されているランプ/電球の数に関係なく、1つのスキャナにつき1回適用される)	-	0.5
PCがないと印刷/複写/スキャンができない、PCを基本とするシステム(通常単独で行う基本機能(ページレンダリング等)の実行において、重要なリソース(メモリやデータ処理等)を外部コンピュータに依存する場合に適用される)	-	-0.5
コードレス電話用通信システム(対応可能なコードレス電話機数に関係なく1回のみ適用される)	-	0.8
内部メモリ容量(データ保存用内部メモリの全容量が対象であり、許容値は容量の大きさに応じる)	-	1GBごとに1.0W

備考)「第1許容値」とは、画像製品のスリープ中に稼働したままの接続に対して追加可能な許容値、「第2許容値」とは、画像製品のスリープ中に無稼働にできる接続に対して追加可能な許容値をいう。

## 5 - 6 磁気ディスク装置

### (1) 品目及び判断の基準等

磁気ディスク装置 (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b>                  表に示された区分ごとの算定式を用いて算出された値基準エネルギー消費効率を上回らないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。                  分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。                  一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
-------------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「磁気ディスク装置」に含まれないものとする。

記憶容量が1ギガバイト以下のもの

ディスクの直径が40mm以下のもの

最大データ転送速度が1秒につき3,200メガバイト70ギガバイトを越えるもの

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 磁気ディスク装置に係る基準エネルギー消費効率の算定式

区 分		基準エネルギー消費効率の算定式
磁気ディスク装置の種別	磁気ディスク装置の形状及び性能	
単体ディスク	ディスクサイズが75mm超であってディスク枚数が1枚のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 28.6)$
	ディスクサイズが75mm超であってディスク枚数が2枚又は3枚のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 29.3)$
	ディスクサイズが75mm超であってディスク枚数が4枚以上のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 29.5)$
	ディスクサイズが50mm超75mm以下であってディスク枚数が1枚のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 28.6)$
	ディスクサイズが50mm超75mm以下であってディスク枚数が2枚又は3枚のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 29.4)$
	ディスクサイズが50mm超75mm以下であってディスク枚数が4枚以上のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 29.8)$
	ディスクサイズが40mm超50mm以下であってディスク枚数が1枚のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 27.2)$
	ディスクサイズが40mm超50mm以下であってディスク枚数が2枚以上のもの	$E = \text{Exp}(2.98 \times \ln(N) - 28.8)$
サブシステム		$E = \text{Exp}(2.00 \times \ln(N) - 19.7)$

- 備考) 1 基準エネルギー消費効率算定式中の  $N$  は、磁気ディスクの回転数 (rpm) を表す。
- 2  $\ln$  は底を  $e$  とする対数を表す。
- 3 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 51 号 (平成 18 年 3 月 29 日) の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

## 5 - 7 ディスプレイ

### (1) 品目及び判断の基準等

ディスプレイ (備考1、4)	<p><b>【判断の基準】</b>                  表に示された基準を満たすこと。                  動作が再開されたとき、自動的に使用可能な状態に戻ることに。                  特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）は、含有率基準値を超えないこと。また、含有情報がウェブ等で容易に確認できること。(備考2)</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。                  資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。                  一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考3)が可能な限り使用されていること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------------	--

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ディスプレイ」は、主としてコンピュータの表示装置として使用する標準的なものとする。

2 判断の基準 については、パーソナルコンピュータ表示装置に適用することとし、特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2005（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める基準による。なお、同 JIS の付属書 B の除外項目に該当するものは、特定の化学物質の含有率基準値を超える含有が許容されるものとする。

3 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

4 各機関は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

表 ディスプレイに係るオンモード消費電力等の基準

オンモード（稼働時）消費電力	移行時間	スリープモード消費電力	オフモード消費電力
23W（1メガピクセル未満） 28X W（1メガピクセル以上）	30分	2 W	1 W

備考) 1 「X」はメガピクセル（総画素）数であり、式で得られる消費電力は最も近い整数に切り上げるものとする。

2 「オンモード（稼働時）消費電力」とは、製品が電源に接続されて画像を生成する状態をいう。



- 3 「スリープモード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられ実現される最初の低電力状態であり、ユーザー又はコンピュータからの指令によって、オンモードに切り替えられる状態をいう。
- 4 「オフモード」とは、製品が電源に接続された場合に、画像を表示せず、ユーザー又はコンピュータからの直接信号によって、オンモードに切り替えられる状態をいう。
- 5 消費電力の測定方法については、国際エネルギースタープログラム制度運用細則（平成18年1月1日施行）別表第2による。
- 6 ディスプレイの消費電力が常に表に掲げるスリープモード及びオフモードの消費電力以下に維持される場合も基準を満たすものとする。また、一定時間動作されなかった後、スリープモードを経ず、直接オフモードに移行してもよい。

## 5 - 8 シュレッダー

### (1) 品目及び判断の基準等

シュレッダー (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b>                  待機電力(備考3)(ただし、低電力モード(備考4)又はオフモード(備考5)を備える機種については、これらのモードでの消費電力)が、表に示された区分ごとの基準を満たすこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  使用済製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。                  分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。                  一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。                  裁断された紙の減容及び再生利用の容易さに配慮されていること。                  低電力モード又はオフモードへの移行時間は出荷時に10分以下にセットされていること。</p>
-----------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものについては、本項の判断の基準の対象とする「シュレッダー」に含まれないものとする。

裁断モーターの出力が500W以上のもの

裁断を行っていないときに、自動的に裁断モーターが停止しないもの

- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)
- 3 「待機電力」とは、電源を入れた状態で、裁断を行っていないときに消費される電力をいう。
- 4 「低電力モード」とは、一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられ実現される低電力状態をいう。
- 5 「オフモード」とは、一定時間が経過した後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。

表 シュレッダーに係る待機電力の基準

区分		待機電力(低電力モード又はオフモードを備える機種については、これらのモードの消費電力)
裁断モーターの出力	オートスタートの有無	
100W未満	有/無	< 2.5W
100W以上500W未満	有	< 3.0W
	無	< 2.0W

備考) 1 「裁断モーターの出力」とは、裁断に用いられるモーターの出力をいう。

- 2 「オートスタート」とは、紙の投入により自動的に裁断を開始し、裁断が終了すると自動的に運転を停止する機能をいう。

## 5 - 9 デジタル印刷機

### (1) 品目及び判断の基準等

デジタル印刷機 (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b>                  表に示された区分ごとの基準を上回らないこと。                  使用される用紙が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準(紙類参照)を満たす用紙に対応可能であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  インク容器の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。                  使用される電池には、カドミウム化合物、鉛化合物及び水銀化合物が含まれないこと。ただし、それらを含む電池が確実に回収され、再使用、再生利用又は適正処理される場合は、この限りでない。                  分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。                  一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。                  低電力モード(一定時間操作が行われなかった後に自動的に切り替えられる低電力状態をいう。以下同じ。)及びオートシャットオフモード(一定時間操作が行われなかった後に自動オフ機能によって電源を切った状態をいう。以下同じ。)への移行時間は出荷時に5分以下に設定されていること。ただし、出荷後、変更することができない構造の機械については既定値とする。</p>
------------------	---

- 備考) 1 「デジタル印刷機」とは、デジタル製版機能を有した孔版方式の全自動印刷機をいう。
- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 デジタル印刷機のエネルギー消費効率の基準

		デジタル印刷機エネルギー消費効率(W)			
		A3 対応機		B4 対応機, A4 対応機	
		プリンタ機能 作動時	プリンタ機能 非作動時	プリンタ機能 作動時	プリンタ機能 非作動時
プリンタ機能標準装備型		35.5	28	22	20
上記以外	プリンタ機能あり	35.5		22	
	プリンタ機能なし		24		19

- 備考) 1 「プリンタ機能標準装備型」とは、パソコンの出力プリンタとして動作する機能が標準装備として付加され、製品として切り離すことのできないものをいう。
- 2 「上記以外」とは、拡張機能としてパソコンの出力プリンタとして動作する機能を付加できるもの及びパソコンの出力プリンタとして動作することができないものをいう。
- 3 「A3 対応機」、「B4 対応機」、「A4 対応機」とは、次による。

A3 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 287mm、409mm 以上のもの

B4 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 250mm、353mm 以上のもの

A4 対応機：最大印刷領域の各辺がそれぞれ 204mm、288mm 以上のもの

#### 4 エネルギー消費効率の算定方法については次式による。

$$E = (A + 7 \times B) / 8$$

A：機械立ち上げ時の 1 時間における消費電力量 (Wh)

- ・ 電源の投入後、印刷速度はデフォルトで、テストチャートを使用して 1 版目を製版し、 の条件で印刷を行う。印刷終了後直ちに同じ条件で 2 版目の製版を開始し、 の条件で印刷を行う。その後その状態で放置するものとする。
- ・ 電源投入後速度変更はしない。

B：通常時の 1 時間における消費電力量 (Wh)

- ・ A の測定終了後 1 版目を製版し、 の条件で印刷を行う。印刷終了後直ちに同じ条件で 2 版目の製版を開始し、 の条件で印刷を行う。その後その状態で放置するものとする。

A、B の測定条件

1 版当たりの印刷枚数	200 枚 / 版
1 時間の製版枚数	2 版 / 時
1 時間の印刷枚数	400 枚 / 時
印刷速度	工場出荷時に設定された電源投入時の速度
テストチャート	A4、画像面積比率 4 ~ 7%
標準印刷用紙	64g/m <sup>2</sup> の上質紙
測定時の環境条件	温度：21 ± 3 / 湿度：65 ± 10%
	測定前に 12 時間以上放置

プリンタ機能非作動時の測定の場合、放置時におけるオートシャットオフモード又は低電力モードへの移行を認める。

低電力モード及びオートシャットオフモードへの移行時間は 5 分にセットする。ただし、出荷後、変更することができない構造の機械については既定値を用いる。

プリンタ機能作動時の測定の場合、オートシャットオフモード機能を作動させてはならない、また、放置時における低電力モードへの移行を認める。

## 5 - 10 記録用メディア

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>記録用メディア (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 次のいずれかの要件を満たすこと〔判断の基準はケースに適用〕。 再生プラスチック(備考2)がケース全体重量の30%以上使用されていること。 厚さ5mm程度以下のスリムタイプケースであること、又は集合タイプ(スピンドルタイプなど)であること。 植物を原料とするプラスチックであって環境負荷低減効果が確認されたもの(備考3)が使用されていること。 紙製にあつては、古紙パルプ配合率70%以上であること。また、紙の原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 材料に紙が含まれる場合でバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。(備考4) 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
--------------------------	--

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「記録用メディア」は、直径12cmのCD-R、CD-RW、DVD±R、DVD±RW、DVD-RAMとする。

- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)
- 3 「植物を原料とするプラスチックであつて環境負荷低減効果が確認されたもの」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。
- 4 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。  
ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

## 5 - 1 1 電池

### (1) 品目及び判断の基準等

一次電池又は小形充電式電池 (備考1、3)	<p><b>【判断の基準】</b>                  次のいずれかの要件を満たすこと。                  一次電池にあつては、表に示された負荷抵抗の区分ごとの最低平均持続時間又は最小平均持続時間(備考2)を下回らないこと。                  小形充電式電池(二次電池)であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  使用済みの小形充電式電池の回収システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
--------------------------	---

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「一次電池又は小形充電式電池」は、我が国における形状の通称「単1形」「単2形」「単3形」又は「単4形」とする。
- 2 「最低平均持続時間」又は「最小平均持続時間」は、JIS C 8511 又は JIS C 8515 に規定する放電試験条件に準拠して測定するものとする。
- 3 JIS C 8511 : 2004 (アルカリ一次電池) の適用は、平成 20 年 9 月 30 日までとする。

表 一次電池に係る最低平均持続時間又は最小平均持続時間

形状の通称 (寸法：高さ・直径)	負荷抵抗 ( )	最低平均持続時間又は 最小平均持続時間		J I S ごとの該当の有無	
		初 度	12 か月貯蔵後及び 使用推奨期間内	JISC 8511	JISC 8515
単 1 形 ( 61.5mm・ 34.2mm )	2.2	810 分	725 分		
	3.9	25 時間	22 時間		-
	10	81 時間	72 時間		
	2.2	15 時間	13 時間		
	1.5	450 分	405 分		
	600mA(放電電流)	11 時間	9.5 時間	-	
単 2 形 ( 50.0mm・ 26.2mm )	3.9	770 分	690 分		
	6.8	23 時間	20 時間		-
	20	77 時間	69 時間		
	3.9	12 時間	10 時間		
	400mA(放電電流)	8.0 時間	7.0 時間	-	
単 3 形 ( 50.5mm・ 14.5mm )	43	60 時間	54 時間		
	3.9	4.0 時間	3.6 時間		
	10	11.5 時間	10.0 時間		
	1000mA(放電電流)	200 回	180 回		
	24	31 時間	27 時間		
	250mA(放電電流)	4.5 時間	4.0 時間	-	
単 4 形 ( 44.5mm・ 10.5mm )	5.1	130 分	115 分		
	24	14.5 時間	13.0 時間		
	10	5.0 時間	4.5 時間		
	75	44 時間	39 時間		
	600mA(放電電流)	140 回	125 回		

JISごとの該当の有無・・・ : 該当、 - : 非該当

## 5 - 1 2 電子式卓上計算機

### (1) 品目及び判断の基準等

電子式卓上計算機（備考1）	<p><b>【判断の基準】</b> 使用電力の50%以上が太陽電池から供給されること。 再生プラスチック（備考2）がプラスチック重量の40%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
---------------	--

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「電子式卓上計算機」は、通常の行政事務の用に供するものとする。

- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

## 5 - 1 3 カートリッジ等

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>トナーカートリッジ (備考1、2、10)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>            使用済トナーカートリッジの回収及びマテリアルリサイクル (備考4) のシステムがあること。(備考7)            回収したトナーカートリッジ部品の再使用・マテリアルリサイクル率 (備考5) が製品全体質量 (トナーを除く) の50%以上であること。            回収したトナーカートリッジ部品の再資源化率 (備考6) が製品全体重量 (トナーを除く) の95%以上であること。            回収したトナーカートリッジ部品の再使用又は再生利用できない部分については適正処理されるシステムがあること。(備考8)            トナーの化学安全性 (備考9) が確認されていること。            感光体は、カドミウム、鉛、水銀、セレン及びその化合物を処方構成成分として含まないこと。            使用される用紙が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準 (紙類参照) を満たす用紙に対応可能であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
<p>インクカートリッジ (備考1、3、10)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>            使用済インクカートリッジの回収システムがあること。(備考7)            回収したインクカートリッジ部品の再資源化率が製品全体重量 (インクを除く) の95%以上であること。            回収したインクカートリッジ部品の再使用又は再生利用できない部分については適正処理されるシステムがあること。(備考8)            インクの化学安全性 (備考9) が確認されていること。            使用される用紙が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準 (紙類参照) を満たす用紙に対応可能であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            回収したインクカートリッジ部品の再使用又はマテリアルリサイクルの取組がなされていること。            製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「トナーカートリッジ」又は「インクカートリッジ」(以下「カートリッジ等」という。)は、新たに購入する補充用の製品であって、コピー機やプリンタなどの機器の購入時に装着又は付属しているものは含まない。

2 「トナーカートリッジ」とは、電子写真方式を利用したコピー機、プリンタ及びファクシミリ等の機器に使用されるトナーを充填したトナー容器、感光体又は現像ユニットのいずれか2つ以上を組み合わせる構成される印字のためのカートリッジであって、「新品トナーカートリッジ」又は「再生トナーカートリッジ」をいう。ただし、現像ユニット及び感光体から構成されるカートリッジについては、トナー容器とのセット販売品に限り対象とし、トナー容器単体、感光体単体又は現像ユニット単体で構成される製品は対象外とする。

1) 「新品トナーカートリッジ」とは、本体機器メーカーによって製造又は委託製造されたトナーカートリッジをいう。



- 2) 「再生トナーカートリッジ」とは、使用済トナーカートリッジにトナーを再充填し、必要に応じて消耗部品を交換し、包装又は同梱される印刷物又は取扱説明書のいずれかに再生カートリッジであることの表記をされたトナーカートリッジをいう。
- 3 「インクカートリッジ」とは、インクジェット方式を利用したコピー機、プリンタ及びファクシミリ等の機器に使用されるインクを充填したインクタンク及び印字ヘッド付きインクタンクである印字のためのカートリッジであって、「新品インクカートリッジ」又は「再生インクカートリッジ」をいう。
- 1) 「新品インクカートリッジ」とは、本体機器メーカーによって製造又は委託製造されたインクカートリッジをいう。
- 2) 「再生インクカートリッジ」とは、使用済インクカートリッジにインクを再充填し、必要に応じて消耗部品を交換し、包装又は同梱される印刷物又は取扱説明書のいずれかに再生カートリッジであることの表記をされたインクカートリッジをいう。
- 4 「マテリアルリサイクル」とは、材料としてのリサイクルをいう。エネルギー回収や油化、ガス化、高炉還元、コークス炉化学原料化は含まない。
- 5 「再使用・マテリアルリサイクル率」とは、使用済みとなって排出され、再資源化を目的に回収後、再資源化工程へ投入されたトナーカートリッジ質量のうち、再使用又はマテリアルリサイクルされた部品質量の割合をいう。
- 6 「再資源化率」とは、使用済みとなって排出され、再資源化を目的に回収後、再資源化工程へ投入されたカートリッジ等質量のうち、再使用、マテリアルリサイクル、エネルギー回収や油化、ガス化、高炉還元又はコークス炉化学原料化された部品質量の割合をいう。
- 7 トナーカートリッジに係る判断の基準 及びインクカートリッジに係る判断の基準 の「回収システムがあること」とは、次の要件を満たすことをいう。
- ア．製造事業者又は販売事業者が自主的に使用済みのカートリッジ等を回収（自ら回収し、又は他の者に委託して回収することをいう。複数の事業者が共同して回収することを含む。）するルート（販売店における回収ルート、逆流通ルートによる回収、使用者の要請に応じた回収等）を構築していること。
- イ．カートリッジ本体に、製品名及び事業者名（ブランド名なども可）をユーザが見やすいように記載していること。
- ウ．製品の包装、同梱される印刷物、本体機器製品の取扱説明書又はウェブのいずれかでユーザに対し使用済カートリッジ等の回収に関する具体的な情報（回収方法、回収窓口等）提供がなされていること。
- 8 トナーカートリッジに係る判断の基準 及びインクカートリッジに係る判断の基準 の「適正処理されるシステムがあること」とは、再使用又は再生利用できない部分については、使用済カートリッジ等を回収した事業者が自らの責任において適正に処理・処分していることをいい、他の事業者が実施する回収システムによって行う処理（事業者間において交わされた契約、合意等によって行う場合を除く。）は含まれない。
- 9 トナー及びインクの「化学安全性」とは、次の基準による。
- ア．トナー及びインクには、以下の ~ の各物質が意図的に添加されていないこと。
- カドミウム、鉛、水銀、六価クロム、ニッケル及びその化合物。ただし、着色剤として用いられる分子量の大きいニッケルの錯化合物を除く。
- EU の危険な物質の分類、包装、表示に関する法律、規制、行政規定の近似化に関する EC 理事会指令 67/548/EEC の付属書 I により次の R 番号の表示が義務付けられている物質
- R40（発がん性の限定的な証拠がある）
  - R45（発がん性がある）
  - R46（遺伝可能な損害を引き起こす可能性がある）
  - R49（吸入すると発がん性がある）

- R60 (生殖能力に危害を与える可能性がある)
- R61 (胎児に危害を与える可能性がある)
- R62 (場合によっては生殖能力に危害を与える可能性がある)
- R63 (場合によっては胎児に危害を与える可能性がある)
- R68 (不可逆的な危害の可能性はある)

EC 理事会指令 67/548/EEC の付属書 及び 1999/45/EC により、製品全体として危険シンボルを表示する必要性を生じさせる物質

1 つ以上のアゾ基が分解されて別表 1 に示すアミンを放出する可能性のあるアゾ着色剤 (染料又は顔料)

イ . トナー及びインクに関し、Ames 試験において陰性であること。

ウ . トナー及びインクの MSDS (化学物質等安全データシート) を備えていること。

別表 1 特定の芳香族アミン

	化学物質名	CAS No .
1	4-アミノジフェニル	92-67-1
2	ベンジジン	92-87-5
3	4-クロロ- <i>o</i> -トルイジン	95-69-2
4	2-ナフチルアミン	91-59-8
5	<i>o</i> -アミノアゾトルエン	97-56-3
6	2-アミノ-4-ニトロトルエン	99-55-8
7	<i>p</i> -クロロアニリン	106-47-8
8	2,4-ジアミノアニソール	615-05-4
9	4,4'-ジアミノジフェニルメタン	101-77-9
10	3,3'-ジクロロベンジジン	91-94-1
11	3,3'-ジメトキシベンジジン	119-90-4
12	3,3'-ジメチルベンジジン	119-93-7
13	3,3'-ジメチル-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	838-88-0
14	<i>p</i> -クレシジン	120-71-8
15	4,4'-メチレン-ビス-(2-クロロアニリン)	101-14-4
16	4,4'-オキシジアニリン	101-80-4
17	4,4'-チオジアニリン	139-65-1
18	<i>o</i> -トルイジン	95-53-4
19	2,4-トルイレンジアミン	95-80-7
20	2,4,5-トリメチルアニリン	137-17-7
21	<i>o</i> -アニシジン	90-04-0
22	4-アミノアゾベンゼン	60-90-3

10 各機関は、カートリッジ等の調達に当たって、本体機器への影響や印刷品質を勘案し、次の事項に十分留意すること。

ア . 以下のカートリッジ等の品質保証がなされていること。

自社規格によって品質管理が十分なされたものであり、印字不良・ジャム・トナー/インク漏れ・ノズル詰り・本体破損などの品質不良についての品質保証 (使用される製品に起因する品質不良が発生した場合において、代替品の手配、機器本体の修理等) がなされていること (一般に本体機器の保証外のカートリッジ等の使用に起因する不具合への対応は、保守契約又は保証期間内であっても有償となる場合が多い)。

本項の判断の基準を満足する製品の使用に起因するコピー機、プリンタ等の機器本体への破損故障等の品質に係る問題が発生した場合は、当該製品の情報 (製品名、事業者名、ブランド名、機器本体名等) 及び発生した問題を記録するよう努めること。

イ . 使用目的・用途等を踏まえインクカートリッジを選択すること。

写真画質等の高い印刷品質が必要な場合、長期保存する場合、直射日光の当たる場所

での使用を想定する場合等は、耐光性、耐オゾン性、耐水性等に優れ、本体機器と連携のとれたインクカートリッジを選択すること。

新品インクカートリッジに充填されているインクと再生インクカートリッジに充填されているインクは同一のものではないことから発色が異なることを認識し、使用するインクカートリッジを選択すること。

## 6 . 家電製品

### 6 - 1 電気冷蔵庫等

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>電気冷蔵庫</p> <p>電気冷凍庫</p> <p>電気冷凍冷蔵庫 (備考1、2、4)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>表に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/90を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないこと。(備考5)</p> <p>冷媒及び断熱材発泡剤にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。</p> <p>冷媒及び断熱材発泡剤にハイドロフルオロカーボン(いわゆる代替フロン)が使用されていないこと。</p> <p>特定の化学物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE)の含有情報がウェブを始めラベル等で容易に確認できること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>冷媒及び断熱材発泡剤に可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。</p> <p>資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。</p> <p>プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考3)が可能な限り使用されていること。</p> <p>使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
--	---

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「電気冷蔵庫」「電気冷凍庫」及び「電気冷凍冷蔵庫」に含まれないものとする。

熱電素子を使用するもの

業務の用に供するために製造されたもの

吸収式のもの

電気冷凍庫のうち横置き型のもの

2 特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2005(電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法)に定める方法によること。なお、判断の基準 については、電気冷凍庫には適用しない。

3 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

4 各機関は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

5 判断の基準 については、定格内容積 141 リットル以上 350 リットル以下のものは、基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでの期間は、表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に 100/80 を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、当該

期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。

表 電気冷蔵庫等に係る基準エネルギー消費効率算定式

種 別	区 分			基準エネルギー消費効率算定式
	冷却方式	定格内容積	冷蔵室区画の扉の枚数	
電気冷蔵庫及び 電気冷凍冷蔵庫	冷気自然対流方式のもの			$E=0.844 \times V_1+155$
	冷気強制循環方式のもの	300 リットル以下		$E=0.774 \times V_1+220$
		300 リットル超	1 枚	$E=0.302 \times V_1+343$
			2 枚以上	$E=0.296 \times V_1+374$
電気冷凍庫	冷気自然対流方式のもの			$E=0.844 \times V_2+155$
	冷気強制循環方式のもの	300 リットル以下		$E=0.774 \times V_2+220$
		300 リットル超		$E=0.302 \times V_2+343$

備考) 1 E 及び  $V_1$ 、 $V_2$  は、次の数値を表す。

E : 基準エネルギー消費効率 (単位 : kWh/年)

$V_1$  : 調整内容積 (冷凍室の定格内容積に、当該冷凍室がスリースター室タイプのものにあつては 2.20 を、ツースター室タイプのものにあつては 1.87 を、ワンスター室タイプのものにあつては 1.54 を乗じた数値に冷凍室以外の貯蔵室の定格内容積を加え、小数点以下を四捨五入した数値)(単位 : L)

$V_2$  : 調整内容積 (冷凍室の定格内容積に、当該冷凍室がスリースター室タイプのものにあつては 2.20 を、ツースター室タイプのものにあつては 1.87 を、ワンスター室タイプのものにあつては 1.54 を乗じ、小数点以下を四捨五入した数値)(単位 : L)

- 2 電気冷蔵庫及び電気冷凍冷蔵庫のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 286 号 (平成 18 年 9 月 19 日) の「2 エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。
- 3 電気冷凍庫のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 287 号 (平成 18 年 9 月 19 日) の「3 エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

## 6 - 2 テレビジョン受信機

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>テレビジョン受信機 (備考1、2、4、5)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>            ブラウン管を有するテレビジョン受信機（以下「ブラウン管テレビ」という。）にあっては、表1に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/118を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないこと。            液晶パネルを有するテレビジョン受信機（以下「液晶テレビ」という。）にあっては、表2に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/124を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないこと。(備考6)            プラズマディスプレイパネルを有するテレビジョン受信機（以下「プラズマテレビ」という。）にあっては、表3に示された区分ごとの算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/124を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないこと。            特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有情報がウェブを始めラベル等で容易に確認できること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は原材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。            プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考3）が可能な限り使用されていること。            製品の包装は、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。また、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
----------------------------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「テレビジョン受信機」に含まれないものとする。

産業用のもの

水平周波数が 33.8 キロヘルツを超えるブラウン管方式マルチスキャン対応のもの

海外からの旅行者向けのもの

リアプロジェクション方式のもの

受信方サイズが 10 型若しくは 10V 型以下のもの

ワイヤレス方式のもの

液晶テレビのうち直視型蛍光管バックライトを使用するもの以外のもの

プラズマテレビのうち垂直方向の画素数が 1,080 以上であって水平方向の画素数が 1,920 以上のもの

電子計算機用ディスプレイであってテレビジョン放送受信機能を有するもの

- 2 特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2005（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。
- 3 「再生プラスチック」とは、製品として使用された後に廃棄されたプラスチック及び製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材又は不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 4 各機関は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

- 5 テレビジョン受信機の調達に当たっては、平成23年7月に現行のアナログ放送が終了することから、使用期間等を勘案し、地上デジタルテレビ放送への対応にも留意すること。
- 6 液晶テレビにかかる判断の基準については、受信機型サイズが19V型以下のものは、基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでの期間は、表2に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算出した基準エネルギー消費効率に100/112を乗じて整数以下を切り捨てたものを上回らないことで特定調達物品等とみなすこととする。なお、当該期間については、市場動向を勘案しつつ、検討を実施することとする。

表1 ブラウン管テレビに係るその形態等の区分ごとの基準エネルギー消費効率算定式

区 分					基準エネルギー消費効率算定式
走査方式	アスペクト比	偏向角度	形 状	機 能	
通常走査方式のもの	4:3	100度以下のもの	フラット型以外	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外	$E=2.5 \times S+32$
				VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=2.5 \times S+60$
			フラット型	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外	$E=2.5 \times S+42$
				VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=2.5 \times S+70$
		100度超のもの	フラット型以外	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外	$E=5.1 \times S-4$
				VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=5.1 \times S+24$
			フラット型	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外	$E=5.1 \times S+21$
				VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=5.1 \times S+49$
	16:9	フラット型以外	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能が無いもの	$E=5.1 \times S-11$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=5.1 \times S+17$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を1つ有するもの	$E=5.1 \times S+6$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を2つ有するもの	$E=5.1 \times S+13$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を3つ有するもの	$E=5.1 \times S+59$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を3つ有するもの	$E=5.1 \times S+59$	
		フラット型	VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能が無いもの	$E=5.1 \times S-1$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの	$E=5.1 \times S+27$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を1つ有するもの	$E=5.1 \times S+16$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を2つ有するもの	$E=5.1 \times S+23$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を2つ有するもの	$E=5.1 \times S+23$	
			VTR(又はDVD)内蔵のもの以外であって付加機能を3つ有するもの	$E=5.1 \times S+69$	
倍速走査方式のもの				アナログハイビジョンテレビ	$E=5.5 \times S+72$
				アナログハイビジョンテレビ以外のもの	$E=5.5 \times S+41$

- 備考) 1 「受信機型サイズ」とは、表示画面の対角外径寸法をセンチメートル単位で表した数値を2.54で除して小数点以下を四捨五入した数値をいう。以下表2及び表3において同じ。
- 2 「フラット型」とは、ブラウン管表面の中心と周辺部間の最大落差値のブラウン管の対角寸法値に対する百分率比が0.5%以下のもの(ただし、周辺部及び対角寸法の測定位置は有効画面プラス5ミリメートル以内のこと。)を使用したものをいう。
- 3 「アナログハイビジョンテレビ」とは、走査線数1,125本であって、画面の横縦比が16:9のブラウン管テレビのうち、MUSEデコーダー及び衛星放送受信機能を有するものをいう。
- 4 「付加機能」とは、2チューナー2画面分割機能、文字多重放送受信機能、MUSE-NTSCコンバータをいう。

- 5 E及びSは次の数値を表すものとする。以下表2及び表3において同じ。  
 E：基準エネルギー消費効率（単位：kWh/年）  
 S：受信機型サイズ
- 6 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第48号（平成18年3月29日）の「2エネルギー消費効率の測定方法」による。以下表2及び表3において同じ。

表2 液晶テレビに係るその形態等の区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式

アスペクト比	画素数	受信機型サイズ	区 分		基準エネルギー消費効率又は算定式
			機 能	付 加 価 値	
4:3	垂直方向の画素数が650未満	15V型未満	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	下記以外のもの	E=44
				付加機能を1つ有するもの	E=58
				付加機能を2つ有するもの	E=72
		15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの	下記以外のもの	E=58
				HDDを有するもの	E=72
				付加機能を1つ有するもの	E=5.9×S-45
	垂直方向の画素数が650以上	15V型未満	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=5.9×S-31
				付加機能を2つ有するもの	E=5.9×S-16
				下記以外のもの	E=5.9×S-31
		15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの	HDDを有するもの	E=5.9×S-16
				下記以外のもの	E=49
				付加機能を1つ有するもの	E=64
16:9	垂直方向の画素数が650未満	15V型未満	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を2つ有するもの	E=78
				下記以外のもの	E=59
				HDDを有するもの	E=73
		15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=5.4×S-32
				付加機能を2つ有するもの	E=5.4×S-17
				付加機能を3つ有するもの	E=5.4×S-3
	垂直方向の画素数が650以上1080未満	15V型未満	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	下記以外のもの	E=5.4×S-22
				HDDを有するもの	E=5.4×S-8
				付加機能を1つ有するもの	E=8.1×S-86
		15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=8.1×S-72
				付加機能を2つ有するもの	E=8.1×S-58
				付加機能を3つ有するもの	E=8.1×S-45
垂直方向の画素数が1080以上	15V型未満	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=7.5×S-31	
			付加機能を2つ有するもの	E=7.5×S-17	
			付加機能を3つ有するもの	E=7.5×S-3	
	15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=8.1×S-66	
			付加機能を2つ有するもの	E=8.1×S-52	
			付加機能を3つ有するもの	E=8.1×S-38	
垂直方向の画素数が1080以上	15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	付加機能を1つ有するもの	E=7.5×S-40	
			付加機能を2つ有するもの	E=7.5×S-25	
			付加機能を3つ有するもの	E=7.5×S-11	
			付加機能を3つ有するもの	E=7.5×S+3	
垂直方向の画素数が1080以上	15V型以上	DVD再生機能のみ有するもの以外のもの	下記以外のもの	E=8.9×S-55	
			付加機能を1つ有するもの	E=8.9×S-41	
			付加機能を2つ有するもの	E=8.9×S-26	
			付加機能を3つ有するもの	E=8.9×S-12	



- 備考) 1 「HDD」とは、磁気ディスク装置をいう。以下同じ。
- 2 「付加機能」とは、DVD(録画機能を有するものに限る。)、HDD、ダブルデジタルチューナーをいう。

表3 プラズマテレビに係るその形態等の区分ごとの基準エネルギー消費効率算定式

受信機型サイズ	区 分	基準エネルギー消費効率算定式
	付 加 価 値	
43V 型未満	下記以外のもの	$E=7.9 \times S+30$
	付加機能を1つ有するもの	$E=7.9 \times S+44$
	付加機能を2つ有するもの	$E=7.9 \times S+58$
	付加機能を3つ有するもの	$E=7.9 \times S+73$
43V 型以上	下記以外のもの	$E=15.9 \times S-314$
	付加機能を1つ有するもの	$E=15.9 \times S-300$
	付加機能を2つ有するもの	$E=15.9 \times S-286$
	付加機能を3つ有するもの	$E=15.9 \times S-272$

- 備考) 「付加機能」とは、DVD(録画機能を有するものに限る。)、HDD、ダブルデジタルチューナーをいう。

## 6 - 3 電気便座

### (1) 品目及び判断の基準等

電気便座 (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b> エネルギー消費効率が表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算出された値を上回らないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 一度使用された製品からの再使用部品が可能な限り使用されていること、又は、プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック (備考2) が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「電気便座」に含まれないものとする。

他の給湯設備から温水の供給を受けるもの

温水洗浄装置のみのも

- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう (ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 電気便座に係る基準エネルギー消費効率又はその算定式

区 分	基準エネルギー消費効率又はその算定式
暖房便座	162
温水洗浄便座であって貯湯タンクを有しないもの	189
温水洗浄便座であって貯湯タンクを有するもの	$P = 38.3 \times L + 243$

備考) 1 「暖房便座」とは、暖房用の便座のみを有するものをいう。

- 2 「温水洗浄便座」とは、暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだものいう。

- 3 P及びLは、次の数値を表すものとする。

P：基準エネルギー消費効率 (単位：kWh/年)

L：貯湯量 (貯湯タンクのヒーターから上部の容積とし、当該容積は、ヒーターの位置を上にして水平になるように貯湯タンクを設置し、ヒーターの上面まで水を入れ、その水量を測定した数値とする。)(単位：L)

- 4 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第59号 (平成18年3月29日) の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

## 7. エアコンディショナー等

### 7-1 エアコンディショナー

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>エアコンディショナー (備考1、4、5)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 冷暖房の用に供し、かつ、家庭用品品質表示法施行令別表第3号(七)のエアコンディショナーであって、直吹き形で壁掛け形のもの(マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)のうち冷房能力が4.0kW以下のものについては、表1に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率に92/100を乗じて小数点以下1桁未満の端数を切り上げたものを下回らないこと。 上記以外の冷暖房の用に供するエアコンディショナーについては、表2に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率(ただし、家庭用品品質表示法施行令別表第3号(七)のエアコンディショナーであって、直吹き形でウィンド形又はウォール形のもの及び直吹き形で壁掛け形のものにあっては120/100を乗じて小数点以下1桁未満の端数を切り上げたもの)を下回らないこと。 冷房の用にのみ供するエアコンディショナーについては、表3に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。 冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 特定の化学物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE)の含有情報がウェブを始めラベル等で容易に確認できること。(備考2)</p> <p><b>【配慮事項】</b> 資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考3)が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
---------------------------------	---

備考) 1 次のいずれかに該当するものについては、本項の判断の基準の対象とする「エアコンディショナー」に含まれないものとする。

冷房能力が28kWを超えるもの

水冷式のもの

圧縮用電動機を有しない構造のもの

電気以外のエネルギーを暖房の熱源とする構造のもの

機械器具の性能維持若しくは飲食物の衛生管理のための空気調和を目的とする温度制御機能又は除じん性能を有する構造のもの

専ら室外の空気を冷却して室内に送風する構造のもの

スポットエアコンディショナー

車両その他の輸送機関用に設計されたもの

室外測熱交換器の給排気口にダクトを有する構造のもの

冷房のための熱を蓄える専用の蓄熱槽(暖房用を兼ねるものを含む。)を有する構造のもの

高気密・高断熱住宅用に設計されたもので、複数の居室に分岐ダクトで送風し、換気装置と連動した制御を行う構造のもの

専用の太陽電池モジュールで発生した電力によって圧縮機、送風機その他主要構成機器を駆動する構造のもの

床暖房又は給湯の機能を有するもの

- 2 判断の基準 については、ユニット型エアコンディショナー（パッケージ用のものを除く。）に適用することとし、特定の化学物質の含有表示方法は、JIS C 0950:2005（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）に定める方法によること。
- 3 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 4 各機関は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。
- 5 空冷式熱交換器にドレン水又は雨水を噴霧又は散水することにより、潜熱を利用して冷却効果を高め、熱交換器から発生する顕熱を抑制する省エネルギー補助装置については、今後の技術開発や市場化の動向を踏まえ、品目への追加を検討する。

表1 冷暖房の用に供するエアコンディショナーに係る基準エネルギー消費効率

冷房能力	区 分	基準エネルギー消費効率
	室内機の寸法タイプ	
3.2kW 以下	寸法規定タイプ	5.8
	寸法フリータイプ	6.6
3.2kW 超 4.0kW 以下	寸法規定タイプ	4.9
	寸法フリータイプ	6.0

備考) 1 「室内機の寸法タイプ」とは、室内機の横幅寸法 800 ミリメートル以下かつ高さ 295 ミリメートル以下の機種を寸法規定タイプとし、それ以外を寸法フリータイプとする。

- 2 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 285 号(平成 18 年 9 月 19 日)の「3 エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

表2 冷暖房の用に供するエアコンディショナーに係る基準エネルギー消費効率

区 分		基準エネルギー消費効率
ユニットの形態	冷房能力	
直吹き形でウィンド形又はウォール形のもの		2.85
直吹き形で壁掛け形のもの(マルチタイプのものでうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	2.5kW 以下	5.27
	2.5kW 超 3.2kW 以下	4.90
	3.2kW 超 4.0kW 以下	3.65
	4.0kW 超 7.1kW 以下	3.17
	7.1kW 超	3.10
直吹き形でその他のもの(マルチタイプのものでうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	2.5kW 以下	3.96
	2.5kW 超 3.2kW 以下	3.96
	3.2kW 超 4.0kW 以下	3.20
	4.0kW 超 7.1kW 以下	3.12
	7.1kW 超	3.06
ダクト接続形のもの(マルチタイプのものでうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	4.0kW 以下	3.02
	4.0kW 超 7.1kW 以下	3.02
	7.1kW 超	3.02
マルチタイプのものであって室内機の運転を個別制御するもの	4.0kW 以下	4.12
	4.0kW 超 7.1kW 以下	3.23
	7.1kW 超	3.07

- 備考) 1 「ダクト接続形のもの」とは、吹き出し口にダクトを接続するものをいう。以下表3において同じ。
- 2 「マルチタイプのもの」とは、1の室外機に2以上の室内機を接続するものをいう。以下表3において同じ。
- 3 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第285号(平成18年9月19日)の「3エネルギー消費効率の測定方法(1)」による。以下表3において同じ。

表3 冷房の用のみに供するエアコンディショナーに係る基準エネルギー消費効率

区 分		基準エネルギー消費効率
ユニットの形態	冷 房 能 力	
直吹き形でウィンド形又はウォール形のもの		2.67
直吹き形で壁掛け形のもの(マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	2.5kW 以下	3.64
	2.5kW 超 3.2kW 以下	3.64
	3.2kW 超 4.0kW 以下	3.08
	4.0kW 超 7.1kW 以下	2.91
	7.1kW 超	2.81
直吹き形でその他のもの(マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	4.0kW 以下	2.88
	4.0kW 超 7.1kW 以下	2.85
	7.1kW 超	2.85
ダクト接続形のもの(マルチタイプのもののうち室内機の運転を個別制御するものを除く。)	4.0kW 以下	2.72
	4.0kW 超 7.1kW 以下	2.71
	7.1kW 超	2.71
マルチタイプのものであって室内機の運転を個別制御するもの	4.0kW 以下	3.23
	4.0kW 超 7.1kW 以下	3.23
	7.1kW 超	2.47

## 7 - 2 ガスヒートポンプ式冷暖房機

### (1) 品目及び判断の基準等

ガスヒートポンプ式冷暖房機 (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b>                  成績係数が表に示された区分の数値以上であること。                  冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。                  プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。                  製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
------------------------	--

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ガスヒートポンプ式冷暖房機」は、定格冷房能力が、7.1kW を超え 28kW 未満のものとする。
- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 ガスヒートポンプ式冷暖房機に係る成績係数

区分	成績係数の種類	成績係数
JIS 適合機種	期間成績係数 (APF)	1.42
JIS 適合外機種	一次エネルギー換算成績係数 (COP)	1.15

- 備考) 1 期間成績係数 (APF) の算出方法は、JIS B 8627-1 による。
- 2 一次エネルギー換算成績係数 (COP) の算出方法については次式による。また、定格周波数が 50 ヘルツ・60 ヘルツ共用のものにあつては、それぞれの周波数で測定した数値により算定した数値のうち小さい方の値とする。
- $$COP = (Cc / (Egc + Eec) + Ch / (Egh + Eeh)) / 2$$
- COP : 一次エネルギー換算成績係数
- Cc : 冷房標準能力 (単位 : kW)
- Egc : 冷房ガス消費量 (単位 : kW)
- Eec : 冷房消費電力 (単位 : kW) を 1kWh につき 9,760kJ として 1 次エネルギーに換算した値 (単位 : kW)
- Ch : 暖房標準能力 (単位 : kW)
- Egh : 暖房ガス消費量 (単位 : kW)
- Eeh : 暖房消費電力 (単位 : kW) を 1kWh につき 9,760kJ として 1 次エネルギーに換算した値 (単位 : kW)
- 3 冷房標準能力、冷房ガス消費量、冷房消費電力、暖房標準能力、暖房ガス消費量及び暖房消費電力については、JIS B 8627-2 又は B 8627-3 の規定する方法により測定する。
- 4 冷房消費電力、暖房消費電力については、室外機の実効消費電力とする。

## 7 - 3 ストープ

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>ストーブ (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>            ガスストーブにあつては、エネルギー消費効率が表1に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。            石油ストーブにあつては、エネルギー消費効率が表2に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率又は算定式を用いて算出された値を下回らないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。            プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック (備考2) が可能な限り使用されていること。            製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ストーブ」は、ガス又は灯油を燃料とするものに限り、次のいずれかに該当するものは、これに含まれないものとする。

開放式のもの

ガス(都市ガスのうち13Aのガスグループ(ガス事業法施行規則(昭和45年通商産業省令第97号)第25条第3項のガスグループをいう。以下同じ。)に属するもの及び液化石油ガスを除く。)を燃料とするもの

半密閉式ガスストーブ

最大の燃料消費量が4.0 L/hを超える構造の半密閉式石油ストーブ

最大の燃料消費量が2.75 L/hを超える構造の密閉式石油ストーブ

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表1 ガスストーブに係る基準エネルギー消費効率

区 分	基準エネルギー消費効率
密閉式	82.0

備考) エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第55号(平成18年3月29日)の「3エネルギー消費効率の測定方法」による。以下表2において同じ。



表2 石油ストーブに係る基準エネルギー消費効率又はその算定式

区 分		基準エネルギー消費効率 又はその算定式
給排気方式	伝熱方式	
密閉式	自然対流式	83.5
	強制対流式	86.0
半密閉式	放射式	69.0
	放射式以外のものであって最大の燃料消費 量が1.5 L/h 以下のもの	67.0
	放射式以外のものであって最大の燃料消費 量が1.5 L/h を越えるもの	$E = -3.0 \times L + 71.5$

備考) E及びLは、次の数値を表す。

E：基準エネルギー消費効率（単位：％）

L：最大燃料消費量（単位：L/h）

## 8 . 温水器等

### 8 - 1 電気給湯器

#### (1) 品目及び判断の基準等

ヒートポンプ式 電気給湯器	<p><b>【判断の基準】</b>            成績係数が3.50以上であること。(備考1)            冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。            ハイドロフルオロカーボン(いわゆる代替フロン)が使用されていないこと。(備考3)</p> <p><b>【配慮事項】</b>            分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。            プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。            製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
------------------	--

備考) 1 成績係数の算出方法は、次式による。

$$\text{成績係数 (COP)} = \text{定格加熱能力} / \text{定格消費電力}$$

定格加熱能力：ヒートポンプユニットが表に規定された定格加熱条件で運転した時に、循環する湯水に与えられる熱量。加熱ヒータにより同時に加熱を行うシステムの場合は、その熱量も加えたものとする。(単位：kW)

定格消費電力：ヒートポンプユニットが表に規定された定格加熱条件で運転した時に、消費する電力の合計。加熱ヒータにより同時に加熱を行うシステムの場合は、その消費電力も加えたものとする。(単位：kW)

表 定格加熱条件

項目	定格加熱条件(単位： )
外気温度(DB/WB)	16/12
給水温度	17
出湯温度	65

給水温度：ヒートポンプ式給湯器に供給される市水温度。(単位： )

出湯温度：ヒートポンプユニットの出口温度。(単位： )

- 2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)
- 3 判断の基準 は、業務の用に供するために製造されたものについては適用しないものとする。

## 8 - 2 ガス温水機器

### (1)品目及び判断の基準等

<p>ガス温水機器 (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> エネルギー消費効率が表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------------------	---

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「ガス温水機器」に含まれないものとする。

貯蔵式湯沸器

業務の用に供するために製造されたもの

ガス(都市ガスのうち13Aのガスグループに属するもの及び液化石油ガスを除く。)を燃料とするもの

浴室内に設置する構造のガスふろがまであって、不完全燃焼を防止する機能を有するもの

給排気口にダクトを接続する構造の密閉式ガスふろがま

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 ガス温水機器に係る基準エネルギー消費効率

ガス温水機器 の種別	区 分			基準エネルギー 消費効率	
	通気方式	循環方式	給排気方式		
ガス瞬間湯沸器	自然通気式		開放式	83.5	
			開放式以外のもの	78.0	
	強制通気式		屋外式以外のもの	80.0	
			屋外式	82.0	
ガスふろがま（給湯付のもの以外）	自然通気式	自然循環式	半密閉式又は密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの）	75.5	
			密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの以外）	71.0	
			屋外式	76.4	
	強制通気式	自然循環式		70.8	
			強制循環式	77.0	
ガスふろがま（給湯付のもの）	自然通気式	自然循環式	半密閉式又は密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの）	78.0	
			密閉式（給排気部が外壁を貫通する位置が半密閉式と同程度の高さのもの以外）	77.0	
			屋外式	78.9	
	強制通気式	自然循環式		76.1	
			強制循環式	屋外式以外のもの	78.8
			強制循環式	屋外式	80.4
ガス暖房機器（給湯付のもの以外）				83.4	
ガス暖房機器（給湯付のもの）				83.0	

備考) エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第57号（平成18年3月29日）の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

## 8 - 3 石油温水機器

### (1)品目及び判断の基準等

石油温水機器 (備考1)	<b>【判断の基準】</b> エネルギー消費効率が表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。  <b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。
-----------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「石油温水機器」に含まれないものとする。

ポット式バーナー付きふるがま

業務の用に供するために製造されたもの

薪材を燃焼させる構造を有するもの

ゲージ圧力0.1MPaを超える温水ボイラー

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表 石油温水機器に係る基準エネルギー消費効率

区 分			基準エネルギー消費効率
用 途	加熱形態	給排気方式 又は制御方式	
給湯用のもの	瞬間形		86.0
	貯湯式であって急速加熱形のもの		87.0
	貯湯式であって急速加熱形以外のもの		85.0
暖房用のもの	瞬間形	開放形	85.3
		半密閉式	79.4
		密閉式	82.1
	貯湯式であって急速加熱形のもの	オン - オフ制御	87.0
		オン - オフ制御以外のもの	82.0
	貯湯式であって急速加熱形以外のもの		84.0
浴用のもの	伝熱筒のあるもの		75.0
	伝熱筒のないもの		61.0

- 備考) 1 「給湯用のもの」とは、主として給湯用に供するものをいい、暖房用又は浴用に供するための機能が付随するものを含む。
- 2 「暖房用のもの」とは、主として暖房用に供するものをいい、給湯用又は浴用に供するための機能が付随するものを含む。
- 3 「浴用のもの」とは、主として浴用に供するものをいい、給湯用又は暖房用に供するための機能が付随するものを含む。
- 4 「急速加熱形のもの」とは、加熱時間 (JIS S3031 に規定する加熱速度の測定方法により測定した時間をいう。) が 200 秒以内のものをいう。
- 5 「伝熱筒」とは、貯湯部を貫通する煙道をいう。
- 6 「オン - オフ制御」とは、制御が点火又は消火に限り行われるものをいう。
- 7 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 58 号 (平成 18 年 3 月 29 日) の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

## 8 - 4 ガス調理機器

### (1)品目及び判断の基準等

<p>ガス調理機器 (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> こんろ部にあつては、表1に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。 グリル部にあつては、表2に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の算定式を用いて算定した値を上回らないこと。 オープン部にあつては、表3に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率の算定式を用いて算定した値を上回らないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック(備考2)が可能な限り使用されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------------------	--

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「ガス調理機器」に含まれないものとする。

業務の用に供するために製造されたもの

ガス(都市ガスのうち13Aのガスグループに属するもの及び液化石油ガスを除く。)を燃料とするもの

ガスグリル

ガスクッキングテーブル

ガス炊飯器

カセットこんろ

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

表1 ガス調理機器のこんろ部に係る基準エネルギー消費効率

ガス調理機器の種別	区 分		こんろ部 基準エネルギー消費効率
	設置形態	バーナーの数	
ガスこんろ	卓上形		51.0
	組込形		48.5
ガスグリル付こんろ	卓上形	2口以下	56.3
		3口以上	52.4
	組込形	2口以下	53.0
		3口以上	55.6
	キャビネット形又は据置形		49.7
ガスレンジ			48.4

- 備考) 1 「ガスレンジ」とは、ガスオープンとガスこんろを組み合わせたものをいう。
- 2 「卓上形」とは、台の上に置いて使用するものをいう。
- 3 「組込形」とは、壁又は台に組み込んで使用するものをいう。
- 4 「キャビネット形」とは、専用のキャビネットの上に取り付けて使用するものをいう。
- 5 「据置形」とは、台又は床面に据え置いて使用するものをいう。
- 6 こんろ部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年 3 月告示第 56 号の「3 エネルギー消費効率の測定方法(1)」による。

表2 ガス調理機器のグリル部に係る基準エネルギー消費効率算定式

燃焼方式	区 分		グリル部 基準エネルギー消費効率の算定式
	調理方式		
片面焼き	水あり		$E=25.1Vg+123$
	水なし		$E=25.1Vg+16.4$
両面焼き	水あり		$E=12.5Vg+172$
	水なし		$E=12.5Vg+101$

- 備考) 1 E 及び Vg は、次の数値を表すものとする。
- E : グリル部基準エネルギー消費効率 (単位 : Wh)
- Vg : 庫内容積 (単位 : L)
- 2 「片面焼き」とは、食材の片側から加熱調理する方式のものをいう。
- 3 「両面焼き」とは、食材の両面から加熱調理する方式のものをいう。
- 4 「水あり」とは、グリル皿に水を張った状態で調理する方式のものをいう。
- 5 「水なし」とは、グリル皿に水を張らない状態で調理する方式のものをいう。
- 6 「庫内容積」とは、焼網面積にグリル皿底面から入口上部までの高さを乗じた数値を小数点以下 2 桁で四捨五入した数値をいう。
- 7 グリル部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年 3 月告示第 56 号の「3 エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。



表3 ガス調理機器のオープン部（ガスオープンを含む）に係る基準エネルギー消費効率算定式

設置状態	オープン部 基準エネルギー消費効率の算定式
卓上又は据置形	$E=18.6V_0+306$
組込形	$E=18.6V_0+83.3$

備考) 1 E 及び  $V_0$  は、次の数値を表すものとする。

E : オープン部基準エネルギー消費効率 (単位 : Wh)

$V_0$  : 庫内容積 (単位 : L)

- 2 「卓上形」とは、台の上に置いて使用するものをいう。
- 3 「組込形」とは、壁又は台に組み込んで使用するものをいう。
- 4 「据置形」とは、台又は床面に据え置いて使用するものをいう。
- 5 「庫内容積」とは、庫内底面積に庫内高さを乗じた数値を小数点以下 2 桁で四捨五入した数値をいう。
- 6 オープン部のエネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省平成 18 年 3 月告示第 56 号の「3 エネルギー消費効率の測定方法(2)」による。

## 9 . 照明

### 9 - 1 照明器具

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>蛍光灯照明器具 (備考1、11)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．Hf インバータ方式器具であること。(備考2) イ．表に示された区分ごとの基準エネルギー消費効率を下回らないこと。 特定の化学物質(備考3)が含有率基準値を超えないこと。また、含有情報がウェブ等で容易に確認できること。(備考4)</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用若しくは再生利用システムがあること。</p>
<p>LED 照明器具 (備考5、11)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> エネルギー消費効率は、器具全体効率(備考6)で20lm/W以上であること。 定格寿命(備考7)は30,000時間以上であること。 特定の化学物質が含有率基準値を超えないこと。また、含有情報がウェブ等で容易に確認できること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用若しくは再生利用システムがあること。</p>
<p>LEDを光源とした 内照式表示灯 (備考8、11)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 定格寿命(備考9)は30,000時間以上であること。 特定の化学物質が含有率基準値を超えないこと。また、含有情報がウェブ等で容易に確認できること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄</p>

	<p>時の負荷低減に配慮されていること。又は、包装材の回収及び再使用若しくは再生利用システムがあること。</p> <p>プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック（備考10）が可能な限り使用されていること。</p>
--	---

備考) 1 次のいずれかに該当するものは、本項の判断の基準の対象とする「蛍光灯照明器具」に含まれないものとする。

防爆型のもの

耐熱型のもの

防じん構造のもの

耐食型のもの

車両その他の輸送機関用に設計されたもの

40 形未満の蛍光ランプを使用するもの(家庭用つりさげ形及び直付け形並びに卓上スタンド用けい光燈器具を除く。)

- 2 G23 口金に対応する安定器内蔵コンパクト形蛍光ランプを用いた卓上スタンドについては、Hf インバータ方式の照明器具とみなすこととする。
- 3 特定の化学物質とは、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ポリプロモビフェニル並びにポリプロモジフェニルエーテルをいう。
- 4 特定の化学物質の含有率基準値は、JIS C 0950:2005（電気・電子機器の特定の化学物質の含有表示方法）の附属書 A の表 A.1（特定の化学物質、化学物質記号、算出対象物質及び含有率基準値）の含有率基準値とする。また、同基準値を超える含有が許容される項目については、上記 JIS の附属書 B に準ずるものとする。なお、その他付属品等の扱いについては JIS C 0950:2005 に準ずるものとする。
- 5 本項の「LED 照明器具」とは、照明用白色 LED を用いた、ダウンライト、シーリングライト、ブラケット、ペンダントライト、スポットライト及び卓上スタンドとして使用する照明器具とする。
- 6 本項の LED 照明器具の「器具全体効率」とは、器具から出る全光束を定格消費電力で割った値とする（定格消費電力は、器具外部に独立型電源装置を設置する必要がある場合はその電源装置の定格消費電力とする。）。
- 7 本項の LED 照明器具の「定格寿命」とは、光源の初期の光束が 70%まで減衰するまでの時間とする。
- 8 本項の「LED を光源とした内照式表示灯」とは、内蔵する LED 光源によって文字等を照らす表示板、案内板等とし、放熱等光源の保護に対応しているものとする。
- 9 本項の LED を光源とした内照式表示灯の「定格寿命」とは、光源の初期の光束が 50%まで減衰するまでの時間とする。
- 10 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 11 各機関は、化学物質の適正な管理のため、物品の調達時に確認した特定の化学物質の含有情報を、当該物品を廃棄するまで管理・保管すること。

表 蛍光灯照明器具に係る基準エネルギー消費効率

区 分	基準エネルギー消費効率
1 直管形 110 形ラピッドスタート形蛍光ランプを用いるもの	79.0
2 直管形 40 形ラピッドスタート形蛍光ランプを用いるもの	71.0
3 直管形 40 形スタータ形蛍光ランプを用いるもの	60.5
4 直管形 20 形スタータ形蛍光ランプを用いるものであって電子安定器式のもの	77.0
5 直管形 20 形スタータ形蛍光ランプを用いるものであって磁気安定器式のもの	49.0
6 使用する環形蛍光ランプの大きさの区分の総和が 72 を超えるもの	81.0
7 使用する環形蛍光ランプの大きさの区分の総和が 62 を超え 72 以下のもの	82.0
8 使用する環形蛍光ランプの大きさの区分の総和が 62 以下のものであって電子安定器式のもの	75.5
9 使用する環形蛍光ランプの大きさの区分の総和が 62 以下のものであって磁気安定器式のもの	59.0
10 コンパクト形蛍光ランプを用いた卓上スタンド	62.5
11 直管形蛍光ランプを用いた卓上スタンド	61.5

備考) 1 「直管形 110 形ラピッドスタート形蛍光ランプを用いるもの」は、96 形コンパクト形蛍光ランプを用いるもの及び 105 形高周波点灯専用形コンパクト形蛍光ランプを用いるものを含む。

2 「直管形 40 形ラピッドスタート形蛍光ランプを用いるもの」は、36 形及び 55 形コンパクト形蛍光ランプを用いるもの並びに 32 形、42 形及び 45 形高周波点灯専用形コンパクト形蛍光ランプを用いるものを含む。

3 「ランプの大きさの区分」とは、JIS C 7601 ( 蛍光ランプ ( 一般照明用 ) ) 箇条 4 「形式及び種別」に規定する大きさの区分をいう。なお、環形高周波点灯専用形蛍光ランプにあつては、定格ランプ電力の値とする。ただし、高出力点灯するものにあつては、高出力点灯時のランプ電力の値とする。

4 エネルギー消費効率の算定法は、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 47 号 ( 平成 18 年 3 月 29 日 ) の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

## 9 - 2 ランプ

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>蛍光ランプ (直管型：大きさの区分 40 形蛍光ランプ) (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 次のいずれかの要件を満たすこと。 高周波点灯専用形(Hf)であること。 ラピッドスタート形又はスタータ形である場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率、ランプ効率で 80lm/W 以上であること。 イ．演色性は平均演色評価数 Ra が 80 以上であること。 ウ．管径は 32.5 ( ±1.5 ) mm 以下であること。 エ．水銀封入量は製品平均 10mg 以下であること。 オ．定格寿命は 10,000 時間以上であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
<p>電球形状のランプ</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 使用目的に不都合がなく器具に適合する場合は、次のいずれかの要件を満たすこと。 LED ランプ(備考2)である場合は、定格寿命(備考3)は 20,000 時間以上であること。 LED 以外の電球形状のランプ(備考4)(電球形蛍光ランプを含む。)である場合は、次の基準を満たすこと。 ア．エネルギー消費効率、ランプ効率で 40lm/W 以上であること。 イ．電球形蛍光ランプにあつては、水銀封入量は製品平均 5mg 以下であること。 ウ．定格寿命は 6,000 時間以上であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「電球形状のランプ」は、白熱電球用のソケットにそのまま使用可能であつて、フィラメント式ランプの代替となるものとする。

2 本項の「LED ランプ」とは、一般照明として使用する LED 使用の電球形状のランプ及び一般照明以外の特殊用途照明として使用する電球形状のランプとする。

3 本項の LED ランプの「定格寿命」とは、光源の初期の光束が 70%まで減衰するまでの時間とする。

4 電球形状のランプについては、人感センサー、調光機能の付いた回路、非常用照明(直流電源回路)等においては、上記判断の基準は適用しないものとする。

## 10 . 自動車等

### 10 - 1 自動車

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>自動車 (備考1、2、3)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 新しい技術の活用等により従来の自動車と比較して著しく環境負荷の低減を実現した自動車であって、次に掲げる自動車であること。 電気自動車 天然ガス自動車 メタノール自動車 ハイブリッド自動車 燃料電池自動車 ガソリン車 ア．乗用車にあつては、「低排出ガス車認定実施要領（平成12年運輸省告示第103号。以下「認定実施要領」という。）」の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表1に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．軽量車、軽貨物車又は中量車にあつては、認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表4に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 ディーゼル車 ア．乗用車にあつては、認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表2に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．軽量車、軽貨物車又は中量車にあつては、認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表5に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 LPガス車 ア．乗用車にあつては、認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表3に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車 イ．軽量車、軽貨物車又は中量車にあつては、認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス50%低減レベル以上に適合し、表6に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車</p> <p><b>【配慮事項】</b> 鉛の使用量（バッテリーに使用されているものを除く。）が可能な限り削減されていること。 資源有効利用促進法の判断の基準を踏まえ、製品の長寿命化及び省資源化又は部品の再使用若しくは材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 再生材が可能な限り使用されていること。 アイドリングストップ自動車として設計・製造されていること。</p>
--------------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「自動車」は、普通自動車、小型自動車及び軽自動車(ただし、判断の基準のうち から については二輪車を、 から については二輪車及び重量車を除く。)とする。

2 一般公用車(通常の行政事務の用に供する乗用自動車(乗車定員10名以下のものに限る。))であって、普通自動車又は小型自動車であるものをいう。以下同じ。)については、電気自動車、天然ガス自動車、メタノール自動車、ハイブリッド自動車、燃料電池自動車又は認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス75%低減レベルに適合し、ガソリン乗用自動車にあつては表1に示された区分ごとの燃費基準値を、ディーゼル乗用自動車にあつては表2に示された区分ごとの燃費基準値を、LPガス乗用自動車にあつては表3に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車とする。ただし、行政事務の遂行にあたり、目的に合致する適当な車種がない特別な場合には判断の基準、又はの自動車のうち、排ガス性能の良い自動車を優先して購入することとする。

3 京都議定書目標達成計画におけるバイオマス由来の輸送用燃料に係る記載内容を踏まえ、全本府省の一般公用車にあつては、複数事業者によりバイオガソリン(E3及びETBE)の供給体制が整備されていることから、その積極的な利用に努めること。なお、供給体制は今後順次整っていくことから、供給体制が整備されている地域から積極的な利用を検討すること。

表1 ガソリン乗用車に係る10・15モード燃費基準

区 分	燃費基準値
車両重量が 703kg未満	21.2km/L以上
車両重量が 703kg以上 828kg未満	18.8km/L以上
車両重量が 828kg以上1,016kg未満	17.9km/L以上
車両重量が1,016kg以上1,266kg未満	16.0km/L以上
車両重量が1,266kg以上1,516kg未満	13.0km/L以上
車両重量が1,516kg以上1,766kg未満	10.5km/L以上
車両重量が1,766kg以上2,016kg未満	8.9km/L以上
車両重量が2,016kg以上2,266kg未満	7.8km/L以上
車両重量が2,266kg以上	6.4km/L以上

表2 ディーゼル乗用車に係る10・15モード燃費基準

区 分	燃費基準値
車両重量が1,016kg未満	18.9km/L以上
車両重量が1,016kg以上1,266kg未満	16.2km/L以上
車両重量が1,266kg以上1,516kg未満	13.2km/L以上
車両重量が1,516kg以上1,766kg未満	11.9km/L以上
車両重量が1,766kg以上2,016kg未満	10.8km/L以上
車両重量が2,016kg以上2,266kg未満	9.8km/L以上
車両重量が2,266kg以上	8.7km/L以上

表3 LPガス乗用車に係る10・15モード燃費基準

区 分	燃費基準値
車両重量が 703kg未満	15.9km/L以上
車両重量が 703kg以上 828kg未満	14.1km/L以上
車両重量が 828kg以上1,016kg未満	13.5km/L以上
車両重量が1,016kg以上1,266kg未満	12.0km/L以上
車両重量が1,266kg以上1,516kg未満	9.8km/L以上
車両重量が1,516kg以上1,766kg未満	7.9km/L以上
車両重量が1,766kg以上2,016kg未満	6.7km/L以上
車両重量が2,016kg以上2,266kg未満	5.9km/L以上
車両重量が2,266kg以上	4.8km/L以上

表4 ガソリン貨物車に係る10・15モード燃費基準

区 分				燃費基準値
自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	
軽貨物車	手 動 式	703kg未満	構造A	20.2km/L以上
			構造B	17.0km/L以上
		703kg以上 828kg未満	構造A	18.0km/L以上
			構造B	16.7km/L以上
	手動式以外のもの	828kg以上	構造A	18.9km/L以上
			構造B	16.2km/L以上
		703kg以上 828kg未満	構造A	16.5km/L以上
			構造B	15.5km/L以上
828kg以上	構造A	14.9km/L以上		
	構造B	14.9km/L以上		
	手 動 式	1,016kg未満	17.8km/L以上	
		1,016kg以上	15.7km/L以上	
手動式以外のもの	1,016kg未満	14.9km/L以上		
	1,016kg以上	13.8km/L以上		
車両総重量が 1.7t以下のもの	手 動 式	1,266kg未満	構造A	14.5km/L以上
		1,266kg以上1,516kg未満	構造B	12.3km/L以上
				10.7km/L以上
	手動式以外のもの	1,516kg以上		9.3km/L以上
		1,266kg未満	構造A	12.5km/L以上
			構造B	11.2km/L以上
1,266kg以上		10.3km/L以上		

備考) 1 「構造A」とは、次に掲げる要件のいずれにも該当する構造をいう。以下表5及び6について同じ。



最大積載量を車両総重量で除した値が0.3以下となるものであること。

乗車装置及び物品積載装置が同一の車室内に設けられており、当該車室と車体外とを固定された屋根、窓ガラス等の隔壁により仕切られるものであること。

運転者室の前方に原動機を有し、前輪のみに動力を伝達できるもの又は前軸及び後軸のそれぞれ一軸以上に動力を伝達できるもの（後軸に動力を伝達する場合において前輪からトランスファ及びプロペラ・シャフトを用いて後輪に動力を伝達するものに限る。）であること。

- 2 「構造B」とは、構造A以外の構造をいう。以下表5及び6について同じ。

表5 ディーゼル貨物車に係る10・15モード燃費基準

区 分				燃費基準値
自動車の種別	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造	
車両総重量が 1.7t以下のもの	手 動 式			17.7km/L以上
	手動式以外のもの			15.1km/L以上
車両総重量が 1.7t超2.5t以下のもの	手 動 式	1,266kg未満	構造A	17.4km/L以上
			構造B	14.6km/L以上
		1,266kg以上1,516kg未満		14.1km/L以上
		1,516kg以上		12.5km/L以上
	手動式以外のもの	1,266kg未満	構造A	14.5km/L以上
			構造B	12.6km/L以上
		1,266kg以上1,516kg未満		12.3km/L以上
		1,516kg以上1,766kg未満		10.8km/L以上
1,766kg以上			9.9km/L以上	

表6 LPガス貨物車に係る10・15モード燃費基準

自動車の種別	区 分			燃費基準値	
	変速装置の方式	車両重量	自動車の構造		
軽貨物車	手 動 式	703kg未満	構造A	15.8km/L以上	
			構造B	13.3km/L以上	
		703kg以上 828kg未満	構造A	14.1km/L以上	
			構造B	13.1km/L以上	
		828kg以上			12.1km/L以上
		手動式以外のもの	703kg未満	構造A	14.8km/L以上
	構造B			12.7km/L以上	
	703kg以上 828kg未満		構造A	12.9km/L以上	
	構造B	12.1km/L以上			
828kg以上			11.7km/L以上		
車両総重量が 1.7t以下のもの	手 動 式	1,016kg未満		13.9km/L以上	
		1,016kg以上		12.3km/L以上	
	手動式以外のもの	1,016kg未満		11.7km/L以上	
		1,016kg以上		10.8km/L以上	
車両総重量が 1.7t超2.5t以下のもの	手 動 式	1,266kg未満	構造A	11.3km/L以上	
			構造B	9.6km/L以上	
		1,266kg以上1,516kg未満		8.4km/L以上	
	1,516kg以上			7.3km/L以上	
	手動式以外のもの	1,266kg未満	構造A	9.8km/L以上	
			構造B	8.8km/L以上	
		1,266kg以上			8.1km/L以上

(2) 目標の立て方

一般公用車にあつては、当該年度における調達(リース・レンタル契約を含む。)総量(台数)とする。

一般公用車以外の自動車にあつては、当該年度における調達(リース・レンタル契約を含む。)総量(台数)に占める基準を満たす物品の数量(台数)の割合とする。

ただし、次に掲げる自動車については、当該年度における調達(リース・レンタル契約を含む。)総量(台数)においても目標を立てるものとする。

ア．電気自動車

イ．天然ガス自動車

ウ．メタノール自動車

エ．ハイブリッド自動車

オ．燃料電池自動車

カ．認定実施要領の基準のうち、平成17年基準排出ガス75%低減レベルに適合し、ガソリン乗用自動車にあつては表1に示された区分ごとの燃費基準値を、ディーゼル乗用自動車にあつては表2に示された区分ごとの燃費基準値を、LPガス乗用自動車にあつては表3に示された区分ごとの燃費基準値を満たす自動車

## 10 - 2 ITS対応車載器

### (1) 品目及び判断の基準等

ETC対応車載器	<b>【判断の基準】</b> ノンストップ自動料金支払いシステム（ETC）に対応し、自動車に取り付け、有料道路の料金所に設置されたアンテナとの間で無線通信により車両や通行料金等に関する情報のやり取りを行う装置であること。
カーナビゲーションシステム	<b>【判断の基準】</b> 走行中の自動車の運転者に対して、次に示す情報を、車載の画面に表示あるいは音声により案内して、知らせる機能が搭載されていること。 走行中の自動車の現在位置・進行方向 周辺の道路交通状況に関する現在情報

## 10 - 3 タイヤ

### (1) 品目及び判断の基準等

一般公用車用タイヤ (備考1、2)	<p>【判断の基準】 転がり抵抗が10%以上低減されたタイヤ (備考3) であること。(備考4) スパイクタイヤでないこと。(備考5)</p> <p>【配慮事項】 製品の長寿命化に配慮されていること。 走行時の静粛性の確保に配慮されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「一般公用車用タイヤ」は、市販用のタイヤ(スタッドレスタイヤを除く。)であって、自動車の購入時に装着されているタイヤを規定するものではない。

2 「一般公用車」とは、通常の行政事務の用に供する乗用自動車(乗車定員10名以下のものに限る。)であって、普通自動車又は小型自動車であるものをいう。

3 「転がり抵抗が10%以上低減されたタイヤ」とは、当該タイヤの製造事業者又は販売事業者の従来型製品に比べ転がり抵抗が10%以上低減されているタイヤであって、負荷荷重性能、ブレーキ性能、操縦性能等タイヤの基本性能が確保されているタイヤとする。なお、転がり抵抗の低減率と燃費効率の向上率とは必ずしも同一ではない。

4 現段階の転がり抵抗の算出に係る測定条件は、当該タイヤの製造事業者又は販売事業者が「タイヤ公正取引協議会」に届け出た方法によるものとする。

5 判断の基準 は、スパイクタイヤ粉じんの発生を防止し、もって国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するという「スパイクタイヤ粉じんの発生防止に関する法律」(平成2年法律第55号)の趣旨を踏まえたものである。

## 10 - 4 エンジン油

### (1) 品目及び判断の基準等

2 サイクルエンジン油	<p><b>【判断の基準】</b> 生分解度が28日以内で60%以上であること。(備考1) 魚類による急性毒性試験の96時間LC<sub>50</sub>値が100mg/l以上であること。 (備考2)</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-------------	--

備考) 1 生分解度の試験方法は、次のいずれかの方法とする。ただし、これらの試験方法については、10-d window を適用しない。

OECD (経済協力開発機構) 化学品テストガイドライン

- ・ 301B (CO<sub>2</sub>発生試験)
- ・ 301C (修正 MITI ( ) 試験)
- ・ 301F (Manometric Respirometry 試験)

ASTM (アメリカ材料試験協会)

- ・ D5864 (潤滑油及び潤滑油成分の水環境中の好氣的生分解度を決定する標準試験法)
- ・ D6731 (密閉 respirometer 中の潤滑油、又は潤滑油成分の水環境中の好氣的生分解度を決定する標準試験法)

2 魚類の急性毒性試験方法は、次のいずれかの方法とする。

JIS (日本工業規格)

- ・ K 0102 (工場排水試験方法)
- ・ K 0420-71 シリーズ (10、20、30)

(水質-淡水魚 [ゼブラフィッシュ (真骨類, コイ科)] に対する化学物質の急性毒性の測定-第1部: 止水法、第2部: 半止水法、第3部: 流水法)

OECD (経済協力開発機構)

- ・ 203 (魚類急性毒性試験)

なお、難水溶性の製品は、ASTM D6081 (水環境中における潤滑油の毒性試験のための標準実施法: サンプル準備及び結果解釈) の方法などを参考に調製された WAF (水適応性画分) や WSF (水溶解性画分) を試料として使ってもよい。この場合、96 時間 LL<sub>50</sub> 値が 100mg/l 以上であること。

## 1 1 . 消火器

### (1) 品目及び判断の基準等

消火器 (備考1)	<p><b>【判断の基準】</b> 消火薬剤に、再生材料が重量比で40%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の回収及び再使用又は再生利用システムがあり、再使用又は再生利用されない部分については適正処理されるシステムがあること。 分解が容易である等材料の再生利用のための設計上の工夫がなされていること。 プラスチック部品が使用される場合には、再生プラスチック (備考2) が可能な限り使用されていること。 使用される塗料は、有機溶剤及び臭気が可能な限り少ないものであること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用又は再生利用システムがあること。</p>
-----------	---

備考) 1 本項の判断基準の対象とする「消火器」は、粉末(ABC)消火器(「消火器の技術上の規格を定める省令(昭和39年9月17日自治省令第27号)」による粉末消火器であって、A火災、B火災及び電気火災の全てに適用するものをいい、エアゾール式簡易消火具、船舶用消火器、航空用消火器は含まない。)とし、点検の際の消火薬剤の詰め替えも含むものとする。

2 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう(ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。)

## 12. 制服・作業服

### (1) 品目及び判断の基準等

制服  作業服	<p><b>【判断の基準】</b> 使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 製品使用後に回収され、原材料として再生利用されるためのシステムが整っていること。 再生PET樹脂から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考1）又は反毛繊維（備考2）が使用されていること。</p>
---------------	--

備考) 1 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リクター等）を再生した繊維をいう。

2 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

### 13 . インテリア・寝装寝具

#### 13 - 1 カーテン等

##### (1) 品目及び判断の基準等

カーテン  布製ブラインド	<p><b>【判断の基準】</b> カーテンにあつては、使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比で10%以上使用されていること。 布製ブラインドにあつては、布生地に使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、布生地全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の梱包は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 再生PET樹脂から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考1）又は反毛繊維（備考2）が使用されていること。</p>
---------------------	---

備考) 1 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リクター等）を再生した繊維をいう。

2 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。



## 13 - 2 カーペット

### (1) 品目及び判断の基準等

タフテッドカーペット	<p><b>【判断の基準】</b>  タフテッドカーペット、タイルカーペット又は織じゅうたんにあつては、未利用繊維、リサイクル繊維、再生プラスチック及びその他の再生材料の合計重量が製品全体重量比で10%以上使用されていること。  ニードルパンチカーペットにあつては、未利用繊維（備考1）、リサイクル繊維（備考2）、再生プラスチック（備考4）及びその他の再生材料（備考5）の合計重量が製品全体重量比で10%以上使用されていること、又は植物を原料とする環境負荷低減効果が確認された合成繊維（備考6）が製品全体重量比で25%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>  製品の梱包は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。  製品使用後に回収され、原材料として再生利用されるためのシステムが整っていること。</p>
タイルカーペット	
織じゅうたん	
ニードルパンチカーペット	

- 備考) 1 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リンスター等）を再生した繊維をいう。
- 2 「リサイクル繊維」とは、反毛繊維（備考3）等使用された後に廃棄された製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生する端材若しくは不良品を再生利用した繊維をいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 3 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。
- 4 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 5 「再生材料」とは、使用された後に廃棄された製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生する端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 6 「植物を原料とする環境負荷低減効果が確認された合成繊維」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。

### 13 - 3 毛布等

#### (1) 品目及び判断の基準等

毛布	<p><b>【判断の基準】</b>            使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。            再生PET樹脂から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考1）又は反毛繊維（備考2）が使用されていること。</p>
ふとん	<p><b>【判断の基準】</b>            次のいずれかの要件を満たすこと。            ふとん側地又は詰物（備考3）に使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、ふとん側地又は詰物の繊維重量比で10%以上使用されていること。            使用済みふとんの詰物を適正に洗浄、殺菌等の処理を行い、再使用した詰物が詰物の全体重量比で80%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。            再生PET樹脂から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維（備考1）又は反毛繊維（備考2）が使用されていること。</p>

- 備考) 1 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リッター等）を再生した繊維をいう。
- 2 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。
- 3 ふとんの判断の基準の「詰物」とは、綿、羊毛、羽毛、合成繊維等のふとんに充てんされているものをいう。

### 13 - 4 ベッド

#### (1) 品目及び判断の基準等

<p>ベッドフレーム (備考1、8、9)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 金属を除く主要材料が、プラスチックの場合は、木質の場合は、紙の場合はの要件を満たすこと。また、主要材料以外の材料に木質が含まれる場合はア、紙が含まれる場合はイの要件をそれぞれ満たすこと。 再生プラスチック(備考3)がプラスチック重量の10%以上使用されていること。 次の要件を満たすこと。 ア．間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源であること、又は原料として使用される原木(間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。)が、その伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的なものであること。 イ．材料からのホルムアルデヒドの放散速度が、<math>0.02\text{mg}/\text{m}^2\text{h}</math>以下又はこれと同等のものであること。(備考4) 次の要件を満たすこと。 ア．紙の原料は古紙パルプ配合率50%以上であること。 イ．紙の原料にバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあつては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らし合法的なものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 修理及び部品交換が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等部品の再使用若しくは材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること、又は、包装材の回収及び再使用若しくは再生利用システムがあること。 材料に木質が含まれる場合にあつては、原料として使用される原木(間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の再生資源である木材は除く。)は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。 材料に紙が含まれる場合でバージンパルプ(間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が原料として使用される場合にあつては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。 (備考10)</p>
------------------------------	---

<p>マットレス (備考2、9)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>          主要部品（フェルト（備考5）を除く）に使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、ポリエステルを使用している繊維部品全体重量比で10%以上使用されていること。          フェルトに使用される繊維は全て未利用繊維（備考6）又は反毛繊維（備考7）であること。          材料からの遊離ホルムアルデヒドの放出量は75ppm以下であること。          ウレタンフォームの発泡剤にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと、及びハイドロフルオロカーボン（いわゆる代替フロン）が使用されていないこと。</p> <p><b>【配慮事項】</b>          修理が容易である等長期間の使用が可能な設計がなされている、又は、分解が容易である等材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。          製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
--------------------------	--

- 備考) 1 医療用、介護用及び高度医療に用いるもの等特殊な用途のものについては、本項の判断の基準の対象とする「ベッドフレーム」に含まれないものとする。
- 2 高度医療に用いるもの（手術台、ICUベッド等）については、本項の判断の基準の対象とする「マットレス」に含まれないものとする。
- 3 「再生プラスチック」とは、使用された後に廃棄されたプラスチック製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するプラスチック端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 4 放散速度が0.02mg/m<sup>2</sup>h以下と同等のものとは、次によるものとする。
- ア．対応した日本工業規格又は日本農林規格があり、当該規格にホルムアルデヒドの放散量の基準が規定されている木質材料については、F の基準を満たしたもの。
- イ．上記 ア．以外の木質材料については、JIS A1460 の規定する方法等により測定した数値が次の数値以下であるもの。

平均値	最大値
0.5mg/L	0.7mg/L

- 5 「フェルト」とは、綿状にした繊維材料をニードルパンチ加工によりシート状に成形したものをいう（ただし、熱可塑性素材又は接着剤による結合方法を併用したものを除く。）
- 6 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リントー等）を再生した繊維をいう。
- 7 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。
- 8 ベッドフレームに係る判断の基準は、金属以外の主要材料としてプラスチック、木質又は紙を使用している場合について定めたものであり、金属が主要材料であって、プラスチック、木質又は紙を使用していないものは、本項の判断の基準の対象とする品目に含まれないものとする。
- 9 ベッドフレーム及びマットレスを一体としてベッドを調達する場合については、それぞれの部分が上記の基準を満たすこと。
- 10 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持

続可能性の証明のためのガイドライン(平成 18 年 2 月 15 日)」に準拠して行うものとする。  
ただし、平成 18 年 4 月 1 日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成 18 年 4 月 1 日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成 18 年 4 月 1 日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

## 14. 作業手袋

### (1) 品目及び判断の基準等

作業手袋	<p><b>【判断の基準】</b> 次のいずれかの要件を満たすこと。 使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。 ポストコンシューマ（備考1）材料からなる繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 未利用繊維（備考2）又は反毛繊維（備考3）が可能な限り使用されていること（すべり止め塗布加工部分を除く。） 漂白剤を使用していないこと。</p>
------	--

備考) 1 「ポストコンシューマ材料」とは、製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品をいう。

2 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リントー等）を再生した繊維をいう。

3 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分解し再生した繊維をいう。

## 15 . その他繊維製品

### 15 - 1 テント・シート類

#### (1)品目及び判断の基準等

集会用テント	<p>【判断の基準】 使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生 PET 樹脂（PET ボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、繊維部分の全体重量比で 10%以上使用されていること。</p> <p>【配慮事項】 製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
ブルーシート	<p>【判断の基準】 使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考）が製品全体重量比で 50%以上使用されていること。</p> <p>【配慮事項】 製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>

備考） 「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）。

## 15 - 2 防球ネット

### (1)品目及び判断の基準等

防球ネット	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維、ポリエチレン繊維、又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については、次の要件を満たすこと。</p> <p>ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p>ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考1）が製品全体重量比で50%以上使用されていること。</p> <p>植物を原料とする環境負荷低減効果が確認された合成繊維（備考2）が製品全体重量比で25%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
-------	--

備考) 1 「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）

2 「植物を原料とする環境負荷低減効果が確認された合成繊維」とは、製品のライフサイクル全般にわたる環境負荷についてトレードオフを含め定量的、客観的かつ科学的に分析・評価し、第三者のLCA専門家等により環境負荷低減効果が確認されたものをいう。



## 16 . 設備

### (1) 品目及び判断の基準等

太陽光発電システム	<p>【判断の基準】 商用電源の代替として、太陽電池モジュールを使用した太陽光発電による電源供給ができるシステムであること。</p> <p>【配慮事項】 分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。</p>
太陽熱利用システム	<p>【判断の基準】 給湯用又は冷暖房用の熱エネルギーとして、太陽エネルギーを利用したシステムであること。</p> <p>【配慮事項】 分解が容易である等部品の再使用や材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。</p>
燃料電池	<p>【判断の基準】 商用電源の代替として、燃料中の水素及び空気中の酸素を結合させ、電気エネルギー又は熱エネルギーを取り出すものであること。</p> <p>【配慮事項】 分解が容易である等部品の再使用又は材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。</p>
生ゴミ処理機	<p>【判断の基準】 バイオ式又は乾燥式等の処理方法により生ゴミの減容及び減量等を行う機器であること。</p> <p>【配慮事項】 分解が容易である等材料の再生利用が容易になるような設計がなされていること。 使用時のエネルギー節減のための設計上の工夫がなされていること。 処理後の生成物は、肥料化、飼料化又はエネルギー化等により再生利用されるものであること。</p>

<p>節水機器</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>&lt; 共通事項 &gt;  電気を使用しないこと。</p> <p>&lt; 個別事項 &gt;  節水コマ（備考1、2）にあつては、次の要件を満たすこと。  ア．ハンドルを120°に開いた場合に、普通コマを組み込んだ場合に比べ20%を超え70%以下の吐水流量であること。  イ．ハンドルを全開にした場合に、普通コマを組み込んだ場合に比べ70%以上の吐水流量であること。  定流量弁（備考3、4）にあつては、水圧0.1MPa以上、0.7MPa以下の各水圧において、ハンドル開度全開の場合、適正吐水流量は5～8リットル/分であること。  泡沫キャップ（備考5）にあつては、次の要件を満たすこと。  ア．水圧0.1MPa以上、0.7MPa以下の各水圧において、ハンドル（レバー）開度全開の場合、適正吐水流量が、泡沫キャップなしの同型水栓の80%以下であること。  イ．水圧0.1MPa、ハンドル（レバー）全開において5リットル/分以上の吐水流量であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>取替用のコマにあつては、既存の水栓のコマとの取替が容易に行えること。  使用用途における従前どおりの使用感であること。  吐水口装着型にあつては、単一個装置で多様な吐水口に対応できること。</p>
-------------	---

- 備考) 1 「節水コマ」とは、給水栓において、節水を目的として製作したコマをいう。なお、普通コマを組み込んだ給水栓に比べ、節水コマを組み込んだ水栓は、ハンドル開度が同じ場合、吐水量が大幅に減ずる。固定式を含む。
- 2 本項の判断の基準の対象とする「節水コマ」は、呼び径13mmの水用単水栓に使用されるものであって、弁座パッキン固定用ナットなどを特殊な形状にするなどして、該当品に取り替えるだけで節水が図れるコマとする。
- 3 「定流量弁」とは、弁の入口側又は出口側の圧力変化にかかわらず、常に流量を一定に保持する調整弁をいう。なお、一般に流量設定が可変のものは流量調整弁、流量設定が固定式のものを定流量弁という。
- 4 本項の判断の基準の対象とする「定流量弁」は、手洗い、洗顔又は食器洗浄に用いるものであって、次の要件を満たすものとする。  
ア．ある吐水量より多く吐水されないよう、該当品に取り替えるだけで節水が図れる弁であること。  
イ．設置箇所以降で分岐を行わないこと。分岐の後に定流量弁を取り付けること。また、定流量弁1個は、水栓1個に対応すること。  
ウ．水量的に用途に応じた設置ができるよう、用途ごとの設置条件が説明書に明記されていること。
- 5 本項の判断の基準の対象とする「泡沫キャップ」は、水流にエアを混入することにより、節水が図れるキャップとする。

## 1 7 防災備蓄用品

### 1 7 - 1 防災備蓄用品（飲料水）

#### (1) 品目及び判断の基準等

ペットボトル飲料水 (備考1～6)	<p><b>【判断の基準】</b> 賞味期限が5年以上であること。 製品及び梱包用外箱に名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 回収・再使用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。 容器（ボトル）については、可能な限り軽量化・薄肉化が図られていること。 使用するボトル、ラベル・印刷、キャップ等については、使用後の再処理、再利用適性に優れた容器とするための環境配慮設計がなされていること。</p>
----------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ペットボトル飲料水」は、防災用に長期保管する目的で調達するものとする。

2 各機関が個別の業務において使用する目的で購入した物品を防災用に利活用する場合は、防災備蓄用品の対象から除外することとする。

3 各機関はペットボトル飲料水の調達にあたり、流通備蓄や災害発生時に自動販売機内の商品を無償提供できる「フリーバンド」機能を持った災害対策用自動販売機の利用を勧奨すること。

4 各機関は防災備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勧奨した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。

5 各機関は納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

6 使用するボトル、ラベル・印刷、キャップ等の環境配慮設計については、PET ボトルリサイクル推進協議会作成の「指定 PET ボトルの自主設計ガイドライン」を参考とすること。

## 17-2 防災備蓄用品（食料）

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>アルファ化米 （備考1、3～6） 乾パン （備考1、3～6） 缶詰 （備考1～6）</p>	<p>【判断の基準】 賞味期限が5年以上であること。 製品及び梱包用外箱に、名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。</p> <p>【配慮事項】 回収・再使用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。</p>
<p>レトルト食品 （備考4～6）</p>	<p>【判断の基準】 次のいずれかの要件を満たすこと。 ア．賞味期限が5年以上であること。 イ．賞味期限が3年以上であって、容器、付属の食器及び発熱材等について回収し再利用される仕組みがあること。 製品及び梱包用外箱に、名称、原材料名、内容量、賞味期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。</p> <p>【配慮事項】 回収・再使用による廃棄物排出抑制等に係る仕組みがあること。</p>

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「アルファ化米」「乾パン」「缶詰」及び「レトルト食品」は、防災備蓄用品として調達するものに限る。

- 2 「缶詰」の判断の基準 については、基準を満たす製品が市場に十分供給されるまでに一定程度の期間を要することを勘案し、平成21年3月31日まで経過措置を設けることとし、この期間においては、賞味期限3年以上であることをもって特定調達物品等とみなすこととする。
- 3 「アルファ化米」及び「乾パン」の賞味期限に係る判断の基準については、市場動向を勘案しつつ今後見直しを実施することとする。
- 4 各機関が個別の業務において使用する目的で購入した物品を防災用に利活用する場合は、防災備蓄用品の対象から除外することとする。
- 5 各機関は防災備蓄用品を調達するにあたって、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。
- 6 各機関は納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

### 1 7 3 防災備蓄用品（生活用品・資材）

#### (1) 品目及び判断の基準等（備考5、6）

<p>毛布</p>	<p><b>【判断の基準】</b>                  使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。                  再生PET樹脂から得られるポリエステル以外の繊維については、可能な限り未利用繊維又は反毛繊維が使用されていること。</p>
<p>作業手袋</p>	<p><b>【判断の基準】</b>                  次のいずれかの要件を満たすこと。                  使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。                  ポストコンシューマ材料（備考3）からなる繊維が、製品全体重量比（すべり止め塗布加工部分を除く。）で50%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  未利用繊維（備考1）又は反毛繊維（備考2）が可能な限り使用されていること（すべり止め塗布加工部分を除く。）                  漂白剤を使用していないこと。</p>
<p>テント</p>	<p><b>【判断の基準】</b>                  使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエステル繊維を使用した製品については、再生PET樹脂（PETボトル又は繊維製品等を原材料として再生利用されるもの）から得られるポリエステルが、繊維部分の全体重量比で10%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
<p>ブルーシート</p>	<p><b>【判断の基準】</b>                  使用される繊維（天然繊維及び化学繊維）のうち、ポリエチレン繊維を使用した製品については、再生ポリエチレン（備考4）が製品全体重量比で50%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>                  製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>

備考) 1 「未利用繊維」とは、紡績時に発生する短繊維（リントー等）を再生した繊維をいう。

2 「反毛繊維」とは、衣類等の製造時に発生する裁断屑、廃品となった製品等を綿状に分

解し再生した繊維をいう。

- 3 「ポストコンシューマ材料」とは、製品として使用された後に、廃棄された材料又は製品をいう。
- 4 「再生ポリエチレン」とは、使用された後に廃棄されたポリエチレン製品の全部若しくは一部又は製品の製造工程の廃棄ルートから発生するポリエチレン端材若しくは不良品を再生利用したものをいう（ただし、原料として同一工程内で再生利用されるものは除く。）
- 5 各機関が個別の業務において使用する目的で購入した物品を防災用に利活用する場合は、防災備蓄用品の対象から除外することとする。
- 6 各機関は防災備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。

<p>一次電池 (備考1、3～6)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 一次電池にあつては、表に示された負荷抵抗の区分ごとの最低平均持続時間又は最小平均持続時間(備考2)を下回らないこと。 使用推奨期限が5年以上の製品仕様であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装は、可能な限り簡易であつて、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
---------------------------	---

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「一次電池」は、我が国における形状の通称「単1形」「単2形」「単3形」又は「単4形」とする。
- 2 「最低平均持続時間」又は「最小平均持続時間」は、JIS C 8511 又は JIS C 8515 に規定する放電試験条件に準拠して測定するものとする。
  - 3 JIS C 8511 : 2004 (アルカリ一次電池) の適用は、平成 20 年 9 月 30 日までとする。
  - 4 各機関が個別の業務において使用する目的で購入した物品を防災用に利活用する場合は、防災備蓄用品の対象から除外することとする。
  - 5 各機関は防災備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。
  - 6 各機関は納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

表 一次電池に係る最低平均持続時間又は最小平均持続時間

形状の通称 (寸法:高さ・直径)	負荷抵抗( )	最低平均持続時間又は 最小平均持続時間		JISごとの該当の有無	
		初 度	12 か月貯蔵後及び 使用推奨期間内	C 8511	C 8515
単1形 (61.5mm・ 34.2mm)	2.2	810 分	725 分		
	3.9	25 時間	22 時間		-
	10	81 時間	72 時間		
	2.2	15 時間	13 時間		
	1.5	450 分	405 分		
	600mA(放電電流)	11 時間	9.5 時間	-	
単2形 (50.0mm・ 26.2mm)	3.9	770 分	690 分		
	6.8	23 時間	20 時間		-
	20	77 時間	69 時間		
	3.9	12 時間	10 時間		
	400mA(放電電流)	8.0 時間	7.0 時間	-	
単3形 (50.5mm・ 14.5mm)	43	60 時間	54 時間		
	3.9	4.0 時間	3.6 時間		
	10	11.5 時間	10.0 時間		
	1000mA(放電電流)	200 回	180 回		
	24	31 時間	27 時間		
	250mA(放電電流)	4.5 時間	4.0 時間	-	
単4形 (44.5mm・ 10.5mm)	5.1	130 分	115 分		
	24	14.5 時間	13.0 時間		
	10	5.0 時間	4.5 時間		
	75	44 時間	39 時間		
	600mA(放電電流)	140 回	125 回		

JIS ごとの該当の有無・・・ : 該当、 - : 非該当

<p>非常用携帯 燃料 (備考1～3)</p>	<p><b>【判断の基準】</b> 品質保証期限が5年以上であること。 名称、原材料名、内容量、品質保証期限、保存方法及び製造者名が記載されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 製品の包装及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
---------------------------------	--

- 備考) 1 各機関が個別の業務において使用する目的で購入した物品を防災用に活用する場合は、防災備蓄用品の対象から除外することとする。
- 2 各機関は防災備蓄用品を調達するに当たり、当該品目の保存期限等を勘案した備蓄・購入計画を立案し、備蓄量及び購入量を適正に管理するとともに、継続的に更新していく仕組みを構築すること。
- 3 各機関は納入時点における当該製品の残存期限を長くする観点から、納入事業者に対し、可能な限り新しい製品の納入のための準備が可能となるよう、納期まで一定の期間を与える等の配慮を行う契約方法について検討すること。

## 18. 公共工事

### (1) 品目及び判断の基準等

公共工事	<b>【判断の基準】</b> 契約図書において、一定の環境負荷低減効果が認められる表1に示す資材、建設機械、工法又は目的物の使用が義務付けられていること。
------	--

注) 義務付けに当たっては、工事全体での環境負荷低減を考慮する中で実施することが望ましい。

表1

#### 資材、建設機械、工法及び目的物の品目

特定調達品目名	分類	品目名		品目ごとの判断の基準
		(品目分類)	(品目名)	
公共工事	資材	盛土材等	建設汚泥から再生した処理土	表2
			土工用水砕スラグ	
			銅スラグを用いたケーソン中詰め材	
			フェロニッケルスラグを用いたケーソン中詰め材	
		地盤改良材	地盤改良用製鋼スラグ	
		コンクリート用スラグ骨材	高炉スラグ骨材	
			フェロニッケルスラグ骨材	
			銅スラグ骨材	
			電気炉酸化スラグ骨材	
		アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物	
			鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物	
		路盤材	鉄鋼スラグ混入路盤材	
			再生骨材等	
		小径丸太材	間伐材	
		混合セメント	高炉セメント	
			フライアッシュセメント	



	セメント	エコセメント
	コンクリート及びコンクリート製品	透水性コンクリート
	吹付けコンクリート	フライアッシュを用いた吹付けコンクリート
	塗料	下塗用塗料（重防食）
		低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料
	舗装材	再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）
		再生材料を用いた舗装用ブロック類（プレキャスト無筋コンクリート製品）
	園芸資材	バークたい肥
		下水汚泥を使用した汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
	道路照明	環境配慮型道路照明
	タイル	陶磁器質タイル
	建具	断熱サッシ・ドア
	製材等	製材
		集成材
		合板
		単板積層材
	フローリング	フローリング
	再生木質ボード	パーティクルボード
		繊維板
		木質系セメント板
	ビニル系床材	ビニル系床材
	断熱材	断熱材
	照明機器	照明制御システム
	変圧器	変圧器

		空調用機器	吸収冷温水機		
			氷蓄熱式空調機器		
			ガスエンジンヒートポンプ式空調和機		
		配管材	排水・通気用再生硬質塩化ビニル管		
		衛生器具	自動水栓		
			自動洗浄装置及びその組み込み小便器		
	水洗式大便器				
	コンクリート用型枠	再生材料を使用した型枠			
	建設機械	-	排出ガス対策型建設機械		表 3
			低騒音型建設機械		
	工法	建設発生土有効利用工法	低品質土有効利用工法		表 4
		建設汚泥再生処理工法	建設汚泥再生処理工法		
コンクリート塊再生処理工法		コンクリート塊再生処理工法			
舗装（路盤）		路上再生路盤工法			
法面緑化工法		伐採材又は建設発生土を活用した法面緑化工法			
目的物	舗装	排水性舗装	表 5		
		透水性舗装			
	屋上緑化	屋上緑化			

表2【資材】

品目分類	品目名	判断の基準等
盛土材等	建設汚泥から再生した処理土	【判断の基準】 建設汚泥から再生された処理土であること。
	土工用水砕スラグ	【判断の基準】 天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用できる高炉水砕スラグが使用された土工用材料であること。  【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
	銅スラグを用いたケーソン中詰め材	【判断の基準】 ケーソン中詰め材として、天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用することができる銅スラグであること。
	フェロニッケルスラグを用いたケーソン中詰め材	【判断の基準】 ケーソン中詰め材として、天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用することができるフェロニッケルスラグであること。
地盤改良材	地盤改良用製鋼スラグ	【判断の基準】 サンドコンパクションパイル工法において、天然砂（海砂、山砂）の全部を代替して使用することができる製鋼スラグであること。  【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
コンクリート用スラグ骨材	高炉スラグ骨材	【判断の基準】 天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用できる高炉スラグが使用された骨材であること。  【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。
	フェロニッケルスラグ骨材	【判断の基準】 天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用できるフェロニッケルスラグが使用された骨材であること。
	銅スラグ骨材	【判断の基準】 天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは碎石の一部又は全部を代替して使用できる銅スラグ骨材が使用された骨材であること。

	電気炉酸化スラグ骨材	<p>【判断の基準】 天然砂（海砂、山砂）、天然砂利、砕砂若しくは砕石の一部又は全部を代替して使用できる電気炉酸化スラグ骨材が使用された骨材であること。</p> <p>【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。</p>
アスファルト混合物	再生加熱アスファルト混合物	<p>【判断の基準】 アスファルト・コンクリート塊から製造した骨材が含まれること。</p>
	鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物	<p>【判断の基準】 加熱アスファルト混合物の骨材として、道路用鉄鋼スラグが使用されていること。</p> <p>【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。</p>
路盤材	鉄鋼スラグ混入路盤材	<p>【判断の基準】 路盤材として、道路用鉄鋼スラグが使用されていること。</p> <p>【配慮事項】 鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものであること。</p>
	再生骨材等	<p>【判断の基準】 コンクリート塊又はアスファルト・コンクリート塊から製造した骨材が含まれること。</p>
小径丸太材	間伐材	<p>【判断の基準】 間伐材であって、有害な腐れ又は割れ等の欠陥がないこと。</p>
混合セメント	高炉セメント	<p>【判断の基準】 高炉セメントであって、原料に30%を超える分量の高炉スラグが使用されていること。</p>
	フライアッシュセメント	<p>【判断の基準】 フライアッシュセメントであって、原料に10%を超える分量のフライアッシュが使用されていること。</p>
セメント	エコセメント (備考)	<p>【判断の基準】 都市ごみ焼却灰等を主原料とするセメントであって、製品1トンにつきこれらの廃棄物が乾燥ベースで500kg以上使用されていること。</p>

備考)「エコセメント」は、高強度を必要としないコンクリート構造物又はコンクリート製品において使用するものとする。

コンクリート及びコンクリート製品	透水性コンクリート(備考)	<p>【判断の基準】 透水係数 <math>1 \times 10^{-2} \text{cm/sec}</math>以上であること。</p>
------------------	---------------	---

備考)「透水性コンクリート」は、雨水を浸透させる必要がある場合に、高強度を必要としない部分において使用するものとする。

吹付けコンクリート	フライアッシュを用いた吹付けコンクリート	<p>【判断の基準】</p> <p>吹付けコンクリートであって、1m<sup>3</sup>当たり100kg以上のフライアッシュが混和材として使用されていること。</p>																							
塗料	下塗用塗料（重防食）	<p>【判断の基準】</p> <p>鉛又はクロムを含む顔料が配合されていないこと。</p>																							
	低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料	<p>【判断の基準】</p> <p>水性型の路面標示用塗料であって、揮発性有機溶剤（VOC）の含有率（塗料総質量に対する揮発性溶剤の質量の割合）が5%以下であること。</p>																							
舗装材	再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）	<p>【判断の基準】</p> <p>原料に再生材料（別表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの等）を用い、焼成されたものであること。</p> <p>再生材料が原材料の重量比で20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。</p> <p>ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等有害物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないこと。</p> <p>別表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>再生材料の原料となるものの分類区分</th> <th>前処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採石及び窯業廃土</td> <td rowspan="14">前処理方法によらず対象</td> </tr> <tr> <td>無機珪砂（キラ）</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼スラグ</td> </tr> <tr> <td>非鉄スラグ</td> </tr> <tr> <td>鋳物砂</td> </tr> <tr> <td>陶磁器屑</td> </tr> <tr> <td>石炭灰</td> </tr> <tr> <td>建材廃材</td> </tr> <tr> <td>廃ガラス</td> </tr> <tr> <td>製紙スラッジ</td> </tr> <tr> <td>アルミスラッジ</td> </tr> <tr> <td>磨き砂汚泥</td> </tr> <tr> <td>石材屑</td> </tr> <tr> <td>都市ごみ焼却灰</td> <td>溶融スラグ化</td> </tr> <tr> <td>下水道汚泥</td> <td>焼却灰化又は溶融スラグ化</td> </tr> <tr> <td>上水道汚泥</td> <td rowspan="2">前処理方法によらず対象</td> </tr> <tr> <td>湖沼等の汚泥</td> </tr> </tbody> </table>	再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法	採石及び窯業廃土	前処理方法によらず対象	無機珪砂（キラ）	鉄鋼スラグ	非鉄スラグ	鋳物砂	陶磁器屑	石炭灰	建材廃材	廃ガラス	製紙スラッジ	アルミスラッジ	磨き砂汚泥	石材屑	都市ごみ焼却灰	溶融スラグ化	下水道汚泥	焼却灰化又は溶融スラグ化	上水道汚泥	前処理方法によらず対象	湖沼等の汚泥
再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法																								
採石及び窯業廃土	前処理方法によらず対象																								
無機珪砂（キラ）																									
鉄鋼スラグ																									
非鉄スラグ																									
鋳物砂																									
陶磁器屑																									
石炭灰																									
建材廃材																									
廃ガラス																									
製紙スラッジ																									
アルミスラッジ																									
磨き砂汚泥																									
石材屑																									
都市ごみ焼却灰		溶融スラグ化																							
下水道汚泥	焼却灰化又は溶融スラグ化																								
上水道汚泥	前処理方法によらず対象																								
湖沼等の汚泥																									

	再生材料を用いた舗装用ブロック類（プレキャスト無筋コンクリート製品）	<p><b>【判断の基準】</b> 原料に再生材料（別表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの）が用いられたものであること。 再生材料が原材料の重量比で 20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。 なお、透水性確保のために、粗骨材の混入率を上げる必要がある場合は、再生材料が原材料の重量比 15%以上使用されていること。ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等有害物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないこと。</p> <p>別表</p> <table border="1" data-bbox="596 826 1370 936"> <tr> <td>再生材料の原料となるものの分類区分</td> <td>前処理方法</td> </tr> <tr> <td>都市ごみ焼却灰</td> <td>溶融スラグ化</td> </tr> <tr> <td>下水道汚泥</td> <td></td> </tr> </table>	再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法	都市ごみ焼却灰	溶融スラグ化	下水道汚泥	
再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法							
都市ごみ焼却灰	溶融スラグ化							
下水道汚泥								
園芸資材	バークたい肥	<p><b>【判断の基準】</b> 以下の基準を満たし、木質部より剥離された樹皮を原材料として乾燥重量比50%以上を使用し、かつ、発酵補助材を除くその他の原材料には畜ふん、動植物性残さ又は木質系廃棄物等の有機性資源を使用していること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有機物の含有率（乾物） 70%以上</li> <li>・ 炭素窒素比〔C/N比〕 35以下</li> <li>・ 陽イオン交換容量〔CEC〕（乾物） 70meq/100g以上</li> <li>・ pH 5.5～7.5</li> <li>・ 水分 55～65%</li> <li>・ 幼植物試験の結果 生育阻害その他異常が認められない</li> <li>・ 窒素全量〔N〕（現物） 0.5%以上</li> <li>・ リン酸全量〔P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>〕（現物） 0.2%以上</li> <li>・ 加里全量〔K<sub>2</sub>O〕（現物） 0.1%以上</li> </ul>						
	下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）（備考）	<p><b>【判断の基準】</b> 以下の基準を満たし、下水汚泥を主原材料として重量比（脱水汚泥ベース）25%以上使用し、かつ、無機質の土壌改良材を除くその他の原材料には畜ふん、動植物性残さ又は木質系廃棄物等の有機性資源を使用していること。</p> <p>製品に含まれる有害化学物質の含有量（割合）が下記の数値以下であること。</p>						

		<p> ひ素 0.005%  カドミウム 0.0005%  水銀 0.0002%  ニッケル 0.03%  クロム 0.05%  鉛 0.01% </p> <p> <b>その他の制限事項</b>  ア．金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令（昭和48年総理府令第5号）の別表第一の基準に適合する原料が使用されたものであること。  イ．植害試験の調査を受け害が認められないものであること。  ウ．有機物の含有率（乾物） 35%以上  エ．炭素窒素比〔C/N比〕 20以下  オ．pH 8.5以下  カ．水分 50%以下  キ．窒素全量〔N〕（現物） 0.8%以上  ク．りん酸全量〔P2O5〕（現物） 1.0%以上  ケ．アルカリ分（現物） 15%以下（ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない。） </p>
--	--	---

備考)「下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料」には、土壌改良資材として使用される場合も含む。

道路照明	環境配慮型道路照明	<p> <b>【判断の基準】</b>  高圧ナトリウムランプを用いた道路照明施設であって、水銀ランプを用いた照明施設と比較して電力消費量が45%以上削減されているものであること。 </p> <p> <b>【配慮事項】</b>  設置箇所に求められている光色や演色性にも配慮しつつ、適切な光源を選択すること。 </p>
------	-----------	--

<p>タイル</p> <p>陶磁器質 タイル</p>	<p>【判断の基準】</p> <p>原料に再生材料（別表の左欄に掲げるものを原料として、同表の右欄に掲げる前処理方法に従って処理されたもの等）が用いられているものであること。</p> <p>再生材料が原材料の重量比で20%以上（複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計）使用されていること。</p> <p>ただし、再生材料の重量の算定において、通常利用している同一工場からの廃材の重量は除かれるものとする。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>重金属等有害物質の含有や、施工時及び使用時に雨水等による重金属等有害物質の溶出について、土壌の汚染に係る環境基準等に照らして問題がないこと。</p> <p>別表</p> <table border="1" data-bbox="603 779 1366 1615"> <thead> <tr> <th>再生材料の原料となるものの分類区分</th> <th>前処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>採石及び窯業廃土</td><td rowspan="15">前処理方法によらず対象</td></tr> <tr><td>無機珪砂（キラ）</td></tr> <tr><td>鉄鋼スラグ</td></tr> <tr><td>非鉄スラグ</td></tr> <tr><td>鋳物砂</td></tr> <tr><td>陶磁器屑</td></tr> <tr><td>石炭灰</td></tr> <tr><td>廃プラスチック</td></tr> <tr><td>建材廃材</td></tr> <tr><td>廃ゴム</td></tr> <tr><td>廃ガラス</td></tr> <tr><td>製紙スラッジ</td></tr> <tr><td>アルミスラッジ</td></tr> <tr><td>磨き砂汚泥</td></tr> <tr><td>石材屑</td></tr> <tr><td>都市ごみ焼却灰</td><td>熔融スラグ化</td></tr> <tr><td>下水道汚泥</td><td>焼却灰化又は熔融スラグ化</td></tr> <tr><td>上水道汚泥</td><td rowspan="2">前処理方法によらず対象</td></tr> <tr><td>湖沼等の汚泥</td></tr> </tbody> </table>	再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法	採石及び窯業廃土	前処理方法によらず対象	無機珪砂（キラ）	鉄鋼スラグ	非鉄スラグ	鋳物砂	陶磁器屑	石炭灰	廃プラスチック	建材廃材	廃ゴム	廃ガラス	製紙スラッジ	アルミスラッジ	磨き砂汚泥	石材屑	都市ごみ焼却灰	熔融スラグ化	下水道汚泥	焼却灰化又は熔融スラグ化	上水道汚泥	前処理方法によらず対象	湖沼等の汚泥	<p>【判断の基準】</p> <p>建築物の窓等を通しての熱の損失を防止する建具であって、次のいずれかに該当すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複層ガラスを用いたサッシであること。</li> <li>・二重サッシであること。</li> <li>・断熱材の使用その他これに類する有効な断熱の措置が講じられたドアであること。</li> </ul>
再生材料の原料となるものの分類区分	前処理方法																										
採石及び窯業廃土	前処理方法によらず対象																										
無機珪砂（キラ）																											
鉄鋼スラグ																											
非鉄スラグ																											
鋳物砂																											
陶磁器屑																											
石炭灰																											
廃プラスチック																											
建材廃材																											
廃ゴム																											
廃ガラス																											
製紙スラッジ																											
アルミスラッジ																											
磨き砂汚泥																											
石材屑																											
都市ごみ焼却灰	熔融スラグ化																										
下水道汚泥	焼却灰化又は熔融スラグ化																										
上水道汚泥	前処理方法によらず対象																										
湖沼等の汚泥																											
<p>建具</p>	<p>断熱サッシ・ドア</p>	<p>【判断の基準】</p> <p>建築物の窓等を通しての熱の損失を防止する建具であって、次のいずれかに該当すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複層ガラスを用いたサッシであること。</li> <li>・二重サッシであること。</li> <li>・断熱材の使用その他これに類する有効な断熱の措置が講じられたドアであること。</li> </ul>																									



製材等	製材 (備考1、2、4)	<p><b>【判断の基準】</b> 間伐材、林地残材又は小径木であること。 以外の場合は、原料として使用される原木は、その伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 原料として使用される原木（間伐材、林地残材及び小径木を除く。）は、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
	集成材 合板 単板積層材 (備考1、4)	<p><b>【判断の基準】</b> 間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であり、かつ、それ以外の原料として使用される原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。 以外の場合は、間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材及び小径木以外の木材にあつては、原料として使用される原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。 居室の内装材にあつては、ホルムアルデヒドの放散量(備考3)が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材及び小径木以外の木材にあつては、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「製材」「集成材」「合板」及び「単板積層材」(以下「製材等」という。)は、建築の木工事において使用されるものとする。

2 「製材等」の判断の基準の は、機能的又は需給上の制約がある場合とする。

3 ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、日本農林規格による。

4 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。

ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

<p>フローリング グ(備考1、4)</p>	<p>フローリング</p>	<p><b>【判断の基準】</b>  間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木等を使用していること、かつ、それ以外の原料として使用される原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。  以外の場合は、原料として使用される原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。(備考2)  居室の内装材にあつては、ホルムアルデヒドの放散量(備考3)が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>  間伐材、合板・製材工場から発生する端材等の残材、林地残材及び小径木等以外の木材にあつては、持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
----------------------------	---------------	--

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象は、建築の木工事において使用されるものとする。
- 2 判断の基準の は、機能的又は需給上の制約がある場合とする。
- 3 ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、日本農林規格による。
- 4 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行うものとする。  
ただし、平成18年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成18年4月1日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

<p>再生木質 ボード (備考2)</p>	<p>パーティクル ボード  繊維板  木質系セメント 板</p>	<p><b>【判断の基準】</b>  合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木・小径木(間伐材を含む。)等の再生資源である木質材料又は植物繊維の重量比配合割合が50%以上であること。(この場合、再生資材全体に占める体積比配合率が20%以下の接着剤、混和剤等(パーティクルボードにおけるフェノール系接着剤、木質系セメント板におけるセメント等で主要な原材料相互間を接着する目的で使用されるもの)を計上せずに、重量比配合率を計算することができるものとする。)  合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木及び小径木(間伐材を含む)等の再生資源以外の木質材料にあつては、原料として使用される原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的な木材であること。  居室の内装材にあつては、ホルムアルデヒドの放散量(備考1)が平均値で0.3mg/L以下かつ最大値で0.4mg/L以下であること。</p>
-------------------------------	---	---

		<p><b>【配慮事項】</b> 合板・製材工場から発生する端材等の残材、建築解体木材、使用済梱包材、製紙未利用低質チップ、林地残材・かん木及び小径木（間伐材を含む）等の再生資源以外の木質材料にあっては、原料として使用される原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。</p>
--	--	--

備考) 1 ホルムアルデヒドの放散量の測定方法は、JIS A 1460 による。

- 2 木質又は紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成 18 年 2 月 15 日)」に準拠して行うものとする。  
ただし、平成 18 年 4 月 1 日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成 18 年 4 月 1 日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成 18 年 4 月 1 日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

ビニル系床材 (備考)	ビニル系床材	<p><b>【判断の基準】</b> 再生ビニル樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 工事施工時に発生する端材の回収、再生利用システムについて配慮されていること。</p>
-------------	--------	---

備考) JISA5705 (ビニル系床材) に規定されるビニル系床材の種類で記号 PF に該当するものについては、本項の判断の基準の対象とする「ビニル系床材」に含まれないものとする。

断熱材	断熱材	<p><b>【判断の基準】</b> 建築物の外壁等を通しての熱の損失を防止するものであって、次の要件を満たすものとする。 オゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 ハイドロフルオロカーボン(いわゆる代替フロン)が使用されていないこと。 再生資源を使用している又は使用後に再生資源として使用できること。 断熱材のうちグラスウール又はロックウールの製造に用いる再生資源や副産物については、次の要件を満たすこと。 ・グラスウール：再生資源利用率は、原材料(備考)の重量比で80%以上であること。 ・ロックウール：再生資源利用率は、原材料(備考)の重量比で85%以上であること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 発泡プラスチック断熱材については、長期的に断熱性能を保持しつつ、可能な限り地球温暖化係数の小さい物質が使用されていること。</p>
-----	-----	---

備考) 再生資源利用率における「原材料」とは、基材部分とする。

照明機器	照明制御システム	【判断の基準】 連続調光可能なHf蛍光灯器具及びそれらの蛍光灯器具を制御する照明制御装置からなるもので、初期照度補正制御及び外光(昼光)利用制御の機能を有していること。
変圧器 (備考)	変圧器	【判断の基準】 エネルギー消費効率が表に示された区分ごとの算定式を用いて算出した値を上回らないこと。  【配慮事項】 運用時の負荷率の実態に配慮されたものであること。

備考) 本項の判断の基準の対象とする「変圧器」は、定格一次電圧が600Vを超え、7000V以下のものであって、交流の電路に使用されるものに限り、次のいずれかに該当するものは、これに含まれないものとする。

絶縁材料としてガスを使用するもの

H種絶縁材料を使用するもの

スコット結線変圧器

3以上の巻線を有するもの

柱上変圧器

単相変圧器であって定格容量が5kVA以下のもの又は500kVAを超えるもの

三相変圧器であって定格容量が10kVA以下のもの又は2000kVAを超えるもの

樹脂製の絶縁材料を使用する三相変圧器であって三相交流を単相交流及び三相交流に変成するためのもの  
定格二次電圧が100V未満のもの又は600Vを超えるもの

風冷式又は水冷式のもの

表 変圧器に係る基準エネルギー消費効率の算定式

区 分				基準エネルギー消費効率の算定式	
変圧器の種別	相数	定格周波数	定 格 容 量		
油入変圧器	単相	50Hz		$E = 15.3S^{0.696}$	
		60Hz		$E = 14.4S^{0.698}$	
	三相	50Hz	500kVA以下		$E = 23.8S^{0.653}$
			500kVA超		$E = 9.84S^{0.842}$
		60Hz	500kVA以下		$E = 22.6S^{0.651}$
			500kVA超		$E = 18.6S^{0.745}$
モールド変圧器	単相	50Hz		$E = 22.9S^{0.647}$	
		60Hz		$E = 23.4S^{0.643}$	
	三相	50Hz	500kVA以下		$E = 33.6S^{0.626}$
			500kVA超		$E = 24.0S^{0.727}$
		60Hz	500kVA以下		$E = 32.0S^{0.641}$
			500kVA超		$E = 26.1S^{0.716}$

- 備考) 1 「油入変圧器」とは、絶縁材料として絶縁油が使用されるものをいう。  
 2 「モールド変圧器」とは、樹脂製の絶縁材料が使用されるものをいう。  
 3 E 及び S は、次の数値を表すものとする。  
 E : 基準エネルギー消費効率 (単位 : W)  
 S : 定格容量 (単位 : kVA)  
 4 表の規定は、日本電機工業会規格 1482 及び 1483 に規定する標準仕様変圧器についても準用する。この場合において、表の右欄に掲げる基準エネルギー消費効率の算定式は、それぞれ当該算定式の右辺に 1.10 (モールド変圧器にあつては 1.05) を乗じた式として取り扱うものとする。  
 5 エネルギー消費効率の算定法については、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく経済産業省告示第 61 号 (平成 18 年 3 月 29 日) の「3 エネルギー消費効率の測定方法」による。

空調用機器	吸収冷温水機 (備考 1)	【判断の基準】 冷房の成績係数 (備考 2) が表に示された区分の数値以上であること。
-------	------------------	--

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「吸収冷温水機」は、冷凍能力が 25kW 以上のものとする。  
 2 吸収冷温水機の成績係数の算出方法は、JIS B 8622 による。

表 冷房の成績係数

区 分	成績係数
冷凍能力が 186kW 未満	1.10
冷凍能力が 186kW 以上	1.15

空調用機器	氷蓄熱式空調機器 (備考 1)	【判断の基準】(備考 2) 氷蓄熱槽を有していること。 冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 冷房の成績係数 (備考 3) が別表 3 に示された区分の数値以上であること。
-------	--------------------	---

- 備考) 1 「氷蓄熱式空調機器」とは、氷蓄熱ユニット又は氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーをいう。  
 2 「氷蓄熱式空調機器」の判断の基準は、氷蓄熱ユニットについては非蓄熱形相当冷却能力 (備考 4) が、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーについては定格蓄熱利用冷房能力 (備考 5) がそれぞれ 28kW 以上のものに適用する。  
 3 成績係数の算出方法は、以下の算定式により、昼間熱源機運転時間は 10 時間とする。

氷蓄熱ユニット (備考 6 ~ 9)

$$\text{成績係数} = \frac{\text{定格日量冷却能力 (kW} \cdot \text{h)}}{\text{定格蓄熱消費電力量 (kW} \cdot \text{h)} + \text{昼間熱源機冷却消費電力量 (kW} \cdot \text{h)}}$$

氷蓄熱式パッケージエアコンディショナー

$$\text{成績係数} = \text{日量蓄熱利用冷房効率}$$

- 4 「非蓄熱形相当冷却能力」とは、冷房時の時間当たり平均負荷率 (時間当たりのピーク負荷の負荷率を 100% とした時の平均負荷の割合) を 85% として、この時のピーク負荷熱量をいう。

- 5 「定格蓄熱利用冷房能力」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが別表1に規定された一定の定格冷房温度条件で、主として蓄熱を利用して室内から除去する熱量をいう。

別表1 温度条件

単位：

		室内側入口空気条件		室外側空気条件	
		乾球温度	湿球温度	乾球温度	湿球温度
冷房	定格冷房	27	19	35	-
	定格冷房蓄熱	-	-	25	-

- 6 「定格日量冷却能力」とは、蓄熱槽内に蓄熱した熱量のうちの正味有効蓄熱容量と、昼間熱源機冷却の運転によって冷却される熱量を合計して、冷水出口温度7で、二次側に供給できる日積算総熱量をいう。
- 7 「定格蓄熱消費電力量」とは、別表2に規定された蓄熱温度条件で定格蓄熱容量までに消費する電力(ブラインポンプ等の一次側補機の消費電力を含む。)を積算したものをいう。

別表2 温度条件

単位：

		室外側空気条件	
		乾球温度	湿球温度
冷却	定格冷却	35	-
	定格冷却蓄熱	25	-

- 8 「昼間熱源機冷却消費電力量」とは、別表2に規定された定格冷却温度条件で、熱源機と蓄熱槽が直列に接続されて運転された時に消費する電力を積算したものをいう。
- 9 「日量蓄熱利用冷房効率」とは、日量蓄熱利用冷房能力を日量蓄熱利用冷房消費電力量(備考11)で除した値をいう。
- 10 「日量蓄熱利用冷房能力」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが別表1に規定された一定の定格冷房蓄熱温度条件で、最大10時間蓄熱運転した後、別表1に規定された一定の定格冷房温度条件で、蓄熱利用冷房時間、蓄熱利用冷房運転する間に室内から除去する熱量を積算したものをいう。
- 11 「日量蓄熱利用冷房消費電力量」とは、氷蓄熱式パッケージエアコンディショナーが別表1に規定された一定の定格冷房蓄熱温度条件で、最大10時間蓄熱運転した間に消費する電力、及び別表1に規定された一定の定格冷房温度条件で、蓄熱利用冷房時間、蓄熱利用冷房運転する間に消費する室外機の電力を積算したものをいう。

別表3 冷房の成績係数

区 分	成績係数
氷蓄熱ユニット	2.2
氷蓄熱式パッケージエアコンディショナー	3.0

空調用機器	ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機	【判断の基準】 冷媒にオゾン層を破壊する物質が使用されていないこと。 成績係数が表1又は表2に示された区分の数値以上であること。
-------	--------------------	--

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機」は、定格冷房能力が28kW以上のものとする。

表1 JIS適合機種

区 分	期間成績係数 (APF)
冷房能力が28kW以上35kW未満	1.67以上
冷房能力が35kW以上	1.86以上

1 期間成績係数 (APF) の算出方法は、JIS B 8627-1による。

表2 JIS適合外機種

区 分	一次エネルギー換算成績係数 (COP)
冷房能力が28kW以上67kW未満	1.33以上
冷房能力が67kW以上	1.23以上

1 一次エネルギー換算成績係数の算出方法については、次式による。また、定格周波数が50ヘルツ・60ヘルツ共用のものにあつては、それぞれの周波数で測定した数値により算定した数値のうち小さい方の値とする。

$$COP = (C_c / (E_{gc} + E_{ec}) + C_h / (E_{gh} + E_{eh})) / 2$$

COP：一次エネルギー換算成績係数

C<sub>c</sub>：冷房標準能力 (単位：kW)

E<sub>gc</sub>：冷房ガス消費量 (単位：kW)

E<sub>ec</sub>：冷房消費電力 (単位：kW) を1 kWhにつき9,760 kJとして1次エネルギーに換算した値 (単位：kW)

C<sub>h</sub>：暖房標準能力 (単位：kW)

E<sub>gh</sub>：暖房ガス消費量 (単位：kW)

E<sub>eh</sub>：暖房消費電力 (単位：kW) を1 kWhにつき9,760 kJとして1次エネルギーに換算した値 (単位：kW)

2 冷房標準能力、冷房ガス消費量、暖房標準能力及び暖房ガス消費量については、JIS B8627-2又はB8627-3の規定する方法に準拠して測定する。

3 冷房消費電力、暖房消費電力については、室外機の実効消費電力とする。

配管材	排水・通気用再生硬質塩化ビニル管	<p>【判断の基準】</p> <p>建物屋内外の排水用の硬質塩化ビニル管であって、使用済塩化ビニル管を原料とする塩化ビニルが製品全体重量比で30%以上使用されていること。</p> <p>建物屋内の通気用の硬質塩化ビニル管であって、使用済塩化ビニル管を原料とする塩化ビニルが製品全体重量比で30%以上使用されていること。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>製品使用後に回収され、再生利用されるための仕組みが整っていること。</p>
-----	------------------	--

備考)「排水・通気用再生硬質塩化ビニル管」の判断の基準は、建物屋内外の排水用及び建物屋内の通気用に硬質塩化ビニル管を用いる場合においては、使用済塩化ビニル管を原料とするものを使用することを定めるものである。

衛生器具	自動水栓	<p>【判断の基準】</p> <p>電氣的制御により自動的に開閉できる自動水栓であること。</p>
	自動洗浄装置及びその組み込み小便器	<p>【判断の基準】</p> <p>洗浄水量が4L/回以下であり、また、使用状況により、洗浄水量が制御されること。</p>
	水洗式大便器	<p>【判断の基準】</p> <p>洗浄水量が10.5L/回以下であること。</p>

備考)本項の判断の基準の対象とする「水洗式大便器」は、洋風便器とする。

コンクリート用型枠	再生材料を使用した型枠	<p>【判断の基準】</p> <p>再生材料を使用した型枠については、再生材料(別表に掲げるものを原料としたもの)が原材料の重量比で50%以上(複数の材料が使用されている場合は、それらの材料の合計)使用されており、使用後の再リサイクルが行われていること。</p> <p style="text-align: center;">別表</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">再生材料の原料となるものの分類区分</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">再生プラスチック</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">古紙パルプ</td> </tr> </table> <p>【配慮事項】</p> <p>再生材料を使用した型枠については、通常品と同等の施工性及び経済性(材料費、転用回数、回収費、再生処理費等を考慮)が確保されたものであること。</p>	再生材料の原料となるものの分類区分	再生プラスチック	古紙パルプ
再生材料の原料となるものの分類区分					
再生プラスチック					
古紙パルプ					

備考) プレキャスト型枠等構造体の一部として利用する型枠及び化粧型枠は本品目の対象外とする。



表3【建設機械】

品目名	判断の基準等																				
排出ガス対策型建設機械	<p>【判断の基準】 搭載されているエンジンから排出される排出ガス成分及び黒煙の量が別表1に掲げる値以下のものであること。</p> <p>(別表1)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象物質(単位) 出力区分</th> <th>HC (g/kW・h)</th> <th>NOx (g/kW・h)</th> <th>CO (g/kW・h)</th> <th>黒煙 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.5～15kW未満</td> <td>2.4</td> <td>12.4</td> <td>5.7</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>15～30kW未満</td> <td>1.9</td> <td>10.5</td> <td>5.7</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>30～272kW以下</td> <td>1.3</td> <td>9.2</td> <td>5.0</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	対象物質(単位) 出力区分	HC (g/kW・h)	NOx (g/kW・h)	CO (g/kW・h)	黒煙 (%)	7.5～15kW未満	2.4	12.4	5.7	50	15～30kW未満	1.9	10.5	5.7	50	30～272kW以下	1.3	9.2	5.0	50
対象物質(単位) 出力区分	HC (g/kW・h)	NOx (g/kW・h)	CO (g/kW・h)	黒煙 (%)																	
7.5～15kW未満	2.4	12.4	5.7	50																	
15～30kW未満	1.9	10.5	5.7	50																	
30～272kW以下	1.3	9.2	5.0	50																	

備考)「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(平成17年5月25日成立、平成18年4月1日施行)において、排出ガス成分及び黒煙の量等を規定した技術基準が定められ、同法に基づく使用規制が平成18年10月1日より始まっていることから、同法で規制対象となる建設機械を使用する際は、法律に準拠した機械を使用すること。

品目名	判断の基準等																																														
低騒音型建設機械	<p>【判断の基準】 建設機械の騒音の測定値が別表2に掲げる値以下のものであること。</p> <p>(別表2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>機種</th> <th>機関出力(kW)</th> <th>騒音基準値 (dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">ブルドーザー</td> <td>P &lt; 55</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>55 P &lt; 103</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>103 P</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">バックホウ</td> <td>P &lt; 55</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>55 P &lt; 103</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>103 P &lt; 206</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ドラグライン クラムシェル</td> <td>206 P</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>P &lt; 55</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>55 P &lt; 103</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">トラクターショベル</td> <td>103 P &lt; 206</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>206 P</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>P &lt; 55</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">クローラークレーン トラッククレーン ホイールクレーン</td> <td>55 P &lt; 103</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>103 P &lt; 206</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>206 P</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>P &lt; 55</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>バイプロハンマー</td> <td></td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>油圧式杭抜機</td> <td>P &lt; 55</td> <td>98</td> </tr> </tbody> </table>	機種	機関出力(kW)	騒音基準値 (dB)	ブルドーザー	P < 55	102	55 P < 103	105	103 P	105	バックホウ	P < 55	99	55 P < 103	104	103 P < 206	106	ドラグライン クラムシェル	206 P	106	P < 55	100	55 P < 103	104	トラクターショベル	103 P < 206	107	206 P	107	P < 55	102	クローラークレーン トラッククレーン ホイールクレーン	55 P < 103	104	103 P < 206	107	206 P	107	P < 55	100	バイプロハンマー		107	油圧式杭抜機	P < 55	98
機種	機関出力(kW)	騒音基準値 (dB)																																													
ブルドーザー	P < 55	102																																													
	55 P < 103	105																																													
	103 P	105																																													
バックホウ	P < 55	99																																													
	55 P < 103	104																																													
	103 P < 206	106																																													
ドラグライン クラムシェル	206 P	106																																													
	P < 55	100																																													
	55 P < 103	104																																													
トラクターショベル	103 P < 206	107																																													
	206 P	107																																													
	P < 55	102																																													
クローラークレーン トラッククレーン ホイールクレーン	55 P < 103	104																																													
	103 P < 206	107																																													
	206 P	107																																													
	P < 55	100																																													
バイプロハンマー		107																																													
油圧式杭抜機	P < 55	98																																													

	油圧式鋼管圧入・引抜機	55	P < 103	102
	油圧式杭圧入引抜機	103	P	104
	アースオーガー		P < 55	100
		55	P < 103	104
		103	P	107
	オールケーシング掘削機		P < 55	100
		55	P < 103	104
		103	P < 206	105
		206	P	107
	アースドリル		P < 55	100
		55	P < 103	104
		103	P	107
	さく岩機(コンクリートブ レーカー)			106
	ロードローラー タイヤローラー 振動ローラー		P < 55	101
		55	P	104
コンクリートポンプ(車)		P < 55	100	
	55	P < 103	103	
	103	P	107	
コンクリート圧砕機		P < 55	99	
	55	P < 103	103	
	103	P < 206	106	
	206	P	107	
アスファルトフィニッ シャー		P < 55	101	
	55	P < 103	105	
	103	P	107	
コンクリートカッター			106	
空気圧縮機		P < 55	101	
	55	P	105	
発動発電機		P < 55	98	
	55	P	102	

表4【工法】

品目分類	品目名	判断の基準等
建設発生土有効利用工法	低品質土有効利用工法	【判断の基準】 施工現場で発生する粘性土等の低品質土を、当該現場内において利用することにより、建設発生土の場外搬出量を削減することができる工法であること。
建設汚泥再生処理工法	建設汚泥再生処理工法	【判断の基準】 施工現場で発生する建設汚泥を、再生利用を目的として現場内で盛土材や流動化処理土へ再生する工法であること。 再生処理土からの有害物質の溶出については、土壌の汚染に係る環境基準（平成3年8月23日環境庁告示第46号）を満たすこと。
コンクリート塊再生処理工法	コンクリート塊再生処理工法	【判断の基準】 施工現場で発生するコンクリート塊を、現場内再生利用を目的としてコンクリート又は骨材に再生処理する工法であること。

舗装（路盤）	路上再生路盤工法	【判断の基準】 既設舗装の路盤材とアスファルト・コンクリート層を粉砕して混合し、安定処理を施し、現位置で路盤を再生する工法であること。
--------	----------	--

備考) アスファルト混合物の層の厚さが10cm以下の道路において使用するものとする。

法面緑化工法	伐採材又は建設発生土を活用した法面緑化工法	【判断の基準】 施工現場における伐採材や建設発生土を、当該施工現場において有効利用する工法であること。 ただし、伐採材及び建設発生土を合算した使用量は、現地で添加する水を除いた生育基盤材料の容積比で70%以上を占めること。
--------	-----------------------	---

表5【目的物】

品目分類	品目名	判断の基準等
舗装	排水性舗装	<p>【判断の基準】</p> <p>雨水を道路の路面下に浸透させて排水溝に流出させ、かつ、道路交通騒音の発生を減少させることができる舗装であること。</p>

備考) 道路交通騒音を減少させる必要がある場合に使用するものとする。

舗装	透水性舗装	<p>【判断の基準】</p> <p>雨水を道路の路床に浸透させることができる舗装であること。</p>
----	-------	--

備考) 雨水を道路の路床に浸透させる必要のある歩行者道等の自動車交通がない道路の部分において使用するものとする。

屋上緑化	屋上緑化	<p>【判断の基準】</p> <p>植物の健全な生育及び生育基盤を有するものであること。 ヒートアイランド現象の緩和等都市環境改善効果を有するものであること。</p> <p>【配慮事項】</p> <p>屋上緑化に適した植物を使用するものであること。 灌水への雨水利用に配慮するとともに、植物の生育基盤の保水及び排水機能が適切に確保された構造であること。</p>
------	------	--

備考) 建物の屋上等において設置するものとする。

## 19 . 役務

### 19 - 1 省エネルギー診断

#### (1) 品目及び判断の基準

省エネルギー診断	<p><b>【判断の基準】</b>          省エネルギー診断の具体的項目に応じて、表1に掲げる技術資格を有する者若しくはこれと同等と認められる技能を有する者又はこれらの者を使用する法人が、他の者の空気調和設備、照明設備、熱源設備、受変電設備、制御設備及び給排水衛生設備等の稼働状況並びにエネルギー使用量について調査・分析を行い、それらの結果に基づき、更なるエネルギーの使用の合理化が図られるべく、設備・機器の導入、改修及び運用改善について表2の内容を含む提案が行われるものであること。</p>
----------	---

表1

一級建築士
一級建築施工管理技士
一級電気工事施工管理技士
一級管工事施工管理技士
技術士（建設、電気・電子、機械、衛生工学、環境）
エネルギー管理士（熱、電気）
建築設備士

表2

過去3年間程度のエネルギー消費実績及び光熱水費実績、設備の保有と稼働状況
設備・機器ごとのエネルギー消費量の実績又は推計及び推計根拠
エネルギー消費量に関するベースラインの推定と推定根拠
設備・機器の導入、改修、運用改善に伴う省エネルギー量の推計及び推計根拠
設備・機器の導入、改修、運用改善に伴う必要投資額及びその投資額に関する推定根拠

## 19 - 2 印刷

### (1) 品目及び判断の基準等

印刷（備考1、3）	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>印刷用紙に係る判断の基準（紙類参照）を満たす用紙が使用されていること。ただし、冊子形状のものについては表紙を除くものとし、紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生する端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。）が使用される場合にあっては、原料とされる原木はその伐採に当たって生産された国における森林に関する法令に照らして合法的なものであること。</p> <p>古紙再生の阻害要因となる次に掲げる材料等が使用されていないこと。ただし、印刷物の目的から冊子形状のものの表紙にやむを得ず次に掲げる材料等が使用されている場合は、使用部位、廃棄方法を記載すること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ホットメルト接着剤（難細裂化改良EVA系ホットメルト接着剤、ポリウレタン系ホットメルト接着剤及び水溶性ホットメルト接着剤を除く。）</li><li>・プラスチック類（紙のコーティング又はラミネートに使用するものを除く。）</li><li>・布類、不織布</li><li>・樹脂含浸紙（水溶性のものを除く。） 硫酸紙、捺染紙、感熱性発泡紙（点字印刷に用いる場合を除く。） 合成紙、インディアペーパー</li><li>・UVインキ（フォーム印刷に用いる場合又はハイブリッドUVインキを除く。） 発泡インキ（点字印刷に用いる場合を除く。） 金・銀・パールインキ（オフセット用のものを除く。）</li><li>・立体印刷物（印刷物にレンチキュラーレンズを貼り合わせたもの。）</li><li>・芳香付録品（芳香剤、香水、口紅等）</li></ul> <p>オフセット印刷については、芳香族成分（備考2）が1%以下の溶剤（動植物油系等の溶剤を含む。）のみを用いる印刷用インキが使用されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>表紙の表面加工等への有害物質の発生原因となる物質の使用が可能な限り抑制されていること。</p> <p>古紙再生の阻害要因となる次に掲げる材料等の使用が可能な限り抑制されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・カーボン紙、ノーカーボン紙</li><li>・ビニル又はポリエチレン等のラミネート紙</li><li>・感熱紙、芳香紙、色紙</li></ul> <p>原稿入稿後から刷版作成までの工程において、デジタル化の推進等（CTP、DDCP方式の採用等）により廃棄物の発生が可能な限り抑制されていること。</p> <p>製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p> <p>揮発性有機化合物の発生抑制に配慮されていること。</p> <p>紙の原料にバージンパルプ（間伐材及び合板・製材工場から発生す</p>
-----------	--

	る端材等の再生資源により製造されたバージンパルプを除く。)が使用される場合にあっては、原料とされる原木は持続可能な森林経営が営まれている森林から産出されたものであること。
--	---

- 備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「印刷」は、紙製の報告書類、ポスター、チラシ、パンフレット等の印刷とする。
- 2 「芳香族成分」とは、JIS K2536 に規定されている石油製品の成分試験法をインキ溶剤に準用して検出される芳香族炭化水素化合物をいう。
- 3 紙の原料となる原木についての合法性及び持続可能な森林経営が営まれている森林からの産出に係る確認を行う場合には、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成 18 年 2 月 15 日)」に準拠して行うものとする。
- ただし、平成 18 年 4 月 1 日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成 18 年 4 月 1 日の時点で原料・製品等を保管している者が証明書に平成 18 年 4 月 1 日より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

### 19 - 3 食堂

#### (1) 品目及び判断の基準等

食堂	<p><b>【判断の基準】</b> 庁舎又は敷地内において委託契約等により営業している食堂にあつては、次の要件を満たすこと。 生ゴミを減容及び減量する等再生利用に係る適正な処理が行われるものであること。 繰り返し利用できる食器が使われていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> 生ゴミ処理機等による処理後の生成物は肥料化、飼料化又はエネルギー化等により再生利用されるものであること。 生分解性の生ゴミ処理袋又は水切りネットを用いる場合は、生ゴミと一緒にコンポスト処理されること。</p>
----	---

備考) 会議等において提供される飲物等を庁舎又は敷地内において委託契約等により営業している食堂・喫茶店等の飲食店から調達する場合は、本項の判断の基準を準用する。



## 19 - 4 自動車専用タイヤ更生

### (1) 品目及び判断の基準等

自動車専用 タイヤ更生	<p><b>【判断の基準】</b> 第一寿命を磨耗終了した自動車専用タイヤの台タイヤ（ケーシング）に、踏面部のゴムを張り替えて機能を復元し、更生タイヤとして第二寿命における使用を可能にするものであること。</p> <p><b>【配慮事項】</b> ラジアル構造の推奨等製品の長寿命化に配慮されていること。 走行時の静粛性の確保に配慮されていること。 製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p>
----------------	---

備考) 本項の判断の基準の「自動車専用タイヤ更生」において対象とする「更生タイヤ」とは、JIS D4202 に規定するタイヤの種類のうち「小型トラック用タイヤ」「トラック及びバス用タイヤ」又は D6401 に規定する「産業車両用タイヤ」「建設車両用タイヤ」とする。

## 19 - 5 自動車整備

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>自動車整備 (備考2、3)</p>	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>自動車リサイクル部品(リユース部品(使用済自動車から取外され、品質確認及び清掃等を行い商品化された自動車部品をいう。)又はリビルド部品(使用済自動車から取り外され、磨耗又は劣化した構成部品を交換、再組み立て、品質確認及び清掃等を行い商品化された自動車部品をいう。))が使用されていること。(備考1)</p> <p>エンジン洗浄(備考4)を実施する場合にあっては、以下の要件を満たすこと。(備考5~7)</p> <p>ア. 大気汚染物質(炭化水素及び一酸化炭素)がエンジン洗浄実施前後において、20%以上削減されること。</p> <p>なお、エンジン洗浄を実施すべき自動車の状態については、大気汚染物質の発散防止のために通常必要となる整備の実施後において、炭化水素測定器及び一酸化炭素測定器による炭化水素及び一酸化炭素の測定結果が、表の区分ごとの値を超える場合とする。</p> <p>イ. エンジン洗浄の実施直後及び法定12ヶ月点検において判断の基準の効果を確認し、通常必要となる整備が適切に実施されており、かつエンジン洗浄実施前の測定値から20%以上削減されていなかった場合、無償で再度エンジン洗浄を実施する等の補償を行う体制が確保されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>製品の梱包は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。</p> <p>エンジン洗浄の環境負荷低減効果に係る情報の収集・蓄積が図られていること。また、エンジン洗浄に関する環境負荷低減効果や費用等に係る詳細な情報提供を積極的に行うとともに、当該情報が開示されていること。</p> <p>自動車整備に当たって、使用するエネルギーや溶剤等の資源の適正使用に努め、環境負荷低減に配慮されていること。</p>
--------------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準は、定期点検整備のほか、故障、事故等による自動車修理等を行うために、自動車整備事業者等に発注する役務であって、部品交換を伴うもの(消耗品の交換を除く。)を対象とする。

2 本項における「自動車」とは、普通自動車、小型自動車及び軽自動車(ただし、二輪車は除く。)をいう。

3 部品の種類により、商品のないもの又は適時での入手が困難な場合においては、新品部品のみによる整備についても本項の集計の対象とする。ただし、これを特定調達物品等としてみなすものではない。

4 本項の判断の基準の対象とする「エンジン洗浄」は、炭化水素測定器及び一酸化炭素測定器による測定を伴う定期点検整備等を行うため自動車整備事業者等に発注する役務であって、表の基準を超える場合に実施する自動車のエンジン燃焼室の洗浄により内部に蓄積されたカーボン・スラッジ等を取り除くものをいう。

5 本項の判断の基準については、ガソリンを燃料とする普通自動車、小型自動車及び軽自動車(2サイクル・エンジンを有するこれらのものを除く)を対象とする。

6 本項の判断の基準アのエンジン洗浄を実施すべき排出ガスの基準は、大気汚染防止法

に基づく自動車排出ガスの量の許容限度（昭和49年1月21日環境庁告示第1号）による。

7 エンジン洗浄を実施していない自動車整備事業者や自動車販売事業者からの当該作業の依頼については、対応を図る体制が確保されていること。

表 エンジン洗浄を実施すべき排出ガスの基準

自動車の種類	一酸化炭素（CO）	炭化水素（HC）
普通自動車、小型自動車	1%	300ppm
軽自動車	2%	500ppm

## 19 - 6 庁舎管理等

### (1) 品目及び判断の基準等

庁舎管理	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>庁舎管理において使用する物品が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。</p> <p>当該施設において実施すべき、次のアからエに関する措置等を選定するとともに、当該措置等に関連する設備・機器等の運転条件、計測頻度、保守・点検頻度、方法等の管理基準に基づき、実施状況を施設管理者に毎月報告すること。(備考2、3、5)</p> <p>ア．温湿度の適切な設定及び管理がなされていること。</p> <p>イ．照明効率を維持するための措置が講じられていること。</p> <p>ウ．空気調和設備、熱源設備のエネルギー効率を維持するための措置が講じられていること。</p> <p>エ．受変電設備、制御設備及び給排水衛生設備等について、適切な管理及び措置が講じられていること。</p> <p>常駐管理(備考1)にあつては、エネルギーの使用量、水の使用量及び廃棄物の排出量について施設管理者に毎月報告し、前月比又は前年同月比で著しく増加した場合は、施設管理者に次の提案が行われるものであること。また、使用量及び排出量が著しく減少した場合は、その要因についても検証すること。(備考2、5)</p> <p>ア．エネルギー使用量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な省エネルギー対策(施設利用者(備考4)と連携して行う省エネルギー対策を含む。)</p> <p>イ．水の使用量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な節水対策(施設利用者と連携して行う節水対策を含む。)</p> <p>ウ．廃棄物の排出量が増加した場合は、その要因分析及びその分析結果を踏まえた適切な廃棄物排出抑制対策、省資源対策(施設利用者と連携して行う廃棄物排出抑制対策、省資源対策を含む。)</p> <p>常駐管理以外にあつては、エネルギーの使用量、水の使用量及び廃棄物の排出量が前月比又は前年同月比で著しく増加した場合は、施設管理者と協力してその要因分析を行ない、削減対策について提案が行われるものであること。また、使用量及び排出量が著しく減少した場合は、その要因についても検証すること。(備考2、5)</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>エネルギーの使用の合理化に関する法律(昭和54年法律第49号)に基づく「工場又は事業場におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(経済産業省告示第65号(平成18年3月29日))」を踏まえ、建築物衛生法に基づく、建築物環境衛生管理基準等に配慮の上、庁舎におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。</p> <p>施設のエネルギー管理、使用実態に関する分析・評価に当たっては、各種管理・評価ツールの活用に努めていること。</p> <p>庁舎管理に空気調和設備のメンテナンスを含む場合にあつては、冷媒として用いられるフロン類の漏洩の防止及び充填等作業に伴う大気放出の抑制に努めていること。</p> <p>庁舎管理において使用する物品の調達に当たっては、特定調達品目に該当しない場合であっても、資源採取から廃棄に至るライフサイクル全体についての環境負荷の低減に考慮するよう努めていること。</p>
------	--

<p>植栽管理 (備考6)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>  植栽管理において使用する物品が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。  病虫害予防として、適切な剪定や刈込みを行って通風をよくし、日照等を確保するとともに、適切な防除手段を用いて、害虫や雑草の密度を低いレベルに維持する総合的病虫害・雑草管理を行う体制が確保されていること。(備考7、8)  農薬の使用の回数及び量の削減に努めているとともに、農薬取締法に基づいて登録された適正な農薬を、ラベルに記載されている使用方法(使用回数、使用量、使用濃度等)及び使用上の注意事項を守って、適正かつ効果的に使用されるものであること。(備考8)</p> <p><b>【配慮事項】</b>  灌水の雨水利用に配慮されていること。  剪定・除草において発生した、小枝・落葉等の処分について、堆肥化等の環境負荷低減が図られていること。  施肥に当たっては、植栽管理において発生した落葉等からできた堆肥(土壌改良材)が使用されていること。  植替え等が生じた場合、既存の植栽を考慮し、病虫害の発生しにくい樹種の選定等について、施設管理者への提案が行われること。  植栽管理に当たり、使用する機材・器具等については、可能な限り環境負荷低減策が講じられていること。</p>
-----------------------	--

- 備考) 1 「常駐管理」とは定められた時刻において、業務実施者が常駐し、常時施設の運転・監視及び日常点検・保守等の業務にあたる管理形態をいう。
- 2 庁舎管理に係る判断の基準、及びについては、役務の対象となる業務の範囲に当該基準に関連する内容が含まれる場合に適用するものとする。
- 3 庁舎管理に係る判断の基準の施設において実施すべき措置等は、当該施設の管理形態、建物の規模、設備・機器等の利用状況を勘案し、施設管理者と協議の上、別表を参考として選定するものとする。
- 4 「施設利用者」とは、入居者又は来庁者をいう。
- 5 庁舎管理に係る判断の基準、及びについては、施設の改修、大規模な設備・機器の更新・導入等の措置・対策は含まれないものとする。
- 6 本項の判断の基準の対象とする「植栽管理」とは、庁舎周辺等の植栽地及び屋上緑化等の管理とする。
- 7 植栽管理に係る判断の基準の「総合的病虫害・雑草管理を行う体制」とは、発生状況等の調査、被害の早期発見、剪定や捕殺などの物理的防除も含めた防除方法の選択等、経済性を考慮しつつ健康と環境への負荷の軽減を総合的に講じる体制をいう。
- 8 植栽管理に係る判断の基準及びについては、農薬の使用に係る施設管理者や周辺地域への情報提供、農薬の飛散防止、適正使用の記録の保持等、「住宅地等における農薬使用について(平成19年1月31日付18消安第11607号環水大土発第070131001号農林水産省消費・安全局長、環境省水・大気環境局長連名通知)」に準拠したものであること。

<p>清掃</p>	<p><b>【判断の基準】</b>          清掃において使用する物品が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。          洗面所の手洗い洗剤として石けん液又は石けんを使用する場合には、資源有効利用の観点から、廃油又は動植物油脂を原料とした石けん液又は石けんが使用されていること。          ごみの収集は、資源ごみ（紙類、缶、びん、ペットボトル等）、生ごみ、可燃ごみ、不燃ごみを分別し、適切に回収が実施されていること。          清掃に使用する床維持剤（ワックス）等の揮発性有機化合物の含有量が指針値以下であること。（備考1）          環境負荷低減に資する技術を有する適正な事業者であり、清掃方法等について、より環境負荷低減が図られる具体的提案が行われていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>          清掃に用いる洗剤、ワックス等は、使用量削減又は適正量の使用に配慮されていること。          補充品等は、過度な補充を行わないこと。          洗剤を使用する場合は、清掃用途に応じ適切な水素イオン濃度（pH）のものが使用されていること。（備考2）          清掃に使用する床維持剤（ワックス）等については、可能な限り指定化学物質（備考3）を含まないものが使用されていること。          清掃に当たって使用する電気、ガス等のエネルギーや水等の資源の削減に努めていること。          建物の状況に応じた清掃の適切な頻度を提案するよう努めていること。          清掃において使用する物品の調達に当たっては、特定調達品目に該当しない場合であっても、資源採取から廃棄に至るライフサイクル全体についての環境負荷の低減に考慮するよう努めること。</p>
<p>害虫防除 （備考4）</p>	<p><b>【判断の基準】</b>          害虫防除において使用する物品が特定調達品目に該当する場合は、判断の基準を満たしている物品が使用されていること。          殺そ剤及び殺虫剤の乱用を避け、生息状況等の調査を重視した総合的な防除措置が講じられていること。          害虫等の発生・侵入を防止するための措置が講じられていること。          防除作業にあたり、事前計画や目標が設定されていること。また、防除作業後に、効果判定（確認調査、防除の有効性評価等）が行われていること。          殺そ剤又は殺虫剤の使用に当たっては、薬事法上の製造販売の承認を得た医薬品又は医薬部外品を使用し、使用回数・使用量・使用濃度等、適正かつ効果的に行われていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>          生息状況等に応じた適切な害虫防除方法等を提案するよう努めていること。</p>

- 備考) 1 清掃における判断の基準 の揮発性有機化合物の指針値については、厚生労働省の定める室内濃度指針値に基づくものとする。
- 2 清掃の配慮事項 については、家庭用品品質表示法に基づく合成洗剤の水素イオン濃度（pH）の区分を参考とすること。
- 3 清掃の配慮事項 の「指定化学物質」とは、指定化学物質の環境への排出量の把握等及

び管理の改善の促進に関する法律の対象となる物質をいう。

- 4 本項の判断の基準と対象とする「害虫防除」は、建築物における衛生的環境の確保に関する法律を基本に、庁舎等のねずみ・昆虫、外来生物等その他人の健康を損なう事態を生じさせるおそれのある動物等の防除とする。

## 庁舎管理・利用に係る省エネルギー対策例

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		日常・定期点検	利用者の協力	管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
受変電設備	受変電室の室内温度の見直し	季節ごとに実施				
	デマンドの状況により手動によるこまめな調節	随時実施				
	進相用コンデンサによる力率管理の徹底（手動の場合）	随時実施				
照明設備	作業スペースの過剰照明、窓際の間引き	利用状況に応じ実施	利用状況に応じ実施			
	廊下・ホールの消灯、間引きの徹底	利用状況に応じ実施	利用状況に応じ実施			
	トイレ・給湯室不在時の消灯	毎日実施				
	空室・倉庫等の消灯	毎日実施	適宜実施			
	昼休みの消灯	毎日実施				
	残業時間帯における部分消灯、場所の集約化	毎日実施				
	始業点灯時間の短縮・制限	毎日実施				
	器具の清掃による照明効率の向上	年1回以上実施	年1回以上実施			
	定期的なランプ交換の実施	1回/2～3年	1回/2～3年			
	間仕切りの取り止め	適宜実施				
	OAルーバーの取り止め	適宜実施				
	機の配置、作業個所の適正化	適宜実施				
	ソーラータイマーのこまめな調整	月1回以上実施	月1回以上実施			
	局部照明の採用	随時実施				
	手動によるこまめな点消灯	随時実施				
	搬送設備	エレベータ・エスカレータの運転間引き	毎日実施			
階段利用の促進		毎日実施				
停止階の間引き		毎日実施				
庁舎内配送共同化の実施		毎日実施				
給排水・衛生設備	給湯時間の制限と給湯範囲の縮小	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
	夏期における手洗い場等の給湯の停止	当該期間毎日実施	当該期間適宜実施			
	給湯温度の設定変更	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
	使用上、支障の無い範囲で給水・給湯の分岐バルブを絞込み	適宜実施	適宜実施			



対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		日常・定期点検	利用者の協力	管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
給排気設備	機械室、電気室、倉庫の換気量の制限	随時実施	随時実施			
	不使用室の換気停止（倉庫、機械室等）	適宜実施	適宜実施			
	窓の開閉による自然換気の採用	季節・外気温に応じ実施	-			
	ファンベルトの点検・交換	年1回以上実施	年1回以上実施			
熱源・空調設備共通	室内設定温湿度条件の変更	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
	運転時間の短縮など機器の起動・停止期間の最適化	毎日実施	季節ごとに実施			
	季節毎・室内負荷状況に応じた運転方法の最適化	週1回以上実施	季節ごとに実施			
	空調終了前に関連補機（外調機・熱源機器）などの停止の励行	毎日実施	-			
	インテリア・ペリメータの年間冷暖房の取り止め	季節・外気温に応じ実施	-			
	温湿度センサの取付位置の適正化	適宜実施	適宜実施			
	吹出し口の位置、方向の調整による温度分布均一化	適宜実施	適宜実施			
	冷暖房期間の短縮化	季節・外気温に応じ実施	-			
	空室・倉庫等の空調換気の停止	適宜実施	適宜実施			
	運転時間の短縮	毎日実施	-			
	残業時間帯の空調制限	毎日実施	-			
	ブラインド・カーテンの休日前の閉止による休日明けの空調負荷の低減	毎日実施	-			
	早朝・深夜の清掃作業における空調制限	毎日実施	-			
	空調時間帯の扉・窓開放の禁止	季節・外気温に応じ実施	-			
	空調の障害となる間仕切り・家具の配置の変更	随時実施	-			
	共用部の温度設定を居室よりも緩和する措置の実施	毎日実施	季節ごとに実施			
個人差による衣服の調整など居室者に対する啓蒙活動の実施	季節ごとに実施	季節ごとに実施				
夏季における屋上等への散水の実施（気化熱による打ち水効果）	当該期間外気温に応じ実施	-				

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		日常・定期点検	利用者の協力	管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
個別空調機	各種センサを含む自動制御装置の適正保守の実施	随時実施	随時実施			
	エアフィルタの定期清掃の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	冷温水フィンコイルの定期清掃の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	空調の還気、吹出し口の障害物の撤去	随時実施	-			
	ウォーミングアップ制御の採用	毎日実施	-			
	空調立ち上げ時に対し定常運転後に設定温度を2～3上げる又は下げる措置の実施	季節・外気温に応じ実施	-			
	窓の開閉による自然換気の採用	季節・外気温に応じ実施	-			
	ナイトパージの実施	季節・外気温に応じ実施	-			
	ショートサーキットの防止	随時実施	随時実施			
	スケジュール運転の実施	随時実施	随時実施			
	ダクトのエア漏れ・水漏れ・保温材の脱落等について保守管理の徹底	年1回以上実施	年1回以上実施			
	全熱交換器の清掃管理	年2回以上実施	年2回以上実施			
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
	ゼロエネルギーバンドの最適化	毎日実施	-			
セントラル空調システム関連	省エネ温度管理の実施（冷水は高め、温水は低め）	毎日実施	-			
	冷温水の大温度差運転の制御運転の実施（ポンプの搬送動力の低減）	随時実施	-			
	冷温水・冷却水の定期的な水質管理の実施（熱伝導率低下の防止）	月1回以上実施	月1回以上実施			
	空調終了30分程度前での熱源機器の停止	毎日実施	-			
ボイラ	空気比・排ガス温度等燃焼装置の最適化の実施	随時実施	随時実施			
	伝熱面の清掃・スケール等の除去	年1回以上実施	年1回以上実施			
	熱交換器類の伝熱面の管理	月1回以上実施	月1回以上実施			
	ボイラーの水質管理	月1回以上実施	月1回以上実施			
	蒸気トラップの機能維持（ドレンの回収）の実施	月1回以上実施	月1回以上実施			
	機器のCOP値（効率）の管理	随時実施	-			

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		日常・定期点検	利用者の協力	管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
冷凍機	冷凍機の運転圧力の適正管理	随時実施	随時実施			
	蒸発器・凝縮器の薬洗・ブラシ清掃などのチューブ内部洗浄の実施	適宜実施	適宜実施			
	温度計・圧力計などの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	マンオメーター・センサーなどの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	機器のCOP値（効率）の管理	随時実施	-			
冷温水発生機・吸収式冷凍機	機内の機密の適正な維持管理	随時実施	随時実施			
	蒸発器・凝縮器の薬洗・ブラシ清掃などのチューブ内部洗浄の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	温度計・圧力計などの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	マンオメーター・センサーなどの計測機器の機能維持、点検整備の実施	年2回以上実施	年2回以上実施			
	機器のCOP値（効率）の管理	随時実施	-			
冷却塔	充填材の汚れ、水質の汚れ等の管理	随時実施	随時実施			
	冷却塔水槽の清掃	随時実施	随時実施			
	冷却水の薬注管理の実施	随時実施	随時実施			
ポンプ関連	二次ポンプの起動・停止・圧力・流量の最適化の実施	随時実施	-			
	グランドパッキン等の水量適正管理の実施	月1回以上実施	月1回以上実施			
	断熱材の状態管理	年2回以上実施	年2回以上実施			
	3管・4管式設備の場合、状況に応じた運転停止などの実施	随時実施	-			
蓄熱槽	蓄熱槽における水・氷蓄熱量の最適化運転の実施	随時実施	-			
	槽内温度分布の適正管理	随時実施	-			
ファンコイル	ペリメータ用ファンコイルの運転最適化（時間帯・設定温度）	季節・外気温に応じ実施	-			
	エアフィルタの定期的な清掃	月1回以上実施	月1回以上実施			
	冷温水フィンコイルの定期的な清掃	年2回以上実施	年2回以上実施			
	空調の還気、吹出し口の障害物の撤去	随時実施	-			

対象設備等	省エネルギー対策（例）	管理基準（例）		日常・定期点検	利用者の協力	管理運用面
		常駐管理	常駐管理以外			
空冷ヒートポンプ	室外機フィンコイルの定期的な洗浄	年1回以上実施	年1回以上実施			
	室内機フィンコイルの定期的な洗浄	年1回以上実施	年1回以上実施			
	室内機のエアフィルタの定期的な清掃	月1回以上実施	月1回以上実施			
	運転圧力・運転電流などによる運転状況の確認・管理	毎日実施	-			
	全熱交換器の清掃	年2回以上実施	年2回以上実施			
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
水冷パッケージ方式	室内機フィンコイルの定期的な洗浄	年1回以上実施	年1回以上実施			
	エアフィルタの定期的な清掃	月1回以上実施	月1回以上実施			
	運転圧力・運転電流などによる運転状況の確認・管理	毎日実施	-			
	全熱交換器の清掃	年2回以上実施	年2回以上実施			
	全熱交換器の停止措置	季節・外気温に応じ実施	季節ごとに実施			
	冷却水薬洗の実施	年1回以上実施	年1回以上実施			
その他	自動販売機の節電（照明を消灯・夜間運転停止時）の実施	毎日実施	-			
	OA機器は昼休み等にスイッチをOFF	毎日実施	-			
	ブラインド・カーテンの有効利用	毎日実施	-			
	省エネに必要なエネルギーデータの把握	毎日実施	月1回以上実施			

注：「日常・定期点検」は日常点検・定期点検業務で実施可能な項目

「利用者の協力」は施設利用者（入居者、来庁者）に協力を求めることにより実施可能な項目

「管理・運用面」は設備・機器等の管理・運用面において実施可能な項目

## 19 - 7 輸配送

### (1) 品目及び判断の基準等

<p>輸配送 (備考1)</p>	<p><b>【判断の基準】</b>            エネルギーの使用の実態、エネルギーの使用の合理化に係る取組効果の把握が定期的に行われていること。            エコドライブを推進するための措置が講じられていること。(備考2、3)            大気汚染物質の排出削減、エネルギー効率の維持等環境の保全のため車両の点検・整備を実施していること。(備考4)            モーダルシフト(備考5)を実施していること。            輸配送効率の向上のための措置が講じられていること。(備考6)            上記 については使用実態、取組効果の数値が、上記 から については実施の有無がウェブを始め環境報告書(備考7)等により公表され、容易に確認できること、又は第三者により客観的な立場から審査されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b>            エネルギーの使用の合理化に関する法律(昭和54年法律第49号)に基づく「貨物の輸送に係るエネルギーの使用の合理化に関する貨物輸送事業者の判断の基準(経済産業省・国土交通省告示第7号(平成18年3月31日))」を踏まえ、輸配送におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。            低燃費・低公害車の導入を推進するとともに、可能な限り低燃費・低公害車による輸配送が実施されていること。(備考8)            輸配送に使用する車両台数を削減するため積載率の向上が図られていること。            輸配送回数を削減するために共同輸配送が実施されていること。            エコドライブを推進するための装置が可能な限り導入されていること。            道路交通情報通信システム(VICS)対応カーナビゲーションシステムや自動料金収受システム(ETC)等、高度道路交通システム(ITS)の導入に努めていること。            販売されている宅配便、小包郵便物等の包装用品については、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。            事業所、集配拠点等の施設におけるエネルギー使用実態の把握を行うとともに、当該施設におけるエネルギー使用量の削減に努めていること。            契約により輸配送業務の一部を行う者(備考9)に対して、可能な限り環境負荷低減に向けた取組を実施するよう要請するものとする。</p>
----------------------	---

備考) 1 本項の判断の基準の対象とする「輸配送」とは、国内向けの信書、宅配便、小包郵便物(一般、冊子等)及びメール便をいう。

- 1) 「信書」とは、特定の受取人に対し、差出人の意思を表示し、又は事実を通知する文書をいう。
- 2) 「宅配便」とは、一般貨物自動車運送事業の特別積合せ貨物運送又はこれに準ずる貨物の運送及び利用運送事業の鉄道貨物運送、内航海運、貨物自動車運送、航空貨物運送のいずれか又はこれらを組み合わせて利用する運送であって、重量 30kg 以下の一口一個の貨物をいう。
- 3) 「メール便」とは、書籍、雑誌、商品目録等比較的軽量の荷物を荷送人から引き受け、それらを荷受人の郵便受箱等に投函することにより運送行為を終了する運送サービスであって、重量 1kg 以下の一口一冊の貨物をいう。

- 2 「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」(平成 18 年 10 月)をいう。
- (参考) ふんわりアクセル『e スタート』 加減速の少ない運転 早めのアクセルオフ  
エアコンの使用を抑えめに アイドリングストップ 暖機運転は適切に 道路交通情報の活用 タイヤの空気圧をこまめにチェック 不要な荷物は積まずに走行 駐車場所に注意
- 3 判断の基準 の「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。
- ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。
- イ．エコドライブに係る管理責任者の設置、マニュアルの作成(既存マニュアルの活用を含む) エコドライブの推進体制を整備していること。
- ウ．エコドライブに係る教育・研修等を実施していること。
- エ．運行記録を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行っていること。
- 4 判断の基準 の「車両の点検・整備」とは、日常点検、定期点検の実施等道路運送車両法等において規定されている事項を遵守するほか、車両のエネルギー効率を維持する等環境の保全を目的に、別表に示した点検・整備項目に係る自主的な管理基準を定め、実施していることをいう。
- 5 「モーダルシフト」とは、貨物輸送において、環境負荷の少ない大量輸送機関である鉄道貨物輸送・内航海運の活用により、輸送機関(モード)の転換(シフト)を図ることをいう。
- 6 判断の基準 の「輸配送効率の向上のための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。
- ア．エネルギーの使用に関して効率的な輸配送経路を事前に選択し、運転者に周知していること。
- イ．渋滞情報等を把握することにより、適切な輸配送経路を選択できる仕組みを有していること。
- ウ．輸配送量、地域の特性に応じた適正車種の選択をしていること。
- エ．輸配送先、輸配送量に応じて拠点経由方式と直送方式を使い分け、全体として輸配送距離を短縮していること。
- 7 「環境報告書」とは、環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(平成 16 年法律 77 号)第 2 条第 4 項に規定する環境報告書をいう。
- 8 配慮事項 の低燃費・低公害車とは、本基本方針に示した「10 - 1 自動車」を対象とする。
- 9 「契約により輸配送業務の一部を行う者」とは、本項の役務の対象となる輸配送業務の一部を当該役務の提供者のために実施するものをいう。

## 車両のエネルギー効率の維持等環境の保全に係る点検・整備項目

<b>【点検・整備の推進体制】</b>	
	点検・整備は、明示された実施計画に基づき、その結果を把握し、記録として残していること。
	点検・整備結果に基づき、点検・整備体制や取組内容について見直しを行う仕組みを有すること。
<b>【車両の適切な点検・整備】</b>	
	点検・整備を整備事業者に依頼するに当たっては、車両の状態を日常から把握し、その状況について伝えていること。
	目視により黒煙が増加してきたと判断された場合には、点検・整備を実施していること。
	フロン類の大気中への放出を抑制するため、カーエアコンの効き具合等により、エアコンガスが減っている（漏れている）と判断された場合には、カーエアコンの点検・整備を実施していること。
<b>【自主的な管理基準による点検・整備】</b>	
	<b>（エア・クリーナ・エレメント関連）</b>
	エア・クリーナ・エレメントの清掃・交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（エンジンオイル関連）</b>
	エンジンオイルの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	エンジンオイルフィルタの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（燃料装置関連）</b>
	燃料装置のオーバーホールや交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（排出ガス減少装置関連）</b>
	排出ガス減少装置（DPF、酸化触媒）の点検に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（その他）</b>
	タイヤの空気圧の点検・調整は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、空気圧の測定に基づき実施していること。
	トランスミッションオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	トランスミッションオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	デファレンシャルオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	デファレンシャルオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。

注：「 」は車両の点検・整備に当たって必ず実施すべき項目

「 」は車両の点検・整備に当たって実施するよう努めるべき項目

## 19 - 8 旅客輸送（自動車）

### (1) 品目及び判断の基準等

旅客輸送	<p><b>【判断の基準】</b></p> <p>エネルギーの使用の実態、エネルギーの使用の合理化に係る取組効果の把握が定期的に行われていること。</p> <p>エコドライブを推進するための措置が講じられていること。(備考1、2)</p> <p>エネルギー効率を維持する等環境の保全のため車両の点検・整備を実施していること。(備考3)</p> <p>旅客輸送効率の向上のための措置又は空車走行距離の削減のための措置が講じられていること。(備考4)</p> <p>上記 については使用実態、取組効果の数値が、上記 から については実施の状況がウェブをはじめ環境報告書(備考6)等により公表され、容易に確認できること、又は第三者により客観的な立場から審査されていること。</p> <p><b>【配慮事項】</b></p> <p>エネルギーの使用の合理化に関する法律（昭和54年法律第49号）に基づく「旅客の輸送に係るエネルギーの使用の合理化に関する旅客輸送事業者の判断の基準（経済産業省・国土交通省告示第6号（平成18年3月31日）」を踏まえ、旅客輸送におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施が図られていること。</p> <p>低燃費・低公害車の導入を推進するとともに、可能な限り低燃費・低公害車による旅客輸送が実施されていること。(備考5)</p> <p>エコドライブを推進するための装置が可能な限り導入されていること。</p> <p>道路交通情報通信システム（VICS）対応カーナビゲーションシステムや自動料金収受システム（ETC）等、高度道路交通システム（ITS）の導入に努めていること。</p> <p>事業所、営業所等におけるエネルギー使用実態の把握を行うとともに、当該施設におけるエネルギー使用量の削減に努めていること。</p> <p>GPS-AVMシステムの導入による効率的な配車に努めていること。</p>
------	---

備考) 1 「エコドライブ」とは、エコドライブ普及連絡会作成「エコドライブ 10 のすすめ」(平成18年10月)をいう。

(参考) ふんわりアクセル『eスタート』 加減速の少ない運転 早めのアクセルオフ  
エアコンの使用を控えめに アイドリングストップ 暖機運転は適切に 道路交通情報の活用  
タイヤの空気圧をこまめにチェック 不要な荷物は積まずに走行 駐車場所に注意

2 判断の基準 の「エコドライブを推進するための措置」とは、次の要件をすべて満たすことをいう。

ア．エコドライブについて運転者への周知がなされていること。

イ．エコドライブに係る管理責任者の設置、マニュアルの作成（既存マニュアルの活用を含む）エコドライブの推進体制を整備していること。

ウ．エコドライブに係る教育・研修等を実施していること。

エ．運行記録を運転者別・車種別等の適切な単位で把握し、エネルギーの使用の管理を行っていること。

3 判断の基準 の「車両の点検・整備」とは、日常点検、定期点検の実施等道路運送車両法等において規定されている事項を遵守するほか、車両のエネルギー効率を維持する等環境の保全を目的に、別表に示した点検・整備項目に係る自主的な管理基準を定め、実施し



ていることをいう。

- 4 判断の基準 の「旅客輸送効率の向上のための措置」及び「空車走行距離の削減ための措置」とは、次の要件を満たすことをいう。

一般貸切旅客自動車にあつては次の要件ア及びイを満たすことをいう。

ア．エネルギーの使用に関して効率的な旅客輸送経路を事前に選択し、運転者に周知していること。

イ．輸送人数、地域の特性に応じた適正車種の選択をしていること。

一般乗用旅客自動車にあつては次の要件ウを満たすことをいう。

ウ．配車に無線を導入していること、あるいは他の通信・情報機器等を利用し運転者との連絡が取れる体制を有していること。

- 5 配慮事項 の低燃費・低公害車とは、本基本方針に示した「10 - 1 自動車」を対象とする。

- 6 「環境報告書」とは、環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（平成 16 年法律 77 号）第 2 条第 4 項に規定する環境報告書をいう。

## 車両のエネルギー効率の維持等環境の保全に係る点検・整備項目

<b>【点検・整備の推進体制】</b>	
	点検・整備は、明示された実施計画に基づき、その結果を把握し、記録として残していること。
	点検・整備結果に基づき、点検・整備体制や取組内容について見直しを行う仕組みを有すること。
<b>【車両の適切な点検・整備】</b>	
	車両の状態を日常から把握し、環境に対して影響のある現象が確認された時には、直ちに点検・整備を実施していること。
	ディーゼル車にあつては、目視により黒煙が増加してきたと判断された場合には、点検・整備を実施していること。
	フロン類の大気中への放出を抑制するため、カーエアコンの効き具合等により、エアコンガスが減っている（漏れている）と判断された場合には、カーエアコンの点検・整備を実施していること。
<b>【自主的な管理基準による点検・整備】</b>	
	<b>（エア・クリーナ・エレメント関連）</b>
	ディーゼル車にあつては、エア・クリーナ・エレメントの清掃・交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（エンジンオイル関連）</b>
	エンジンオイルの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	エンジンオイルフィルタの交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（燃料装置関連）</b>
	ディーゼル車にあつては、燃料装置のオーバーホールや交換に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（排出ガス減少装置関連）</b>
	ディーゼル車にあつては、排出ガス減少装置（DPF、酸化触媒）の点検に当たっては、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	<b>（その他）</b>
	タイヤの空気圧の点検・調整は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、空気圧の測定に基づき実施していること。
	トランスミッションオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	トランスミッションオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	デファレンシャルオイルの漏れの点検は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。
	デファレンシャルオイルの交換は、メーカーのメンテナンスノート等を参考に、走行距離又は使用期間による自主的な管理基準を設定し、実施していること。

注：「 」は車両の点検・整備に当たって必ず実施すべき項目

「 」は車両の点検・整備に当たって実施するよう努めるべき項目

## 19 - 9 照明機能提供業務

### (1) 品目及び判断の基準等

蛍光灯機能提供業務	<p><b>【判断の基準】</b> 次の要件を満たす機能提供型サービス（サービサイジング）<b>（備考1）</b>であること。 使用目的に不都合がなく器具に適合する場合、蛍光灯に係る判断の基準（ランプ参照）を満たす蛍光灯が使用されていること。 回収した蛍光灯のうち成型品で回収されたものについては再資源化率が95%以上であること。 蛍光灯の適正処理終了を示す証明書を発行し、顧客に提示できること。 <b>（備考2）</b></p> <p><b>【配慮事項】</b> 使用済み蛍光灯の回収容器は、繰り返し使えるものを使用するなど、環境負荷低減に配慮されていること。 製品の包装は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮されていること。 使用済み蛍光灯の回収に当たっては、施設管理者と協力し、成型品で回収するよう努めていること。 蛍光灯の配送・回収に関し、定期ルート便や共同配送等の効率的な物流網を構築していること。</p>
-----------	--

備考) 1 本項の判断の基準の「機能提供型サービス（サービサイジング）」とは、蛍光灯の所有権を業務提供者から移さず機能のみを提供し、輸送・回収・廃棄にかかる責任を業務提供者が負う役務をいう。

2 判断の基準 の「蛍光灯の適正処理終了を示す証明書」は、電子マニフェストや IT を活用したマニフェスト管理システムなど証明書に準ずるものでも可能とする。

## 19 - 10 小売業務

### (1) 品目及び判断の基準等

庁舎等において営業を行う小売業務	<p><b>【判断の基準】</b> 庁舎又は敷地内において委託契約等によって営業を行う小売業務の店舗にあつては、容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために、次のいずれかの要件を満たすこと。 容器包装の過剰な使用を抑制するための独自の取組が行われていること。<b>(備考1)</b> 消費者の容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するための独自の取組が行われていること。<b>(備考2)</b></p> <p><b>【配慮事項】</b> 店舗において取り扱う商品については、可能な限り簡易包装等により容器包装の使用量を削減した商品であること。</p>
------------------	---

備考) 1 判断の基準 の独自の取組とは、薄肉化又は軽量化された容器包装を使用すること、商品に応じて適正な寸法の容器包装を使用することその他の小売業者自らが容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために取り組む措置をいう。

2 判断の基準 の独自の取組とは、商品の販売に際して消費者に容器包装を有償で提供すること、自ら買物袋等を持参しない消費者に対し繰り返し使用が可能な買物袋等を提供すること、容器包装の使用に関する意思を消費者に確認することその他の消費者による容器包装廃棄物の排出の抑制を促進するために取り組む措置をいう。